

HAKODATE NURSING SCHOOL

Syllabus

2026 年度入学生 授業要綱



学校法人 野又学園
函館看護専門学校

教育課程表 (目次)

基礎分野					専門分野				
科目	単位	時間数	ページ	科目	単位	時間数	ページ		
キャリアプランニングⅠ	1	15	1	地域・在宅看護概論	6	150			
キャリアプランニングⅡ	1	15	2	地域・在宅看護概論	2	30	60		
国語表現	1	30	3	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30	61		
情報科学	1	30	4、5	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	62、63		
研究方法論	1	15	6	地域・在宅看護援助論Ⅲ	1	30	64、65		
社会学	1	30	7	地域・在宅看護援助論Ⅳ	1	30	66、67		
文学	1	15	8	成人看護学	7	195			
心理学	1	30	9	成人看護学概論	1	15	68		
文化人類学	1	15	10	成人看護学援助論Ⅰ	1	30	69、70		
法学	1	15	11	成人看護学援助論Ⅱ	1	30	71		
教育学	1	30	12	成人看護学援助論Ⅲ	1	30	72		
人間関係論	1	15	13	成人看護学援助論Ⅳ	1	30	73		
英語	1	30	14	成人看護学援助論Ⅴ	1	30	74		
家族論	1	15	15	成人看護学援助論Ⅵ	1	30	75、76		
健康科学	1	30	16、17	老年看護学	4	105			
小計	15	330		老年看護学概論	1	15	77		
形態機能学Ⅰ	1	30	18	老年看護学援助論Ⅰ	1	30	78		
形態機能学Ⅱ	1	30	19	老年看護学援助論Ⅱ	1	30	79		
形態機能学Ⅲ	1	30	20	老年看護学援助論Ⅲ	1	30	80		
形態機能学Ⅳ	1	30	21	小児看護学	4	105			
形態機能学Ⅴ	1	30	22	小児看護学概論	1	15	81		
総合形態機能学	1	30	23	小児看護学援助論Ⅰ	1	30	82		
生化学	1	15	24	小児看護学援助論Ⅱ	1	30	83、84		
疾病論Ⅰ	1	15	25	小児看護学援助論Ⅲ	1	30	85		
疾病論Ⅱ	1	15	26	母性看護学	4	105			
疾病論Ⅲ	1	15	27	母性看護学概論	1	15	86		
疾病論Ⅳ	1	15	28	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	87		
疾病論Ⅴ	1	15	29	母性看護学援助論Ⅱ	1	30	88		
疾病論Ⅵ	1	15	30	母性看護学援助論Ⅲ	1	30	89		
疾病論Ⅶ	1	15	31	精神看護学	4	105			
疾病論Ⅷ	1	15	32	精神看護学概論	1	30	90		
疾病論Ⅸ	1	15	33	精神保健	1	30	91		
疾病論Ⅹ	1	15	34	精神看護学援助論Ⅰ	1	30	92、93		
疾病論Ⅺ	1	15	35	精神看護学援助論Ⅱ	1	15	94		
疾病論Ⅻ	1	15	36	看護の統合と実践	4	120			
治療論	1	30	37、38	災害看護	1	30	95、96		
薬理学	1	30	39	国際看護	1	30	97		
保健医療論	1	15	40	看護管理	1	30	98		
公衆衛生学	2	30	41	総合技術	1	30	99		
社会福祉	1	15	42	臨地実習	23	690			
関係法規	2	30	43	基礎看護実習Ⅰ	1	30	100		
小計	27	525		基礎看護実習Ⅱ	2	60	101		
基礎看護学	14	375		地域・在宅看護実習Ⅰ	1	30	102、103		
基礎看護学概論	1	30	44	地域・在宅看護実習Ⅱ	1	30	104、105		
基礎看護学技術Ⅰ	1	30	45	成人看護実習Ⅰ	3	90	106、107		
基礎看護学技術Ⅱ	1	30	46	成人看護実習Ⅱ	3	90	108、109		
基礎看護学技術Ⅲ	1	30	47	老年看護実習Ⅰ	1	30	110、111		
基礎看護学技術Ⅳ	1	30	48	老年看護実習Ⅱ	2	60	112		
基礎看護学技術Ⅴ	1	15	49	小児看護実習	2	60	113、114		
基礎看護学技術Ⅵ	1	30	50、51	母性看護実習	2	60	115、116		
基礎看護学技術Ⅶ	1	30	52、53	精神看護実習Ⅰ	1	30	117、118		
基礎看護学技術Ⅷ	1	15	54	精神看護実習Ⅱ	2	60	119		
基礎看護学技術Ⅸ	1	30	55	統合実習	2	60	120		
基礎看護学援助論Ⅰ	1	15	56	合計	112	2805			
基礎看護学援助論Ⅱ	1	30	57						
基礎看護学援助論Ⅲ	1	30	58						
基礎看護学援助論Ⅳ	1	30	59						

2026年度入学生 担当講師一覧

分野	科目名	担当教員
基礎分野	キャリアプランニングⅠ	野又 淳司
	キャリアプランニングⅠ	太田希子・蛭名千昌
	キャリアプランニングⅠ	吉田 美奈子
	キャリアプランニングⅡ	笹木 郁哉
	キャリアプランニングⅡ	深川知恵子・小林恵理子
	国語表現	内藤 一志
	情報科学	風間和夫・山崎幸路
	研究方法論	非常勤講師
	社会学	長谷山 哲平
	文学	内藤 一志
	心理学	林 美都子
	文化人類学	有井 晴香
	法学	永盛 恒男
	教育学	風間 和夫
	人間関係論	川淵 ゆかり
	英語	トーマス・ジョン・ニコラス
	家族論	岡崎 圭子
	健康科学	非常勤講師
	健康科学	林美都子・小林貴美子
	専門基礎分野	形態機能学Ⅰ
形態機能学Ⅰ		女性生殖器 小葉松 洋子
形態機能学Ⅰ		口・咽頭の構造と機能 中里 紘
形態機能学Ⅰ		目の構造と視覚 高野 睦子
形態機能学Ⅰ		耳の構造と聴覚・平衡覚・嗅覚 大島 陸
形態機能学Ⅱ		呼吸・循環・体温 石田千春・竹林徹 伊藤 蓮
形態機能学Ⅲ		消化・吸収 児嶋 哲文
形態機能学Ⅳ		ホメオスタシス 安斎治一・鈴木勝雄
形態機能学Ⅴ		知覚・認識・運動 藤本奈美・井口文子
総合形態機能学		中井幾子・影浦麻美
生化学		川合 祐史
疾病論Ⅰ		総論 澁田 達史
疾病論Ⅱ		微生物・感染症 小熊 恵二
疾病論Ⅲ		循環器 高橋 肇
疾病論Ⅳ		呼吸器 竹澤 周子
疾病論Ⅴ		血液・造血器 川村 詔導
疾病論Ⅵ		消化器 非常勤講師
疾病論Ⅶ		自己免疫疾患・内分泌・代謝系 安斎 治一
疾病論Ⅷ		運動器 非常勤講師
疾病論Ⅸ		脳・神経 非常勤講師
疾病論Ⅹ		腎・泌尿器 高橋敦・神文香・小原史生
疾病論Ⅹ		女性生殖器 小葉松 洋子
疾病論Ⅺ		感覚器系：眼科 高野 睦子
疾病論Ⅺ		感覚器系：歯科 中里 紘
疾病論Ⅺ		感覚器系：耳鼻 大島 陸
疾病論Ⅺ		小児 吉村英敦・齋田吉伯
疾病論Ⅻ		在宅 滝沢 礼子
疾病論Ⅻ		在宅 山田佳世・猪野越健一
疾病論Ⅻ		精神 非常勤講師
治療論		外科的治療（手術療法含む） 松田 華加
治療論		麻酔 澁田 達史
治療論		救命救急 澁田 達史
治療論		食事療法 木幡 恵子
治療論		放射線療法：医師 賀口 寿乃
治療論		放射線療法：技師 大須田 恒一
治療論		理学療法 中釜 郁
治療論		作業療法 佐藤 大樹
治療論		言語療法 堺谷 富美子
薬理学		横山 基樹
保健医療論		中田 智明
公衆衛生学	非常勤講師	
社会福祉	寺尾 賢一	
関係法規	澤田信子・小林美紗	
専門分野	基礎看護学概論	太田 希子
	基礎看護学技術Ⅰ	スクリーニング 笹木 郁哉
	基礎看護学技術Ⅱ	フィジカルアセスメント 小笠原 直美
	基礎看護学技術Ⅲ	看護過程 長崎 加奈
	基礎看護学技術Ⅳ	安全・安楽 立石 加津代
	基礎看護学技術Ⅳ	審法・無菌操作 影浦 麻美（中井幾子）

分野	科目名	担当教員
専門分野	基礎看護学技術Ⅴ	環境 長崎 加奈
	基礎看護学技術Ⅵ	清潔・衣生活 川崎美蘭・佐藤愛子
	基礎看護学技術Ⅶ	食事・排泄 小笠原 直美
	基礎看護学技術Ⅶ	活動・休息 吉田 妙恵子
	基礎看護学技術Ⅷ	コミュニケーション 吉田 妙恵子
	基礎看護学技術Ⅸ	看護研究 笹木 郁哉
	基礎看護学援助論Ⅰ	検査・治療・処置 長崎 加奈
	基礎看護学援助論Ⅱ	検査・治療・処置 長崎 加奈
	基礎看護学援助論Ⅲ	検査・治療・処置 川崎 美蘭・影浦 麻美
	基礎看護学援助論Ⅳ	症状別 立石 加津代
	地域・在宅看護概論	蛭名 千昌
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	保坂 明美
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	離島フィールドワーク 太田希子 佐藤愛子・川崎美蘭
	地域・在宅看護援助論Ⅲ	自助・互助・共助 川崎美蘭・蛭名千昌 中井幾子
	地域・在宅看護援助論Ⅳ	地域の保健室 吉田 妙恵子・蛭名千昌
	成人看護学概論	佐藤 愛子
	成人看護学援助論Ⅰ	佐藤 愛子
	成人看護学援助論Ⅰ	非常勤講師
	成人看護学援助論Ⅱ	成人の看護過程の展開 佐藤 愛子
	成人看護学援助論Ⅲ	呼吸器 木下 絵里・越田 聡美
	成人看護学援助論Ⅲ	循環器 小林 鴻介
	成人看護学援助論Ⅳ	内分泌 大泉 あき子
	成人看護学援助論Ⅳ	消化器 北島 星莉奈
	成人看護学援助論Ⅴ	脳・神経 西田 知与
	成人看護学援助論Ⅴ	運動器 村田 望
	成人看護学援助論Ⅵ	血液・造血器 伊藤 蓮
	成人看護学援助論Ⅵ	腎・泌尿器 水野 理恵
	成人看護学援助論Ⅵ	感覚器 岩館 由佳子
	成人看護学援助論Ⅵ	外科的治療 海藤 奏絵
	老年看護学概論	中井 幾子
	老年看護学援助論Ⅰ	死亡・危篤時含む 川崎 美蘭
	老年看護学援助論Ⅰ	終末期 松岡 智広
	老年看護学援助論Ⅱ	中井 幾子
	老年看護学援助論Ⅲ	事例 中井 幾子
	小児看護学概論	吉田 妙恵子
	小児看護学援助論Ⅰ	大上 育子
	小児看護学援助論Ⅰ	光野 佳代
	小児看護学援助論Ⅱ	滝野 美樹
	小児看護学援助論Ⅱ	光野 佳代
	小児看護学援助論Ⅲ	事例 吉田 妙恵子
母性看護学概論	立石 加津代	
母性看護学援助論Ⅰ	大上 育子	
母性看護学援助論Ⅱ	四十澤 美行	
母性看護学援助論Ⅲ	事例 立石 加津代	
精神看護学概論	笹木 郁哉	
精神保健	成田 邦男	
精神看護学援助論Ⅰ	武藤 崇央	
精神看護学援助論Ⅱ	事例・演習 笹木 郁哉	
災害看護	非常勤講師	
国際看護	大上 育子	
看護管理	小宮 裕子	
総合技術	OSCE 佐藤愛子・立石加津代 長崎加奈	
基礎看護実習Ⅰ	長崎加奈・影浦麻美	
基礎看護実習Ⅱ	長崎加奈・影浦麻美	
地域・在宅看護実習Ⅰ	蛭名千昌・川崎美蘭	
地域・在宅看護実習Ⅱ	蛭名千昌・川崎美蘭	
成人看護実習Ⅰ	佐藤 愛子	
成人看護実習Ⅱ	佐藤 愛子	
老年看護実習Ⅰ	中井 幾子	
老年看護実習Ⅱ	中井 幾子	
小児看護実習	吉田 妙恵子	
母性看護実習	立石 加津代	
精神看護実習Ⅰ	笹木 郁哉	
精神看護実習Ⅱ	笹木 郁哉	
統合実習	笹木 郁哉	

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野	キャリアプランニングⅠ	○・ ○・○	吉田美奈子・野又 淳司 太田 希子・蛭名 千昌	1	1 (15)	前期
授業概要 本授業では、一年生の早い時期から自分自身が本校でどのような事を学び自らのキャリアプランをデザインしていくのかを明確にし、看護専門職業人として相応しい基礎的能力・教養を身につけ、日々の学修に意欲的に取り組むことができるよう問題提起する内容になっている。 授業内で、これからの学校生活における行動計画書を作成し発表することで、プレゼンテーション技術や他者の多様な考えについて理解し、視野を広げる能力を修得する。						
到達目標 1. 本校で学ぶために必要な基礎的能力（知識・技術・態度）、教養を身につけることができる。 2. 看護専門職として自身のキャリア形成を行うための目標設定を明確にする。 3. 行動計画書の発表によりプレゼンテーション技術や視野を広げる能力を身につけることができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習 全7回（15H）の授業は、第1回は太田希子・蛭名千昌担当、第2～3回は野又淳司、第4～5回は吉田美奈子が担当、第6回～8回目は太田希子・蛭名千昌が担当する。 第1回 キャリアプランニングの目的と意義、キャリアプランの作成方法（1H） 第2回 建学の精神・教育理念・教育目標 第3回 看護学生に求められる学修習慣 第4回 看護とは、看護専門職業人として必要な社会人基礎能力について① 職場で求められる看護師像と新人看護師の現状 1) 基本的な生活態度（時間、提出物などの約束を守る、遅刻・欠席をしない健康管理方法） 2) 基本的な接遇（挨拶、身だしなみ、言葉遣い、表情、態度） 3) コミュニケーションの重要性（傾聴力、質問力、提案力） 第5回 看護とは、看護専門職業人として必要な社会人基礎能力について② 職場で求められる人物像と新人看護師の現状 1) 専門職業人としての心構え、チームワークの重要性（上司や先輩看護師との関り方） 2) 看護師として働くということとはどのようなことか 第6回 本校の具体的な学修方法 1) 学修方法の具体例と取り組み方 2) 臨地実習に臨むために必要なこと 3) プレゼンテーション方法の説明 第7回 ①3年間の学校生活における行動計画書を作成し、個々に発表する 第8回 ②3年間の学校生活における行動計画書を作成し、個々に発表する 第1～第7回までのまとめ（学校生活で身につけたい社会人基礎能力、基本的な学習態度）と確認						
評価方法 全ての授業終了後にレポート提出、発表、レポート、評価表にて評価とする 発表後に提出された行動計画書と発表態度を基に評価表で評価する 60点以上を合格とする						
使用教科書 なし						
参考書 なし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
基礎分野	キャリアプランニングⅡ	○・ ○	深川知恵子・小林恵理子 笹木郁哉	3	1 (15)	通年
授業概要						
卒業後に役に立つ接遇・ビジネスマナーを学ぶための研修を行う。また、医療接遇に考えを発展させることで辛い状況にある患者と家族の思いに共感した関わりを意識づけできるよう演習等で学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業後に役に立つ接遇・ビジネスマナーを学び、社会人として必要な実践力を身につける。 2. 看護者として人間の生命・尊厳を尊重し、辛い状況にある患者と家族の思いに共感した関わりやコミュニケーション方法を学ぶ。 3. 医療接遇の意識を高め実践することは、医療安全へと繋がることが理解できる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習						
全7回 (15H) の授業は、第1回は笹木郁哉がオリエンテーションを担当、第2～3回は小林 恵理子が担当、第4～5回は笹木 郁哉が担当、第6～8回は深川 知恵子が担当する。						
第1回 オリエンテーション・スケジュールの説明						
第2回 接遇・ビジネスマナー研修① 接遇とは、立ち振る舞い、ビジネスマナー (訪問先でのマナー、席次、名刺交換などの基礎知識)、第一印象、言葉遣い、電話対応						
第3回 接遇・ビジネスマナー研修② 接遇とは、立ち振る舞い、ビジネスマナー (訪問先でのマナー、席次、名刺交換などの基礎知識)、第一印象、言葉遣い、電話対応						
第4回 テーブルマナー研修① 社会人としての基本的なマナーを修得する。						
第5回 テーブルマナー研修② 社会人としての基本的なマナーを修得する。						
第6回 医療接遇への発展① 医療接遇 (痛みや不安、緊張、辛さなど負の状態にある患者や家族の状態に合わせた言葉、態度) ※共感的態度、傾聴の技法、インフォームド・コンセントの重要性を学ぶ ※トラブルの減少・医療安全への繋がりを考える						
第7回 医療接遇への発展② ※看護倫理を踏まえたコミュニケーション(インフォームド・コンセント、アドボカシー、アカウントビリティ、共同意志決定：SDM シェアード デジションメイキング)						
第8回 医療接遇への発展③ 医療接遇 (痛みや不安、緊張、辛さなど負の状態にある患者や家族の状態に合わせた言葉、態度)						
評価方法						
授業終了後、第6～8回分の「医療接遇について」のレポート提出にて100%評価とする。60点以上を合格とする。						
使用教科書						
参考書						
その他						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野	国語表現		内藤 一志	1	1 (30)	前期
授業概要 文章の書き方、及び表現方法の基本を学ぶ。						
到達目標 1. 短文化や主述の呼応を意識した平明な文章が書ける。 2. パラグラフライティングを意識した文章が書ける。 3. 事実—事実解釈—意見を明示した文章が書ける。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 オリエンテーション 短文化、主述の呼応① 第 2 回 短文化、主述の呼応② 第 3 回 段落の作り方 作文訂正のカウンセリング 第 4 回 項目化 パラグラフライティングの導入 第 5 回 誤文訂正演習 パラグラフライティング演習① 第 6 回 誤文訂正演習 パラグラフライティング演習② 第 7 回 誤文訂正演習 ツウルミンモデル（三角ロジック）① 第 8 回 誤文訂正演習 ツウルミンモデル（三角ロジック）② 第 9 回 既作成文章のツウルミンモデル、パラグラフライティングによる書き直し演習 1 第 10 回 既作成文章のツウルミンモデル、パラグラフライティングによる書き直し演習 2 第 11 回 既作成文章のツウルミンモデル、パラグラフライティングによる書き直し演習 3 第 12 回 既作成文章のツウルミンモデル、パラグラフライティングによる書き直し演習 3 第 13 回 5, 6 回の演習作品の評価に基づいた書き直し① 第 14 回 5, 6 回の演習作品の評価に基づいた書き直し① 第 15 回 第 1～14 回までのまとめ（文章の書き方、表現方法の確認）とレポート提出に向けての説明						
評価方法 1～5 回の授業ごとの演習（5 点、合計 25 点）、6, 7 回の演習（30 点、合計 60 点）、8 回の演習（15 点） 60 点以上を合格とする						
使用教科書 国語表現ナビ、浜島書店 型から学ぶ日本語練習帳、ひつじ書房						
参考書 授業時に随時紹介						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
基礎分野	情報科学		風間 和夫 山崎 路幸	1	1 (30)	前期
授業概要						
<p>情報処理の基本的な考え方、情報処理システムの医療機関への応用、データの処理におけるコンピューターの利用から簡単な情報処理の方法を習得する。</p> <p>統計処理を行うための基本的な考え方を理解する。</p>						
到達目標						
<p>1. 情報処理の基本的な考え方を知り、データの処理におけるコンピューターの利用方法について学ぶ。</p> <p>2. ウィンドウズパソコンとエクセルの基本操作、統計処理を行うための基本的なデータの分析方法を学ぶ。</p>						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習						
<p>全 30 時間の授業は、第 1 回～第 8 回 (15 時間目) までは風間和夫が担当、第 9 回～16 回目 (30 時間目) までは山崎路幸が担当する。</p>						
第 1 回 導入 統計学に数学がなぜ必要か データの分析とは						
第 2 回 データの整理 (度数分布表、ヒストグラム)						
第 3 回 データの代表値 (平均値、最頻値、中央値)						
第 4 回 データの散らばりと四分位法 (範囲、四分位法、箱ひげ図)						
第 5 回 分布と標準偏差 (分散・標準偏差、分散と平均値の関係式)						
第 6 回 データの相関 (散布図、正の相関・負の相関、相関係数)						
第 7 回 確率の基礎、正規分布、その他の確率分布						
第 8 回 まとめ・試験 (1H)						
第 9 回 PC 起動・終了、基本の操作、メールの送受信方法、タッチメソッド習得方法 入力測定①、ソフト活用方法、2 画面操作、SnippingTool、ショートカットキー						
第 10 回 コンピュータリテラシーとセキュリティ (小テスト 1 確認)						
第 11 回 (小テスト 1) プレゼンテーション「Power Point」の作成方法						
第 12 回 (小テスト 2 確認) 既存の情報の収集方法 (文献検索)、インターネットで役立つ情報へのアクセス (サイトの閲覧方法、検索エンジン・データベースの使い方、収集データの利用)						
第 13 回 (A) (小テスト 2) プレゼンテーション小テスト 3 とフィードバック (B) Excel による統計解析 1 ①-252-Excel の基本操作 ②-255-データの入力形式と表示方法 (データの代表値等) ③-256-データの種類の単純集計(1) [確認 265 ヒストグラム]						
第 14 回 Excel による統計解析 2(小テスト 4-265 ヒストグラム) ③-256-データの種類の単純集計(2) ④-268-正規分布の特徴 ⑤-271-統計的推定と 95% 信頼区間 ⑥-273-検定と分析 ⑦-274-一般的な検定の流れと 2 種類の過誤 ⑧-275-標本のデータ間の各種検定 [確認 276]						
第 15 回 Excel による統計解析(小テスト 5-276 クロス集計表) ⑨-283-Excel による各種平均の検定 ⑩-286-量的データと量的データの関係 ⑪-289-Excel による散布図と回帰分析 ⑫-291-多変量解析 [確認 290]						
第 16 回 入力測定②、(小テスト 6-290 回帰分析) フィードバック (1H) 学習のまとめ						
評価方法						
第 1 回～8 回 試験 (50%) 6 割以上で合格						
第 9 回～16 回 実技試験(25%)筆記試験(25%) 6 割以上で合格						

使用教科書

中山和弘他, 系統看護学講座・別巻・看護情報学, 第4版, 医学書院

富士通エフ・オー・エム(FOM出版)(2025/2/17), 情報リテラシー Windows11/Office2021 対応, 2021

参考書

プリントおよびデータを配布する。(教科書ポイント整理、PC操作事例、他)

その他

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野	研究方法論		非常勤講師	2	1（15）	前期
授業概要 看護研究の意義・必要性和研究を実施するための一連のプロセスについて学習し、今後自ら看護研究に取り組むための基礎的能力を習得する。						
到達目標 1. 看護過程における問題意識を持ち、研究に意識を高く持てる。 2. 研究のテーマ設定から企画、文献の検索や資料収取方法ができる。 3. 文献や集めた資料を基に研究のデザインや方法に関して設定ができる。 4. アンケート作成や分析、インタビューガイドの作成や実施などの実践ができる。 5. アンケート結果やインタビュー内容から結果を文章として表現できる。 6. 研究に関する倫理的配慮を知っている。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 研究にあたっての問題意識の醸成とテーマ設定 第 2 回 テーマ設定から研究企画書の作成 文献探索法 第 3 回 研究のデザイン（研修方法や手順について） 第 4 回 関連文献に対するアプローチ（探し方、まとめ方） 第 5 回 調査のまとめ方（アンケート・インタビュー法） 第 6 回 調査のまとめから発表の準備へ（パワーポイント資料の作成） 第 7 回 研究発表とまとめ 第 8 回 総評価（研究発表とまとめ）						
評価方法 グループワーク発表後評価 60 点以上で合格						
使用教科書 坂下玲子著，系統看護学講座 別巻 看護研究 ，第 2 版，医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野	社会学		長谷山 哲平	3	1 (30)	通年
授業概要 社会学的なものの見方、考え方を学ぶ。社会現象を表面的に知るのではなく、深く分析し、看護を実践するために看護と社会との関わりを理解する。						
到達目標 1. 社会学的なものの見方、考え方をすることができる。 2. 社会現象を知るとともに分析し、看護と社会との関係が理解できる。 3. 社会における看護の課題と展望が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 講師紹介 健康・病気・医療をみるツールとしての社会学（序章） 社会学の基礎概念（第 1 章） 第 2 回 社会学的視点からのモノの見方（第 2 章） 第 3 回 社会学の諸領域と保健医療、社会調査の理論と技法（第 3 章・第 4 章） 第 4 回 健康・病気の見方・とらえ方（第 5 章） 第 5 回 現代社会とストレス（第 6 章） 第 6 回 健康と病気の社会格差（第 7 章） 第 7 回 働き方・働かせ方と健康・病気（第 8 章） 第 8 回 健康行動・病気行動と病経験（第 9 章） 第 9 回 患者-医療者関係とコミュニケーション（第 10 章） 第 10 回 保健医療福祉専門職とアクター（第 11 章） 第 11 回 性・ジェンダー・家族と保健医療（第 12 章） 第 12 回 地域社会と保健医療（第 13 章） 第 13 回 保健医療福祉システムと現代的变化（第 14 章） 第 14 回 ケアの社会学（第 15 章） 第 15 回 第 1～14 回までの総まとめと試験（1H）						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 石川ひろの他，系統看護学講座 基礎分野 社会学，第 7 版，医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野	文学		内藤 一志	3	1 (15)	通年
授業概要 物語性のある映画作品を分析、論評することを通して、情緒・感性を養うとともに、作品について論評した文章を書く。						
到達目標 1. 映画を対象に主要な分析観点に即して分析することができる。 2. 分析をもとに論評する平明な文章を書くことができる。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義 第 1 回 物語の基礎構造 第 2 回 話型について 課題解決型とそのバリエーション 物語の設定について 第 3 回 分析観点 1（人物の内面変容）について（視聴、演習、講義） 第 4 回 分析観点 2（変容を示す象徴的な行為）について（視聴、演習、講義） 第 5 回 分析観点 3（間テキスト・作品）について（視聴、演習、講義） 第 6 回 分析観点 4（設定）について（視聴、演習、講義） 第 7 回 トータルな作品論評 1（視聴、論評に向けた議論） 第 8 回 トータルな作品論評 2（視聴、論評に向けた議論）						
評価方法 授業時に提出する課題、作品論評レポート 100点 60点以上で合格						
使用教科書 適宜プリントして配布						
参考書 授業時に示す						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
基礎分野	心理学		林 美都子	1	1 (30)	前期
授業概要						
人間の理解を深めるために、共通する心の動きや意識の働きについて学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の主要な専門用語について暗記し、必要に応じてその概念を説明することができる。 2. 心理学の主要な概念や基礎理論、知識等が、自らの日常生活におけるどのような体験を包含しているのか、具体例をあげながら説明することができる。 3. また2とは逆に、自らの日常生活における心理学的体験を、適切な心理学的専門用語を用いて説明できる。 4. 看護実習や日常生活などの実践の場において、みずからの活動の理由や根拠を、必要に応じて適切な心理学の知見に求めることができる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義						
第1回 心理学とは何か 心理学の歴史						
第2回 感覚・知覚						
第3回 記憶の基本メカニズム						
第4回 記憶2 忘却						
第5回 思考・推論						
第6回 言語						
第7回 知能 IQ 知的障害						
第8回 学習① ・学習の基本 ・古典的条件づけ						
第9回 学習② ・オペラント条件づけ ・社会的学習						
第10回 感情						
第11回 性格						
第12回 発達						
第13回 カウンセリング						
第14回 対人援助職						
第15回 第1～14回までの総まとめと試験 (1H) ※理解状況に応じて、進捗状況を調整することがある。						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
山村豊他, 基礎分野・心理学, 第6版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他						
<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテストの実施 毎回、授業の終わりにその回の復習としてミニテストを実施するので、よく復習すること。 なお、ミニテストは宿題になることもある。 ・実験、調査、演習の実施 座学のみでは分かりにくいこともあるため、必要に応じて授業内で実験や調査、演習などを実施することがある。 指示に従って積極的に参加し、必要に応じて疑問点を質問して、理解を深めるための一助となされたい。 						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野	文化人類学		有井 晴香	1	1(15)	後期
授業概要 異文化社会の固有の文化体系を相対的に理解し、人間の価値観の多様性や人類の普遍性について理解を深める。						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化人類学とはどのような学問かを学び、人間の価値観の多様性や普遍性について理解する。 2. 文化人類学における質的研究、エスノグラフィーの手法・視点について学び、実践に活かすことができる。 3. 自己と他者をめぐる現代的な課題について文化人類学の考え方を使得って議論することができる。 4. 文化人類学的な視点から健康・病気・医療について考えることができる。 5. 多様な文化における人間の生と死をめぐる概念や対応を学ぶ。 						
授業計画・授業内容 授業形態：講義 第 1 回 イントロダクション：「文化」とは何か 第 2 回 通過儀礼 第 3 回 親子 第 4 回 家族とつながり 第 5 回 リプロダクション 第 6 回 医療と文化 第 7 回 エスノグラフィーの活用 第 8 回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 とくに定めない。毎回の講義時に適宜、資料を配布する。						
参考書 波平恵美子他，系統看護学講座 基礎分野 文化人類学，第 4 版，医学書院						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
基礎分野	法学		永盛 恒男	3	1(15)	前期
授業概要 我が国において保健医療は法制度に基づいて実施されているので、法ないし法律について正確に認識し、かつ理解できる基礎力を養うことを目的とする。						
到達目標 1. 法律学における各基礎概念を正確に理解できる。 2. 裁判制度・手続きについて理解できる。 3. 社会における紛争解決方法を理解できる。 4. 衛生法規のうち特に保助看法について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第1回 ガイダンス 法とは何かの基礎的説明 第2回 基本六法の説明 法則と規範の違い 第3回 法と道德の異同 第4回 法と強制 第5回 法の基礎 正義とは 第6回 社会における法の役割 法の解釈と適用について 第7回 紛争解決と法 裁判制度 第8回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 特になし 必要時プリントを用意する						
参考書 特になし 必要時その都度指示する						
その他 ①法学は社会を離れては存在し得ないので、社会の動きを知るためには少なくとも毎日、新聞を読んでおいて欲しい ②授業は常に疑問を持って受講して欲しい						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
基礎分野	教育学		風間 和夫	3	1 (30)	通年
授業概要 人間と教育の本質について学び看護活動へ活用できる能力を養う。また生涯学習について意欲と関心を高める。						
到達目標 1. 望ましい人間形成における教育の意義・方法を理解する。 2. 生涯学習の必要性がわかり患者支援など、看護活動に活かす知識を学ぶことができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 第 1 部 教育学を学ぶために 第 1 章 社会の中の看護と教育 第 2 回 第 2 章 教育とはなにか―「教育」の概念 第 3 回 第 3 章 教育の対象―子ども観と発達 第 4 回 第 4 章 社会変動と教育 第 5 回 第 5 章 教育の組織化―学校 第 6 回 第 2 部 教育をなりたせるもの 第 1 章 教授―人を教えるということ 第 7 回 第 2 章 訓育―他者とのかかわりを導く 第 3 章 養護―教育の受け手を見まもる 第 8 回 第 4 章 発達―教育を受けて成長する 第 9 回 第 3 部 教育の営みを考える 第 1 章 学びの場―学校と家庭 第 10 回 第 2 章 教育の目標と評価 第 3 章 教育のメディア―教育をデザインする 第 11 回 第 4 章 教育の担い手―専門性と専門職性 第 5 章 教育の場を作るしくみ 第 12 回 第 4 部 現代教育の新たな課題 第 1 章 キャリア教育 (専門教育) 第 13 回 第 2 章 ジェンダーとセクシュアリティ 第 3 章 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 第 14 回 第 4 章 生涯教育 第 5 章 シティズンシップ教育 第 15 回 第 1～15 回までの総まとめと試験 (1H)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 木村元他, 系統看護学講座 基礎分野 教育学 第 8 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
基礎分野	英語		トーマス・ジョン	1	1 (30)	前期
授業概要 Students practice five hospital-related, patient-related situations. We will examine the conversations for key vocabulary, basic question and answer, and grammar. The key skills of pronunciation, easy communication, and listening are focused on.						
到達目標 Students will improve their listening and speaking skills in English to do simple conversations with their patients in various situations.						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習 第 1 回 オリエンテーション 自己紹介 Unit 1 “First Visit to a Hospital”, Vocabulary & Listening 第 2 回 Unit 1 “First Visit to a Hospital”, Reading & Speaking 第 3 回 Unit 2 “How to Fill in a Registration Form”, Vocabulary & Listening 第 4 回 Unit 2 “How to Fill in a Registration Form”, Reading & Speaking 第 5 回 Review of Unit 1 and 2 Patterns, Role Play Practice 第 6 回 Role Play Writing & Speaking Practice 第 7 回 Role Play Performance #1 第 8 回 Unit 3 “Let’s Ask about Mr. Brown’s Daily Activities”, Vocabulary & Listening 第 9 回 Unit 3 “Let’s Ask about Mr. Brown’s Daily Activities”, Reading & Speaking 第 10 回 Unit 4 “Mr. Brown’s Symptoms”, Vocabulary & Listening 第 11 回 Unit 4 “Mr. Brown’s Symptoms”, Reading & Speaking 第 12 回 Unit 5 “Medical Checkup 1”, Vocabulary & Listening 第 13 回 Role Play Writing & Speaking Practice 第 14 回 Role Play Performance #2 第 15 回 Final Test						
評価方法 Role Play Performances (20%) 課題 (60%) Final Test (20%)						
使用教科書 First Aid! English for Nursing (Higuchi, Akiko; Tremarco, John) Kinseido Publishing Co., Ltd. ISBN 978-4-7647-3965-9						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
基礎分野	家族論		岡崎 圭子	1	1（15）	前期
授業概要 人間生活の基礎的な単位である家族についての基礎知識、家族の現状と課題、支援のあり方を学ぶ。また、家族の意義と役割について理解と関心を深める。						
到達目標 1. 家族の役割や形態など基本的な事柄について説明できる。 2. 家族の歴史的変遷について説明できる。 3. 家族の現状と課題について説明できる。 4. 家族への支援のあり方について説明できる。 5. 「家族とは何か」について、自分の考えを述べる事が出来る。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 家族をめぐる基本認識 第 2 回 家族の変遷 第 3 回 家族の現状と課題Ⅰ DV 第 4 回 家族の現状と課題Ⅱ 児童虐待 第 5 回 家族の現状と課題Ⅲ 社会的擁護 第 6 回 家族の現状と課題Ⅳ 高齢者の生活 第 7 回 家族への支援、多様化する家族 第 8 回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格。						
使用教科書 特になし。 毎回プリントを配布する。						
参考書 特になし。						
その他 特になし。						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
基礎分野	健康科学		小林 貴美子 林 美都子 非常勤講師	1	1 (30)	通年

授業概要

健康と運動の意義を理解し健康生活を維持するための運動の効用について学ぶ。また体力を増強し、集団行動における主体性と協調性を養う。

授業では「ストレスとは何か」、ストレスについての正しい知識や対処法を学び、セルフケアできる能力を身につける。また、演習を通し自身や患者のストレスを軽減できる様々なリラクゼーション方法を習得する。

到達目標

1. 健康と運動の意義についてスポーツを通して理解できる。
2. 健康生活を維持するための運動の効用について理解できる。
3. 体力を増強し、集団行動における主体性と協調性を養うことができる。
4. ストレスについての正しい知識や対処法を学び、セルフケアできる能力を身につける。
5. 自身や患者のストレスを軽減できる様々なリラクゼーション方法を習得する。

授業計画・授業内容 授業形態： 実技

全 15 回 (30H) の授業は第 1～8 回 (8 回目は 1H) は小林貴美子が担当、第 9～13 回は林美都子が担当、第 14 回～第 15 回 (15 回目は 3H) は非常勤講師が担当する。

第 1 回 フィットネステスト (自分の体を知る) & エアロビックダンスの特性と効果/基本のステップを学ぶ

第 2 回 姿勢モニタリング (ゆがみチェック) と改善エクササイズ&エアロビックダンスの基本ステップ (ローインパクト)

第 3 回 エアロビックダンスの基本ステップ (ローインパクト&ハイインパクト)
&姿勢改善エクササイズ①

第 4 回 エアロビックダンスの基本ステップ (コンビネーション) &姿勢改善エクササイズ②

第 5 回 (1H) エアロビックダンスのバリエーション (仲間とフォーメーションチャレンジ)

第 6 回 エアロビックダンスのバリエーション (仲間とフォーメーションチャレンジ)
&姿勢改善体幹トレーニング

第 7 回 課題の動きの実演

第 8 回 第 1～7 回までの内容から実技試験 (1H)

第 9 回 自律訓練法

1. 自律訓練法の基礎

自律訓練法の歴史、特徴 (恐怖症、不安症、あがり症、赤面症等)、メリット・デメリット、簡単な体験

2. 自律訓練法の演習

第 10 回 マインドフルネス

1. マインドフルネスの基礎

歴史、特徴、メリット・デメリット、簡単な体験

2. マインドフルネス入門 あるがままの自分を受け入れる練習

3. マインドフルネス初級

怒りの状況、悲しい状況、うれしい状況でも、あるがままの自分を受け入れる練習

第11回 認知行動療法

1. 認知行動療法の基礎

歴史、特徴、メリット・デメリット、簡単な体験

第12回 2. 認知行動療法入門

自己の不合理性、偏見、歪みを理解する

第13回 3. 認知行動療法初級

不合理な信念を捨てて、気持ちが楽になる考え方、前向きにストレスと戦える現実の受け止め方を身に着ける

第14回 心と体に寄り添う「手あて」セラピューティック・ケア

1. セラピューティック・ケア概論

歴史、セラピューティック・ケアの3つのスキルと効果、演習

第15回 2. セラピューティック・ケア各論

演習（ハンド&アームケア、ネック&ショルダーケア、レッグケア）

評価方法

第8回 まとめ 実技試験40%、筆記試験60% 小林先生 50点

第15回 終了後、授業終了後のレポート提出にて評価する（評価表100%）林先生35点、非常勤講師15点配点 合わせて60点以上で合格とする。

使用教科書

特になし

参考書

特になし

その他

必要時プリントを配布する

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	形態機能学 I	○・○ ○・○ ○	児嶋哲文・中里絃 小葉松洋子・高野睦 子・大島陸	1	1 (30)	前期
授業概要 身体の構造を学ぶ。各器官系統の持つ働きの意味を学ぶ。						
到達目標 1. 人体とはどのようなものか、人体を構成する細胞と組織について理解を深め、さらに種を保存する機構を学ぶ。 2. 人体の構造と機能を、器官と器官系を中心に学習する。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 授業は、第 1～10 回は児嶋哲文、第 11 回は小葉松洋子が担当、第 12 回目は中里絃が担当、第 13 回目は高野睦子が担当、第 14 回目は大島陸が担当、第 15 回目は総まとめ・試験とする。 (人体の構造と機能) 第 1 回 講師紹介、人体の構造と機能を学ぶために 授業内容の説明、何をどのように学ぶか、解剖学と生理学の歴史と現在 第 2 回 A構造からみた人体① 第 3 回 A構造からみた人体② 第 4 回 B人体の様々な器官① 第 5 回 B人体の様々な器官② 第 6 回 B人体の様々な器官③ 第 7 回 C素材からみた人体① 第 8 回 C素材からみた人体② 第 9 回 C素材からみた人体③ 第 10 回 体表から見た人体の構造 第 11 回 講師紹介、生殖発生 女性生殖器、受精と胎児の発生 第 12 回 講師紹介、口・咽頭の構造と機能 第 13 回 講師紹介、目の構造と視覚 第 14 回 講師紹介、耳の構造と聴覚・平衡覚、嗅覚 第 15 回 総まとめ 筆記試験 (IH) の実施						
評価方法 人体については筆記試験にて評価 40 点 (30 分程度)、女性生殖器は筆記試験にて評価 15 点 (4 分程度)、口・咽頭の構造は筆記試験にて評価 15 点 (4 分程度)、目の構造は筆記試験にて評価 15 点 (4 分程度)、耳の構造は筆記試験にて評価 15 点 (4 分程度)。女性生殖器から耳の構造までは合わせて 15 分程度で行う。 授業の終了後は筆記試験による評価 100%とする。60 点以上で合格。再試験の受験機会は一度とし、再試による合格者は「可」の成績評価とする。本校が「特別な事情がある」と認定した学生には、追試験を行う						
使用教科書 坂井建雄他, 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 第 12 版, 医学書院						
参考書						
その他						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	形態機能学Ⅱ	○ ○・○	伊藤 蓮 竹林 徹・石田千春	1	1 (30)	前期
授業概要 生命現象の基本としての認識の上に、呼吸・循環の働きについて両者を関連付けて学ぶ。また体温調整について学ぶ。						
到達目標 1. 呼吸は生命の維持にどのような意義をもつのか理解できる。 2. 肺・縦隔のしくみと働きについて理解できる。 3. 異常呼吸の呼吸パターンが理解できる。 4. 血液の組成・分類と働きについて理解できる。 5. 心臓の働きについて理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (呼吸・循環・体温) 全 15 回の (30H) の授業は、第 1、2 回は伊藤 蓮が担当、第 3 回～7 回は 石田 千春が担当、第 8 回～14 回は竹林 徹が担当する。 第 1 回 血液の組成と機能、赤血球、白血球 第 2 回 血小板、血液の凝固、血液型 第 3 回 呼吸は生命の維持にどのような意義を持つのか知るため、呼吸器の構造について説明する 第 4 回 内呼吸と外呼吸、肺・縦隔の機能 第 5 回 呼吸運動の調節 第 6 回 異常呼吸の呼吸パターン 第 7 回 ガス交換とガスの運搬肺の循環と血流 第 8 回 循環器について 第 9 回 心臓の拍出機能 第 10 回 心臓・血管 第 11 回 血液 (動脈・静脈) 第 12 回 血圧について 第 13 回 血液量・血圧について 第 14 回 血液循環について 第 15 回 第 1～15 回までの総まとめと試験 (1H)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は合算にて 60 点以上で合格とする。 内訳：伊藤先生の担当分が評価 14 点 (7 分程度)、石田先生が 36 点 (16 分程度)、竹林先生の担当分が評価 50 点 (22 分程度) で行う。						
使用教科書 坂井建雄他, 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 第 12 版, 医学書院						
参考書						
その他						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	形態機能学Ⅲ	○	児嶋 哲文	1	1 (30)	前期
授業概要 消化・吸収のしくみについて学ぶ。						
到達目標 1. 消化管を図示し、各部の名称を口腔から順に述べるができる。 2. 消化管の各部の構造と機能が理解できる。 3. 糖質・たんぱく質・脂質の消化と吸収について理解できる。 4. 排便の調節機序について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (消化・吸収) 第 1 回 消化器 解剖生理の総論 第 2 回 咽頭 食道 第 3 回 胃、小腸、大腸の解剖 第 4 回 解剖 VIDEO 腹部 糖質・蛋白質の分解 第 5 回 胃の VIDEO 脂質の消化吸収 第 6 回 胆道、肝の解剖 第 7 回 肝、胆道の解剖 第 8 回 小テストと説明 (消化管) 第 9 回 練習問題と腹膜の解剖 第 10 回 栄養の消化と吸収、練習問題 第 11 回 消化器解剖・嚥下状態、演習問題 第 12 回 消化器解剖・肝臓の働き、演習問題 解答・解説 第 13 回 消化・吸収について、演習問題と解答・説明 第 14 回 栄養の消化と吸収・排便のメカニズム、演習問題と解答 第 15 回 第 1～15 回までの総まとめと試験 (1H)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 坂井建雄著, 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学, 第 12 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	形態機能学Ⅳ	○ ○	安齋 治一 鈴木 勝雄	1	1 (30)	後期
授業概要 内部環境、外部環境の変化に伴う調節機能について学ぶ。						
到達目標 1. 細胞の構造が理解できる。 2. 器官・組織・細胞との関係が理解できる。 3. 機能からみた人体が理解できる。 4. 内部環境について理解できる。 5. 内部環境とホメオスターシスの関係について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (ホメオスターシス) 全 15 回 (30H) の授業は、第 1～8 回は鈴木勝雄が担当、第 9～16 回は安齋治一が担当する。 第 1 回 腎臓の構造と機能、糸球体・尿細管の構造と機能 第 2 回 傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量 第 3 回 腎臓から分泌される生理活性物質 第 4 回 排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿、男性生殖器の構造と機能 第 5 回 体液の調節 水の出納、脱水 第 6 回 体液の調節 電解質の異常、酸塩基平衡 第 7 回 酸塩基平衡 第 8 回 第 1 回～7 回までの内容のまとめ、試験 (20 分程度) (1H) 第 9 回 自律神経による調節 第 10 回 内分泌による調節 第 11 回 全身の内分泌腺と内分泌細胞 第 12 回 ホルモン分泌の調整 / ホルモンによる調節の実際 第 13 回 皮膚の構造と機能 / 生体の防御機構 その 1 第 14 回 生体の防御機構 その 2 / 体温とその調節 第 15 回 第 9 回～15 回までの内容のまとめ 第 16 回 第 9 回～15 回までの内容のまとめ、試験 (20 分程度) (1H)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験はそれぞれ 6 割 (30 点) 以上で合格とする。 内訳：鈴木先生の担当分の試験は 20 分程度 50 点満点、安齋先生の担当分の試験は 20 分程度 50 点満点						
使用教科書 坂井建雄他，専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①，第 12 版，医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

++分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門基礎分野	形態機能学V	○ ○	井口 文子 藤本 奈美	1	1(30)	前期
授業概要 外界刺激を受容するしくみ、各刺激に応じた反応のしくみ、筋肉運動のしくみについて学ぶ。						
到達目標 1. 神経の構造と機能が理解できる。 2. 脊髄・脳と脊髄神経・脳神経の構造と機能が理解できる。 3. 脳の高次機能について理解できる。 4. 感覚機能について理解できる。 5. 人体の骨格と筋について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (知覚・認識・運動) 全16回(30H)の授業は、第1～8回は井口 文子が担当、第9～16回は藤本奈美が担当する。 第1回 骨格とはどのようなものか 第2回 骨の連結 骨格筋 第3回 体幹の骨格と筋 第4回 上肢の骨格と筋 第5回 下肢の骨格と筋 第6回 頭頸部の骨格と筋 筋の収縮 第7回 第1回～6回までのまとめ 第8回 第1回～7回までの総まとめと試験(20分程度)(1H) 第9回 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 脳の高次機能① 第10回 脊髄と脳 脊髄神経と脳神経 脳の高次機能② 第11回 運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路 第12回 神経系の構造と機能① 第13回 神経系の構造と機能② 第14回 神経系の構造と機能③ 第15回 痛み(疼痛) 第16回 第9回～15回までの総まとめと試験(1H)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は合計して6割(60点)以上で合格とする。 内訳：井口先生の担当分の試験は20分程度50点満点、藤本先生の担当分の試験は20分程度50点満点						
使用教科書 坂井建雄他, 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 第12版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門基礎分野	総合形態機能学	○ ○	中井 幾子 影浦 麻美	1	1 (30)	後期
授業概要 人体の構造から正常な生理機能と疾病の発生機序を理解し、治療・看護までを系統立て学ぶ。						
到達目標 1. 人体の構造から正常な生理機能と疾病の発生機序を理解し、治療・看護までを演習を通して系統立てて学ぶことができる。 2. 自己学習やグループワークを通して、主体的に取り組む姿勢を身に着ける。						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習 全15回(30H)の授業は、第1～15回は中井幾子、影浦麻美が担当する。 第1回 担当講師紹介、授業概要、演習の進め方の説明(事前学習揭示) 第2回 循環器系、呼吸器系、消化器系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第3回 循環器系、呼吸器系、消化器系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第4回 循環器系、呼吸器系、消化器系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第5回 循環器系、呼吸器系、消化器系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第6回 循環器系、呼吸器系、消化器系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第7回 GW発表・ディスカッション 第8回 GW発表・ディスカッション 第9回 内分泌・代謝、腎・泌尿器系、血液神経系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第10回 内分泌・代謝、腎・泌尿器系、血液神経系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第11回 内分泌・代謝、腎・泌尿器系、血液神経系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第12回 内分泌・代謝、腎・泌尿器系、血液神経系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第13回 内分泌・代謝、腎・泌尿器系、血液神経系の解剖生理と疾患に応じた看護についてのGW学習 第14回 GW発表・ディスカッション 第15回 GW発表・ディスカッション						
評価方法 授業の終了後の期限日までに、事前学習とGW発表内容、プレゼン資料、発表後の感想などをまとめてポートフォリオを作成し提出する。 <u>評価は評価表にて100%の評価とする。</u> <u>60点以上で合格とする。</u>						
使用教科書 特になし						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門基礎分野	生化学		川合 祐史	1	1 (15)	前期
授業概要						
<p>人体の生命現象を科学的側面からとらえ、生物の物質代謝を理解するとともに、看護に応用する能力を身につける。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造について説明できる。 2. 糖質・脂質・タンパク質・核酸の構造と性質について説明できる。 3. 酵素の役割と性質について説明できる。 4. 糖質・脂質・タンパク質・核酸の代謝について説明できる。 5. 遺伝情報とは何か、また遺伝情報の発現の仕組みについて説明できる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義						
<p>第 1 回 人体の成り立ち、細胞の構造、生体分子の構造と特徴、生体をつくる元素</p> <p>第 2 回 単糖・二糖・多糖の構造と性質、脂肪酸・中性脂肪・リン脂質・糖脂質・コレステロールの構造と性質</p> <p>第 3 回 リポタンパク質の構造と役割、アミノ酸・タンパク質の構造と性質、核酸の構造と性質</p> <p>第 4 回 酵素の役割と性質、酵素反応の調節、栄養素の代謝の概要、栄養素とエネルギーの関係性</p> <p>第 5 回 糖質の代謝</p> <p>第 6 回 脂質の代謝、アミノ酸・タンパク質の代謝</p> <p>第 7 回 遺伝情報とは、複製・転写・翻訳、DNA の損傷と修復、核酸の代謝</p> <p>第 8 回 試験</p>						
評価方法						
<p>授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点とし 60 点以上で合格</p>						
使用教科書						
<p>島山 鎮次著, 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学, 第 14 版, 医学書院</p>						
参考書						
<p>授業中に指示する</p>						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業外に行うべき学習 <ul style="list-style-type: none"> 授業を受ける前に、教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと 授業後は、教科書を読み直す、ノートを整理する、配布した練習問題を繰り返し解く、などの復習を行うこと 2. PC、電子黒板使用 						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	疾病論 I	○	澁田 達史	1	1 (15)	前期
授業概要 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を学ぶ。						
到達目標 1. 病気の概念について理解できる。 2. 循環障害について理解できる。 3. 免疫・炎症について理解できる。 4. 先天異常と遺伝子異常について理解できる。 5. 悪性腫瘍の特徴について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (総論) 第 1 回 病理学で学ぶこと 病気とは (P4～6) 病気の原因 (内因・外因) (P 7～10) 病院の分類と病理学の学び方 (P11～12) 細胞・組織の損傷と修復、炎症 (P14～32) 第 2 回 免疫・移植 (P34～40) (P42～47 3 行目まで自己免疫疾患は不要) 第 3 回 感染症 (P56～70) 第 4 回 循環障害 (P72～92) 第 5 回 先天異常と遺伝性疾患 (P116～134) 第 6 回 腫瘍① (P136～166) 第 7 回 腫瘍② (P136～166) 第 8 回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点とし 60 点以上で合格						
使用教科書 大橋 健一, 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1]病理学 第 6 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	疾病論Ⅱ	○	小熊 恵二	1	1 (15)	後期
授業概要 微生物の人体におよぼす影響、および、病原微生物の感染対策について学ぶ。						
到達目標 1. ヒトに感染する微生物の種類、その感染様式と特徴的な症状などを述べるができる。 2. 感染症に対する一般的な予防・診断と治療・看護の方法を述べるができる。 3. 上記1,2をふまえ、重要な微生物による個々の感染に対し、その対策や問題点を述べるができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (微生物・感染症) 第1回 微生物(学)の歴史と特徴(真核生物と原核生物の違い)、 細菌学総論(形態・分類、増殖、変異と遺伝、遺伝形質の伝達) 第2回 細菌学総論(感染・発症、診断・治療)、 ウイルス学総論(形態と分類、感染様式、培養、変異、診断、治療など) 第3回 真菌学、寄生虫学 (真菌や寄生虫の特徴や主な感染症について) 第4回 感染と免疫 (自然免疫と獲得免疫、アレルギー、免疫不全症、ワクチンなど) 第5回 滅菌・消毒と標準予防策など、感染症の問題点と感染症法 第6回 各論；消化器、呼吸器感染症 第7回 各論；神経系、皮膚・粘膜、泌尿生殖器、先天性感染症 第8回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は100点満点とし60点以上で合格						
使用教科書 小熊恵二著、わかりやすく学ぶ 病原微生物の世界(初版)、あっぷる出版社						
参考書 小熊恵二ら著、シンプル微生物学(改訂第6版)、南江堂						
その他 スライドで、微生物の形態や典型的な症状などを示す						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	疾病論Ⅲ	○	高橋 肇	1	1 (15)	通年
授業概要 循環器系の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾病を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (循環器) 第 1 回 循環器の構造と機能 第 2 回 高血圧 第 3 回 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 第 4 回 心不全 第 5 回 不整脈 第 6 回 弁膜症 心筋疾患 動脈系・静脈系・リンパ系疾患 第 7 回 循環器疾患のケア 総まとめ 第 8 回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点とし 60 点以上で合格						
使用教科書 松田 直樹著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 第 16 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	疾病論IV	○	竹澤 周子	2	1 (15)	前期
授業概要						
呼吸器系の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾病を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義						
(呼吸器)						
第 1 回 呼吸器の構造と機能						
第 2 回 疾患総論						
第 3 回 呼吸器感染症など (結核を含む)						
第 4 回 アレルギー総論						
第 5 回 呼吸器の悪性腫瘍						
第 6 回 慢性閉塞性肺疾患						
第 7 回 総まとめQ&A (肺がんの種類、呼吸音の聴取と異常、酸塩基平衡など)						
第 8 回 試験						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点とし 60 点以上で合格						
使用教科書						
浅野 浩一郎著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 第 16 版, 医学書院						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	疾病論V	○	川村 詔導	2	1 (15)	通年
授業概要 血液・造血器系の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾病を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (血液・造血器) 第1回 血球の産生、鉄欠乏性貧血 第2回 貧血 巨赤芽性貧血 急性白血病 第3回 急性白血病 慢性白血病 悪性リンパ腫 第4回 成人T細胞白血病 リンパ腫 白血病の治療 第5回 HLA 幹細胞移植 血液型 第6回 DIC ITP 凝固 線溶 第7回 鉄欠乏性貧血 巨赤芽球性貧血 化学療法 DIC 血液型 幹細胞移植 第8回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は100点満点とし60点以上で合格						
使用教科書 飯野京子著, 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[4] 血液・造血器 第16版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	疾病論VI	○	非常勤講師	2	1（15）	前期
授業概要 消化器系の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾病を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義 （消化器） 第1回 導入（消化器疾患に関する医療の動向）、消化器の解剖・機能 第2回 上部消化管疾患の様々な症状、徴候 第3回 上部消化管疾患の検査・治療 第4回 上部消化管疾患の検査・治療・疾患の理解（食道疾患） 第5回 上部消化管疾患の疾患の理解（胃疾患） 第6回 下部消化管疾患の疾患の理解（腸と腹膜疾患） 第7回 肝臓・胆のう・膵臓疾患等の診断・検査・治療 第8回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は100点満点とし60点以上で合格						
使用教科書 南川 雅子著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器，第16版，医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	疾病論Ⅶ	○	安齋 治一	2	1 (15)	前期
授業概要 自己免疫疾患、内分泌・代謝系、消化器系の疾患を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標 1. 代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾病を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (自己免疫疾患、内分泌・代謝) 第 1 回 代謝の概要と機能 代謝疾患の理解 (検査・治療を含む) その 1 第 2 回 代謝疾患の理解 (検査・治療を含む) その 2 第 3 回 内分泌器官の構造と機能 内分泌疾患の理解 (検査・治療を含む) その 1 第 4 回 内分泌疾患の理解 (検査・治療を含む) その 2 第 5 回 免疫のしくみとアレルギー アレルギー疾患の理解 (検査・治療を含む) 第 6 回 自己免疫疾患とその機序 自己免疫疾患の理解 (症状とその病態生理を含む) 第 7 回 第 1 回～6 回の内容のまとめ 第 8 回 試験 (1h)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 黒江ゆり子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝, 第 16 版, 医学書院 岩田健太郎著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症, 第 16 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	疾病論Ⅷ	○	非常勤講師	1	1（15）	後期
授業概要 運動器系に疾患をもつ患者の身体セサメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標 1. 運動器系の代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾病を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 （運動器） 第 1 回 整形外科の歴史、総論 第 2 回 整形外科の歴史、総論 第 3 回 外傷の基礎知識 対応について 第 4 回 変形性関節症等 慢性疾患について 第 5 回 末梢神経障害について 第 6 回 脊椎疾患について講義 第 7 回 講義のまとめ（総合的な復習） 第 8 回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 田中 栄著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]，運動器，第 16 版，医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	疾病論IX	○	非常勤講師	2	1 (15)	通年
授業概要 脳神経系、運動器系に疾患をもつ患者の身体セサメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標 1. 脳神経系の代表的疾患の病態生理と主な症状について理解できる。 2. 疾病を診断する主な検査について理解できる。 3. 主な治療について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (脳・神経) 第 1 回 神経解剖 脳機能局在 第 2 回 意識とは 失語症 他 第 3 回 神経診察 診断機器 基本手術 第 4 回 疾患各論 脳動脈瘤 くも膜下出血の病理・管理 第 5 回 大型・巨大動脈瘤 脳梗塞 急性期血行再建 第 6 回 脳虚血の外科 頸部外傷 脳腫瘍 第 7 回 脊髄疾患 神経内科疾患 末梢神経障害 第 8 回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 井手隆文著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7], 脳・神経, 第 16 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	疾病論X	○・○ ○・○	高橋 敦・神 文香 小原 史生・小葉松洋子	2	1 (15)	前期
授業概要 腎泌尿器系、女性生殖器系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。						
到達目標 1. 腎泌尿器の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法が理解できる。 2. 女性生殖器の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (腎・泌尿器/女性生殖器) 授業は、第1～2回(腎・泌尿器)は神 文香、第3回(腎・泌尿器)は小原 史生、第4回(腎・泌尿器)は高橋 敦、第6～8回(女性生殖器)は小葉松洋子が担当する。 (腎・泌尿器) 第1回 腎泌尿器系の解剖生理(復習)、腎・泌尿器疾患の症状と基礎疾患 (腎臓内科の医師) 第2回 尿所見・腎機能、その他検査・診断法 (腎臓内科の医師) 第3回 慢性腎不全の予防・診断・治療法：腹膜・血液透析治療を含めて (腎臓内科の医師) 第4回 腎泌尿器疾患の外科的治療法：腎移植を含めて (泌尿器科の医師) 第5回 第1～4回までのまとめ(20分)、試験(25分) (女性生殖器) 第6回 症状とその病態 診察・検査と治療・処置 第7回 子宮の疾患(子宮内膜症・子宮頸がん・子宮体がん・子宮筋腫) 第8回 卵巣の疾患(卵巣の良性腫瘍・卵巣の悪性腫瘍) 試験(20分)						
評価方法 (腎・泌尿器) 授業終了後の筆記試験にて評価 60点満点(内訳腎臓内科で45点、泌尿器で15点)(25分) (女性生殖器) 授業終了後の筆記試験にて評価 40点満点(20分) ※腎・泌尿器、女性生殖器の試験を合わせて筆記試験評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 今井 亜矢子, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器, 第16版, 医学書院 末岡浩著, 系統看護学講座 成人看護学[9] 女性生殖器 第16版, 医学書院						
参考書						
その他						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	疾病論XI	○・○ ○・○ ○	高野睦子・中里紘 大島陸・吉村英敦 齋田吉伯	2	1（15）	通年
授業概要 （感覚器）感覚器系に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を学ぶ。 （小児）小児に起こりやすい健康障害と症状、治療について学ぶ。						
到達目標 （感覚器）眼科、歯科・口腔内、耳鼻科の疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、治療の方法が理解できる。 （小児）小児の特有な疾患と病態生理、生じうる症状の特徴、治療が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 （感覚器・小児） 授業は、第1回（眼科）は高野睦子、第2回（歯科）は中里紘、第3回（耳鼻科）は大島陸が担当する。第4～5回を吉村英敦、第6～7回を齋田吉伯が担当し、第8回を総まとめ・試験とする。 （眼科） 第1回 眼の解剖生理、緑内障の話、糖尿病性網膜症の理解、他 （歯科） 第2回 病院歯科の役割、顎口腔領域の炎症性疾患、口腔ケア、顎変形症、口腔癌、顎骨骨折、顎関節症、脱臼、顎骨の濾胞 （耳鼻科）第3回 耳・鼻・咽頭・喉頭の解剖生理、耳分野の学習、主な耳疾患、鼻・咽頭・喉頭・唾液腺疾患 （小児科）第4回 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と新生児の疾患と看護、代謝性疾患、内分泌疾患・免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患、血液・造血器疾患と看護 第5回 悪性新生物、腎・泌尿器および生殖器疾患、神経疾患、運動器疾患と看護 皮膚疾患、目疾患、耳鼻咽喉疾患、精神疾患と看護 第6回 感染症と看護、呼吸器疾患と看護 第7回 循環器疾患、消化器疾患と看護 （眼科・歯科・耳鼻科・小児科） 第8回 第1～7回までの総まとめ・試験						
評価方法 眼科・歯科・耳鼻科合わせて筆記試験にて評価30点（15分）、小児科は筆記試験にて評価70点（30分） ※眼科・歯科・耳鼻科・小児科の試験を合わせて筆記試験評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 （眼科） 大鹿哲郎著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼, 第15版, 医学書院 （歯科） 渋谷絹子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔, 第15版, 医学書院 （耳鼻科）小松浩子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉, 第15版, 医学書院 （小児） 奈良間美保著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 第15版, 医学書院						
参考書						
その他						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	疾病論Ⅱ	○・○ ○・○	滝沢礼子・山田佳世 猪野越健一・非常勤講師	1	1 (15)	後期
授業概要 (在宅) 疾病構造と日本や地域で行われている在宅医療の現状を学ぶ。また、在宅医療の対象になる主要疾患を学び、具体的な治療・ケアの実際を理解する。 (精神) 精神障害の診断と分類、それに基づく様々な精神障害について学ぶ。						
到達目標 (在宅) 1. 疾病構造と日本や地域で行われている医療連携システムやチーム医療の実際、ICT活用の現状と今後の課題を理解する。 2. 在宅医療の対象となる主要疾患を学び、具体的な治療・ケアの実際を理解する。 3. 自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて理解する。アドバンスケアプランニング（ACP）の取り組みの実際について学ぶ。 (精神) 1. 主な精神疾患と診断・分類、それに基づく様々な精神症状について学ぶ。 2. 精神療法（薬物療法、環境療法、社会療法）の実際を理解する。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 (在宅・精神) 授業は、第1・2回は山田佳世、第3回は猪野越健一、第4～5回は滝沢礼子が担当し、第6回～第8回は非常勤講師が担当する。 (在宅) 第1回 在宅医療の実際を学ぶ、具体的な治療・ケアの実際① 第2回 在宅医療の実際を学ぶ、具体的な治療・ケアの実際② 第3回 アドバンスケアプランニング（ACP）の取り組みの実際について学ぶ 第4回 在宅医療の効果的な情報連携を学ぶ、地域医療介護連携ネットワーク ICT活用、オンライン診療 第5回 第1～4回までのまとめ（20分）、試験（25分）（1H） (精神) 第6回 主な精神疾患と診断方法、症状について① 第7回 主な精神疾患と診断方法、症状について② 第8回 精神療法について 薬物療法、環境療法 社会療法、試験（20分）						
評価方法 在宅は筆記試験にて評価60点（25分）、精神は筆記試験にて評価40点（20分） ※在宅・精神の試験を合わせて筆記試験評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 河原 加代子著、系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 第6版、医学書院 河原 加代子著、系統看護学講座 地域・在宅看護の実際 第6版、医学書院 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 第6版、医学書院 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 第6版、医学書院						
その他						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	治療論	○・○ ○・○ ○・○ ○・○	松田華加・澁田達史 木幡恵子・賀口寿乃 大須田恒一・中签郁 佐藤大樹・堺谷富美子	2	1 (30)	通年

授業概要

疾病の回復を促進する各治療の原理と実際を学ぶ。

到達目標

(外科的治療・手術療法)

1. 外科的治療の特徴と実際について理解することができる。
2. 手術侵襲とはなにか、手術侵襲の生体反応について理解することができる。

(麻酔)

1. 麻酔の種類や方法、生体反応について理解することができる。
2. 呼吸管理について理解することができる。

(救命救急)

1. 救急処置の対象となる患者の特性について理解することができる。
2. 救急処置法の原則について理解することができる。
3. 心肺蘇生法（一次救命・二次救命）について理解することができる。

(食事療法)

1. 食事療法の意義について説明できる。
2. 治療食の種類と分類について説明できる。
3. 食事療法の実際について説明できる。

(放射線治療)

1. 放射線とはなにか、その種類と性質について理解することができる。
2. 放射線診断と放射線治療について理解することができる。

(理学療法)

理学療法とは何か その実際について理解することができる。

(作業療法)

作業療法とは何か その実際について理解することができる。

(言語療法)

言語療法とは何か その実際について理解することができる。

授業計画・授業内容 授業形態： 講義

(外科的治療・手術療法・麻酔・救命救急・食事療法・放射線治療・理学療法・作業療法・言語療法)

全16回(30H)の授業は、第1～4回(外科的治療・手術療法)は松田華加、第5回(麻酔)と第6回(救命救急)は澁田達史、第7～10回(食事療法※10回目は1H)は木幡恵子、第11～12回(放射線治療)は賀口寿乃と大須田恒一診療放射線技師、第13回(理学療法)は中签郁、第14回(作業療法)は佐藤大樹、第15回(言語療法)は堺谷富美子が担当する。第16回目は、試験(1H)とする。

(外科的治療・手術療法)

- 第1回 外科医療の基礎、外科的治療の特徴と変遷、手術侵襲と生体の反応、炎症、感染症、創傷治癒、
 第2回 外科的治療を要する疾患、症状 外科的治療の適応、腫瘍、外傷・熱傷とショック
 第3回 外科的治療の実際 外科的基本手技、低侵襲手術、臓器移植
 第4回 輸血療法、体液管理、栄養管理

(麻酔)

- 第5回 麻酔法、呼吸管理、緩和医療

(救命救急)

- 第6回 救急患者の特性、重篤な病態の把握と治療、心肺蘇生法(一次救命・二次救命)

<p>(食事療法)</p> <p>第 7 回 (栄養素の復習、消化吸収) NST と看護と食事 病院食 栄養補給法 生活習慣病 ・糖尿病 ・高血圧症 ・脂質異常症の食事の実際</p> <p>第 8 回 DM 交換表例 呼吸器疾患 ・循環器疾患の食事 消化器疾患の食事、栄養補給 (胃、腸、肝臓)</p> <p>第 9 回 膵炎 腎疾患の食事①</p> <p>第 10 回 膵炎 腎疾患の食事② (1H のみ)</p> <p>(放射線治療)</p> <p>第 11 回 放射線治療について</p> <p>第 12 回 画像診断について</p> <p>(理学療法)</p> <p>第 13 回 理学療法の実際について</p> <p>(作業療法)</p> <p>第 14 回 作業療法の実際について</p> <p>(言語療法)</p> <p>第 15 回 言語療法の実際について</p> <p>(外科的治療 ・手術療法) (麻酔) (救命救急) (食事療法) (放射線治療) (理学療法) (作業療法) (言語療法)</p> <p>第 16 回 第 1～15 回目までの試験 (1H)</p>
<p>評価方法</p> <p>外科的治療 ・手術療法は筆記試験にて評価 25 点 (10 分)、麻酔 ・救急救命は筆記試験にて評価 15 点 (6 分)</p> <p>放射線療法は筆記試験にて評価 15 点 (6 分)、食事療法は筆記試験にて評価 25 点 (10 分)</p> <p>理学療法 ・作業療法 ・言語療法は筆記試験にて評価 20 点 (13 分)</p> <p>※外科的治療 ・手術療法 ・麻酔 ・救急救命 ・放射線療法 ・食事療法 ・理学療法 ・作業療法 ・言語療法の試験を 合わせて筆記試験評価 100%、試験は 60 点以上で合格</p>
<p>使用教科書</p> <p>(外科的治療) (手術療法)</p> <p>矢永勝彦著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第 12 版, 医学書院</p> <p>北島政樹他, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 第 10 版, 医学書院</p> <p>(麻酔)</p> <p>矢永勝彦著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第 12 版, 医学書院</p> <p>(救命救急)</p> <p>矢永勝彦著, 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第 12 版, 医学書院</p> <p>(食事療法)</p> <p>小野章史著, 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[3] 栄養学 第 14 版第, 医学書院</p> <p>中村丁次著, 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 第 5 版, 医学書院</p> <p>日本糖尿病学会編著, 糖尿病食事食品交換表 第 7 版, 日本糖尿病協会 ・文光堂, 令和 1 年</p> <p>(放射線治療)</p> <p>尾尻博也著, 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 第 10 版, 医学書院</p> <p>(理学療法) (作業療法) (言語療法)</p> <p>山本 恵子, 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 第 7 版, 医学書院</p>
<p>参考書</p> <p>特になし</p>
<p>その他</p> <p>特になし</p>

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	薬理学	○	横山 基樹	1	1 (30)	後期
授業概要						
薬理作用の基礎知識に基づき、主な薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬理の管理について学び、疾病の回復を促進する薬物療法の原理を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な疾患の機序と理解するとともに、それに関連する薬物の薬理作用に関して説明できる。 2. 薬物の主作用と有害作用を理解するとともに相互作用や耐性について説明できる。 3. 実臨床において、薬剤を使用する目的と、その際の注意点を説明できる。 						
授業計画・授業内容 講義形態： 講義						
<p>第 1 回 薬物が作用するしくみと投与経路による作用の違い</p> <p>第 2 回 薬物の ADME について 作用と副作用について</p> <p>第 3 回 末梢神経系の作用薬について（交感神経系と副交感神経系の役割と薬物が作用する事による生体反応について）</p> <p>第 4 回 中枢神経系の作用薬について（麻酔薬・催眠薬・抗不安薬・抗精神病薬・抗うつ薬・パーキンソン病治療薬）</p> <p>第 5 回 中枢神経系の作用薬について（抗てんかん薬・麻薬性鎮痛薬）</p> <p>第 6 回 抗感染症薬について（感染症に使用される治療薬と、特殊な感染症とその治療薬について）</p> <p>第 7 回 抗ガン薬について</p> <p>第 8 回 免疫治療薬について・抗アレルギー薬について・抗炎症薬について</p> <p>第 9 回 循環器系に作用する薬物について（抗高血圧薬・狭心症治療薬・心不全治療薬）</p> <p>第 10 回 循環器系に作用する薬物について（抗不整脈薬・利尿薬・脂質異常治療薬）</p> <p>第 11 回 循環器系に作用する薬物について（抗血液凝固系治療薬・貧血治療薬）</p> <p>第 12 回 呼吸器系に作用する薬物について・消化器系に作用する薬物について・生殖器系に作用する薬物について</p> <p>第 13 回 物質代謝に作用する薬物について（糖尿病治療薬・甲状腺疾患治療薬・骨粗鬆症治療薬・ビタミン）</p> <p>第 14 回 皮膚科用薬・眼科用薬について・救急に使用される薬剤について・漢方薬について</p> <p>第 15 回 消毒薬について・輸液及び血液製剤について・試験</p> <p>※ 講義の進捗状況に応じて調整することがある。</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
吉岡充弘著，系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学，第 16 版，医学書院						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	保健医療論	○	中田 智明	3	1 (15)	通年
授業概要 保健医療の概念を理解し、健康な生活と現在の保健医療・福祉との関係および保険医療・福祉に関する問題・保健医療の動向について理解する。						
到達目標 1. 先進医療技術の進歩と対極にある「病と死」の問題や「命とは何か」「健康とは」の問いに対する医学・看護学の現状について理解することができる。 2. 医療の歴史を振り返り、現代医学の起源や各時代の医療観の変遷について理解することができる。 3. 現代医学と先端医療技術の現状、現代医療の新たな課題を理解することができる。 4. 人々が健康で安心して暮らせるような保健・医療・福祉のあり方や医療従事者のもつべき国際的な視点について理解することができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 医療コミュニケーションの原点、医療と看護の原点 (序章、第 1 章) 第 2 回 医療と看護の原点 「命とは」、「健康とは」、病と癒し、チーム医療とマネジメント (第 1 章) 第 3 回 医療の歩みと医療観の変遷 (第 2 章) 第 4 回 私たちの生活と健康 (第 3 章) 第 5 回 科学技術の進歩と現代医療の最前線 (第 4 章) 第 6 回 現代医療の新たな課題、医療を見つめ直す新しい視点 (第 5 章) 第 7 回 保健・医療・福祉の潮流 (第 6 章) 第 8 回 試験 (1h)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 小泉俊三著、系統看護学講座 別巻 総合医療論、第 4 版、医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	公衆衛生学		非常勤講師	1	2 (30)	前期
授業概要 集団の中で健康現象を捉え、個と個の関係、個と環境との関係、集団と集団との関係という広い視野での生態学的なものを見方を学ぶ。健康現象を集団の中で捉え、医療を社会的・文化的な視点から総合的に理解する。人々の健康を保持増進し、疾病を予防し保健医療・福祉に関する環境を保全し、社会の活力を高める機能を理解する。						
到達目標 1. 公衆衛生の概念や活動方法、健康の考え方や成立要素に関して説明することができる。 2. 人口生態統計、人口動態統計に関して理解できる。 3. 感染症や食中毒に関して医療従事者としての必要な説明ができる。 4. 食品衛生や生活環境に関する基本的な知識を理解している。 5. 母子保健、学校保健、産業保健に関する活動や仕組みを説明できる。 6. 生活習慣病や精神保健に関する基本的な知識を理解している。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 初回ガイダンス 公衆衛生学の学び方 第 2 回 公衆衛生の概念や活動の方法について 第 3 回 健康の成立要素 集団検診 疫学について 第 4 回 健康の指標 人口静態統計 (出生地) 第 5 回 健康に関する指標 人口動態統計 出生、死亡 死因等 第 6 回 感染症・成立三要因 ・感染症法・予防接種等 第 7 回 感染症法の理解 (対象疾患など) 第 8 回 食品と衛生 (食中毒・国民の栄養状態) 第 9 回 生活環境の保全について (地球環境問題、生活環境他) 第 10 回 医療・介護の保障制度 (保険・サービス他) 第 11 回 母子保健 (1) (母子保健の指標、乳児死亡率、死産 他) 第 12 回 母子保健 (2) (母子保健の制度、母子保健行政 他) 第 13 回 学校保健 労働衛生 (子どもたちの健康 働く人々の健康) 第 14 回 生活習慣病 精神健康対策 他 まとめ 第 15 回 試験と評価 試験及び全体解説						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 清水忠彦著、わかりやすい公衆衛生学、第 4 版、ヌーヴェルヒロカワ 井部俊子他、国民衛生の動向 (第 70 巻第 9 号)、一般財団法人 厚生労働統計協会						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門基礎分野	社会福祉		寺尾 賢一	3	1 (15)	前期
授業概要 社会福祉の概念を理解し、社会福祉の制度・関連法規について理解する。						
到達目標 1. 現代社会の変化（人口、地域社会、家族・個人、経済状況の変化）について理解できる。 2. 医療保障制度の構造と体系、特徴について理解できる。 3. 医療保険の種類、特徴について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 社会福祉とは・福祉の 3 つの領域・社会保障とは、目的、機能・体系 第 2 回 社会保障について 現代社会の動向 第 3 回 現代社会の状況 医療保障 第 4 回 医療保障 医療保険について 第 5 回 介護保険制度について 第 6 回 介護・所得・公的保証について 第 7 回 公的扶助 社会福祉の分野 社会福祉の実践と医療 第 8 回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 福田素生著，系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉，第 27 版，医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門基礎分野	関係法規	○	澤田 信子 小林 美紗	3	2 (30)	通年
授業概要 健康な生活を維持するための、保険医療の制度と関連する法規について学ぶ。専門職業人として看護師の責任と義務等に関する法規を学ぶ。						
到達目標 1. 法に対する基本的知識を学ぶことにより、社会生活を営む者としての再認識できる。 2. 法制度改正の変遷と、現在の制度を理解することで未来の課題を考えることにつながる。 3. 医療、介護サービスの提供体制改革後の姿がみえ、自分の働く場所、役割を描くことができる。 4. 保健師助産師看護師法を中心に医療、福祉関連資格者法を学び看護の専門性を考えることができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 全 15 回 (30H) の授業は、第 1～8 回は小林美紗、第 9～16 回は澤田信子が担当。 第 1 回 導入、シラバスの説明 第 1 章 法の概念 第 2 回 第 4 章 保健衛生法① A 共通保健法令 B 分野別保健法令 第 3 回 第 4 章 保健衛生法② C 感染症に関する法令 D 食品に関する法令 E 環境衛生の法令 第 4 回 第 5 章 薬務法 A 薬事一般 B 人などの組織を用いた医療関連 C 薬害被害者の救済 D 麻薬・毒物などの規制 第 5 回 第 6 章 社会保険法 A 医療・介護の費用保障 B 年金 第 6 回 第 8 章 労働法と社会基盤整備 A 労働法 B 社会基盤整備など 第 7 回 第 9 章 環境法 A 環境保全の基本法令 B 公害防止の法令 C 自然保護の法令 第 8 回 第 1 回～第 7 回までの総まとめ・筆記試験の実施 (1H) 第 9 回 第 2 章 看護法 A 保健師助産師看護師法① 第 10 回 第 2 章 看護法 A 保健師助産師看護師法② 第 11 回 第 2 章 看護法 B 看護師等の人材確保の促進に関する法律 第 12 回 第 3 章 医事法 A 医療法 B 医療に関する資格 第 13 回 第 3 章 医事法 C 医療を支える法 第 14 回 第 7 章 福祉法 A 福祉の基盤 B 児童分野 第 15 回 第 7 章 福祉法 C 高齢分野 D 障害分野 E 手当 第 16 回 第 9 回～第 15 回の総まとめ 筆記試験の実施 (1H)						
評価方法 第 1～7 回は筆記試験にて評価 50 点満点 (20 分程度)、第 9～15 回は筆記試験にて評価 50 点満点 (20 分程度) 第 8 回と第 16 回の各授業終了後の筆記試験にて評価 100%、合算し 60 点以上で合格						
使用教科書 森山幹夫著、系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令、第 58 版、 医学書院 看護行政研究会 看護六法 令和 8 年版 新日本法規出版						
参考書 特になし						
その他 第 1 回～第 15 回の授業は、プロジェクター環境で行います。						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護学概論	○	太田 希子	1	1 (30)	前期
授業概要						
人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の役割について理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度について学習する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の終了時には、「看護とは何か」現時点で考える自己の看護について述べるができる。 2. 現在の看護に至るまでの歴史的変遷と看護理論家の業績について学び、「看護」への関心を持つことができる。 3. 看護の対象となるのは、人であり、心と体・社会において生活者であること、家族の大切さについて理解し述べるができる。 4. 看護における倫理とは何か、なぜ倫理を学ぶ必要があるのか、具体的な事例を通して考え、述べるができる。 5. 現代社会における医療・保健・福祉サービスの仕組みが理解でき、様々な職種の中での看護師の役割について説明することができる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義						
全 15 回の授業形式は、講義、講義内ミニグループワーク演習で構成する。						
第 1 回 シラバスの説明、看護とは何をする職業なのか、看護師の役割と看護独自の機能、看護とは						
第 2 回 看護とは 看護の歴史、看護理論、看護の主要な概念						
第 3 回 看護とは 看護理論家から学ぶ看護						
第 4 回 看護とは 看護の役割と機能、看護の継続性と情報共有、看護実践に必要な要素と質の保障						
第 5 回 看護の対象の理解①						
第 6 回 看護の対象の理解②						
第 7 回 国民の健康状態と生活①						
第 8 回 国民の健康状態と生活②						
第 9 回 看護の提供者①						
第 10 回 看護の提供者②						
第 11 回 看護における倫理、倫理的問題やジレンマの解決①						
第 12 回 看護における倫理、倫理的問題やジレンマの解決②						
第 13 回 看護の提供の仕組み、提供の場と人員配置、サービスの評価決定の仕組みの理解①、						
第 14 回 看護の提供の仕組み、提供の場と人員配置、サービスの評価決定の仕組みの理解②						
第 15 回 まとめ、最終レポート「私の考える看護」						
※授業内容は、理解度、進度により変更する場合がある。						
評価方法						
毎回授業終了後の学び提出 (配点 28 点)、ナイチンゲール看護覚書を熟読後のワークブック取り組み状況 (配点 42 点)、最終レポート (30 点) にて評価。合計 100 点満点中、60 点以上で合格。60 点未満は、再試験あり。						
《評価基準》						
①授業終了後の学び：全 14 回記入し翌日 8 : 50 までに提出。評価は 2 段階 (良い 2 点、やや不足 1 点、不足及び未提出 0 点)						
②ワークブックで学ぶ「ナイチンゲール看護覚書」は、授業前日までに「看護覚書」の該当箇所を熟読し重要部分にマーカーを引き、ワークに取り組む。授業終了後にワークと覚書を回収。評価は 3 段階 (大変良い 3 点、良い 2 点、不足 1 点、取り組んでいない 0 点) 全 14 回提出あり。						
③最終レポートは、今までの授業で学んだ“看護とは”を踏まえ、「私の看護観」について記述する。						
使用教科書						
茂野香おる他、基礎看護学[1]看護学概論 第 18 版, 医学書院						
参考書						
フローレンスナイチンゲール著 湯植ます他訳, 看護覚え書, 改訳第 7 版, 現代社						
徳本弘子著, ワークブックで学ぶナイチンゲール看護覚え書, メジカルフレンド社, 第 1 版						
その他						
1. 授業外に行うべき学習 ナイチンゲールの看護覚え書を読み、毎回ワークブックの練習問題を解く。テキストと授業資料を活用し、授業アンケートの本日の学びを詳細に記入し復習を行なう。						
2. 電子黒板使用、DVD 使用						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護学技術 I	○	笹木 郁哉	1	1 (30)	前期
授業概要 バイタルサイン測定、身体計測の目的の学習と技術の習得のための演習を行う。						
到達目標 1. バイタルサインの変動とその要因について述べるができる。 2. バイタルサイン測定の意義をふまえて、正確にバイタルサイン測定の実施ができる。 3. 身体計測の目的と方法、計測にあたっての留意点を理解し、安全安楽に実施できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 (スクリーニング) 全 15 回の授業は笹木郁哉が担当、授業の形式は講義と演習で構成し、第 15 回は総まとめ・試験とする。 第 1 回 看護技術の特徴・範囲、看護技術を適切に実践するための要素、看護技術の発展と取得のために 第 2 回 スクリーニング、ヘルスアセスメントとは 健康とセルフケア能力のアセスメント 全体の概観 第 3 回 ホメオスタシス、バイタルサイン観察の意義、変動因子と個体差、一般的な方法「体温」「脈拍」 第 4 回 一般的な方法「体温」「呼吸」 第 5 回 一般的な方法「脈拍」 第 6 回 一般的な方法「血圧」 第 7 回 一般的な方法「意識」、看護における記録と報告 第 8 回 バイタルサイン測定デモンストレーション (デモンストレーション後、各自練習) 第 9 回 バイタルサイン測定の技術練習 第 10 回 バイタルサイン測定演習 (最終評価を受ける) 第 11 回 バイタルサイン測定演習 (最終評価を受ける) 第 12 回 身体計測のそれぞれの目的と留意点、それぞれの計測からわかること 第 13 回 身体計測演習 第 14 回 身体計測演習 第 15 回 第 1 回～第 14 回の総まとめ・試験						
評価方法 ① 技術演習 レポートとチェックリスト提出 (時間厳守) 10 点 ② 技術練習 体温・脈拍・呼吸・血圧の測定を自己練習し担当教員の評価を受ける 20 点 ③ 筆記テスト 70 点 (①～③の合計 100 点満点とし、60 点未満は不合格とする)						
使用教科書 茂野香おる他、基礎看護技術 I・基礎看護学②, 第 19 版, 医学書院 任 和子他, 基礎看護技術 II・基礎看護学③, 第 19 版, 医学書院 熊谷たまき他, フィジカルアセスメントがみえる, 第 1 版, メディックメディア						
参考書 任 和子他, 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 第 3 版, 医学書院 必要時、プリントを配布する						
その他 技術演習後の技術練習の方法やグループ、担当教員について説明する						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	基礎看護学技術Ⅱ	○	小笠原 直美	1	1 (30)	前期
授業概要						
ヘルスアセスメントの概念、フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データを学ぶ。身体各部の形態や、身体機能を正しく計測し評価することを学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義・目的・基礎的知識が理解できる。 2. 人体の構造と機能を関連付けながら、フィジカルイグザミネーションの基本的知識が理解できる。 3. 観察事項の意味を理解し、測定値を正確に得るための技術を身につけることができる。 4. 観察や測定値を評価・活用するためのフィジカルアセスメントが理解できる。 5. 系統別フィジカルアセスメントが理解できる 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習						
<p>(フィジカルアセスメント)</p> <p>授業形式は、講義、演習、DVD 学習から構成する。演習の前には必ずデモンストレーションを実施する。</p> <p>第 1 回 ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントとはなにか。問診・視診・聴診・触診・打診の基礎的知識</p> <p>第 2 回 ヘルスアセスメントの実際。基本情報（健康歴）の聞き取り、インタビューの実際。全身状態の把握。</p> <p>第 3 回 呼吸・循環の解剖生理・診察、測定の意義、イグザミネーションの測定技術と留意点。</p> <p>第 4 回 呼吸・循環器のイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際 (DVD 視聴、シュミレーションモデルの活用)</p> <p>第 5 回 腹部の解剖生理、診察・測定の意義、イグザミネーションの測定技術と留意点。</p> <p>第 6 回 腹部のイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際 (DVD 視聴、シュミレーションモデルの活用)</p> <p>第 7 回 脳神経系/筋・骨格系の解剖生理、診察・測定の意義、イグザミネーションの測定技術と留意点。</p> <p>第 8 回 脳神経系/筋・骨格系のイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際 (DVD 視聴、シュミレーションモデルの活用)</p> <p>第 9 回 脳神経系/筋・骨格系のイグザミネーション・フィジカルアセスメントの実際 (DVD 視聴、シュミレーションモデルの活用)</p> <p>第 10 回 胸部の視診、触診、打診、呼吸音聴取、心音聴取の技術練習と観察</p> <p>第 11 回 腹部視診、聴診、触診・打診の技術練習と観察</p> <p>第 12 回 演習の説明と準備</p> <p>第 13 回 胸部の視診・聴診・打診、呼吸音聴取、腹部視診・聴診・触診の演習</p> <p>第 14 回 胸部の視診・聴診・打診、呼吸音聴取、腹部視診・聴診・触診の演習</p> <p>第 15 回 第 1～14 回までの総まとめ・試験 (1H)</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点の 6 割 (60 点) 以上で合格						
使用教科書						
茂野香おる他, 基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②, 第 19 版, 医学書院 任 和子他, 基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③, 第 19 版, 医学書院 熊谷たまき他, フィジカルアセスメントがみえる, 第 1 版, メディックメディア						
参考書						
坪井良子・松田たみ子編, 考える基礎看護技術Ⅰ 看護技術の実際, 第 3 版, ヌーヴェルヒロカワ						
その他						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中はパソコン、電子黒板を使用する場合がある 2. 演習は実習室で行う。事前に教科書で手順や根拠を確認し、演習に臨むこと 3. 演習はあらかじめ提示したグループで実施する。練習はグループで行うこと 4. 模擬患者へは、倫理的配慮を十分に行う。 						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護学技術Ⅲ	○	長崎 加奈	1	1 (30)	通年
授業概要 看護実践に必要な看護過程の基本的事項や構成要素について学ぶ。さらに健康障害を持つ対象の紙上事例を通して、看護過程展開方法について学ぶ。						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは何か、看護過程を用いる意義が理解できる。 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考えについて理解することができる。 3. 看護過程を構成する要素とそのプロセスが理解できる。 4. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、その基本的な考え方が理解できる。 5. 事例を用いた看護過程展開をし、情報収集から看護計画の立案までを行うことができる。 						
授業計画・授業内容 授業形態：講義・演習 (看護過程) 授業形式は、講義、グループワーク、演習で構成する(第1～5回目までが講義、第6～10回まで演習、グループワーク10回～15回まで事例展開とする)						
第1回 看護過程とは 1) 看護・看護過程の歴史 2) 看護過程とは何か 3) 看護過程の構成要素 4) 看護過程を用いる利点 第2回 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的判断 4) リフレクション 第3回 看護過程の各段階 アセスメント(情報収集とは 情報収集の方法 主観・客観的情報の分類 情報の持つ意味の分析) 第4回 看護過程の各段階 アセスメント(全体像) 看護問題の明確化(看護診断) 看護問題の種類、看護問題の優先順位 第5回 看護過程の各段階 看護計画立案・実施・評価 第6回 事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習① 第7回 事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習② 第8回 事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習③ 第9回 事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習④ 第10回 事例を用いた看護過程展開の実際について、簡単な練習問題を用いて演習⑤ 第11回 事例展開、個人指導(情報の分類・分析まで) 第12回 事例展開(情報の分類・分析まで) 第13回 事例展開(全体像まで) 第14回 事例展開(関連付け・優先順位まで) 第15回 事例展開(看護計画立案まで)						
評価方法 紙上事例展開 評価表 100%(事例事前学習・アセスメント～看護計画立案まで)、評価表60点以上で合格						
使用教科書 茂野香おる他, 基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②, 第19版, 医学書院 岡庭豊, 看護がみえる vol.4 看護過程の展開, 第1版, メディックメディア						
参考書 必要時、プリントを配布する						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護学技術Ⅳ	○ ○	立石 加津代 影浦麻美 (中井幾子)	1	1 (30)	前期
授業概要 看護実践の基盤となる基本技術 (感染防止の技術、安全確保の技術) を学習する。						
到達目標 1. 医療機関での感染防止の必要性が理解できる。 2. 感染防止における看護師の責務と役割が理解できる。 3. 感染予防の具体的方法の技術を身につけることができる。 4. 罨法の目的と方法・留意点を理解し、安全安楽に実施できる。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義・演習 (安全・安楽/罨法・無菌操作) 全 15 回の授業は、第 1～7 回を立石加津代が担当し、第 9～15 回を影浦麻美 (中井幾子) が担当し、授業形式は講義と演習で構成する。8 回目と 16 回目はまとめ、試験とする。 第 1 回 感染とその予防の基礎知識 第 2 回 感染防止対策の基本である衛生的手洗い (流水による手洗い・擦式アルコール消毒) を実践/演習① 第 3 回 標準予防策 (スタンダードプリコーション) 第 4 回 個人防護用具着脱を实践/演習② 第 5 回 感染経路別予防策 第 6 回 医療事故防止の必要性を理解し、安全確保の基礎技術について 第 7 回 危険予知トレーニング事例 (グループワーク) 第 8 回 (45 分講義) まとめ・試験 (20 分) 第 9 回 罨法とは。温罨法・冷罨法それぞれの方法と留意点 第 10 回 温罨法・冷罨法デモンストレーション、技術練習 第 11 回 温罨法・冷罨法演習① 第 12 回 無菌操作について 第 13 回 無菌操作デモンストレーション・技術練習 第 14 回 無菌操作演習② 第 15 回 無菌操作演習 第 16 回 (45 分講義) まとめ・試験 (20 分)						
評価方法 安全・安楽 ・演習①②各レポート・チェックリスト提出 各 5 点×2 回=10 点 安全・安楽筆記試験 40 点 罨法・無菌操作 ・演習①②各レポート・チェックリスト提出 各 5 点×2 回=10 点 罨法・無菌操作筆記試験 40 点 合わせて 100 点とし、60 点以上で合格						
使用教科書 茂野香おる他, 基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②, 第 19 版, 医学書院 任 和子他, 基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③, 第 19 版, 医学書院						
参考書 竹尾恵子 看護技術 プラクティス , 第 4 版, 学研						
その他 電子黒板, DVD 使用。グループワーク, 演習ではパートナーの技術をチェックする						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	基礎看護学技術V	○	長崎 加奈	1	1 (15)	前期
授業概要 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整について学ぶ。 ベッド周囲と病床の環境整備・ベッドメイキング・リネン交換の実際について学ぶ。						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者が療養する実際の生活環境と、それに求められる看護援助が理解できる 2. 病室内の生活環境条件（室内の気候、空気の清浄性、におい、光や音など）が理解できる 3. プライバシーの保持や個々のテリトリーの必要性を学び、看護援助につなげていくことができる 4. ベッドメイキング、環境整備、リネン交換の基本的技術が実施できる 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 （環境） 講義は教室もしくは実習室で実施。演習は演習室にて合計2回実施。演習の進め方についてはその都度説明。 第1回 患者が療養する実際の生活環境について 病室内の環境（室内の気候、空気の清浄性、におい、光や音など）のアセスメントと調整について プライバシーの保持や個々のテリトリーの必要性について 第2回 ベッドメイキングと臥床患者がいる状態でのリネン交換の方法・根拠と演習の進め方について 説明する。ベッドメイキングのデモンストレーション、その後技術練習 第3回 <演習①>ベッドメイキングを実践（演習室使用） 第4回 <演習①>ベッドメイキングを実践（演習室使用） 第5回 環境整備について 第6回 <演習②>臥床患者がいる状態でのリネン交換を実践、その後環境整備（演習室使用） 第7回 <演習②>臥床患者がいる状態でのリネン交換を実践、その後環境整備（演習室使用） 第8回 試験						
評価方法 筆記試験 85% 演習毎のレポート 5%×3回=15% 合計 100点満点中 60点以上で合格						
使用教科書 任 和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第19版，医学書院 フローレンスナイチンゲール著 湯槇ます他訳，看護覚え書，改訂第7版，現代社						
参考書 本江朝美他，看護学生のための臨地実習ナビ，第1版，照林社 竹尾恵子 看護技術 プラクティス ，第4版，学研						
その他 <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中はパソコン、電子黒板を使用する場合がある 2. 演習は実習室で行う。事前に教科書で手順や根拠を確認し、自主練習を行ったうえで演習に臨むこと 3. 演習はあらかじめ提示したグループで実施する。練習はなるべくグループで行うこと 						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	基礎看護学技術VI	○ ○	佐藤 愛子 川崎 美蘭	1	1 (30)	前期
授業概要 「基礎看護学Ⅰ」で学んだ考え方を適応し、医療安全の確保・患者および家族への説明と助言・的確な看護判断と適切な看護技術の提供ができるための看護技術分類 14 領域の「5. 清潔・衣生活の援助技術」の看護援助を行う具体的方法について学習する。						
到達目標 1. 皮膚・粘膜の構造と機能について理解し、述べることができる。 2. 清潔援助の効果と全身への影響を理解し、述べるができる。 3. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学び実施して評価することができる。 4. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の手順を学び実施して評価することができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 （清潔・衣生活） 第 1 回 講義：授業計画・評価の説明 身体の清潔を保つ援助方法の種類と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点、衣生活の意義と重要性 第 2 回 全身清拭と寝衣交換デモンストレーション 第 3 回 演習：全身清拭と寝衣交換を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 4 回 3 回に引き続き、演習：全身清拭と寝衣交換を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 5 回 講義：洗髪の基礎知識と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点、洗髪デモンストレーションの実施 第 6 回 演習：洗髪を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 7 回 演習：洗髪を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 8 回 講義：陰部洗浄とオムツ交換の意義と重要性、デモンストレーション、オムツ体験 第 9 回 口腔ケアの意義と重要性、援助の基礎知識と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点 第 10 回 演習：口腔ケアを実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 11 回 講義：手浴・足浴とフットケアの基礎知識と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点、手浴・足浴デモンストレーションの実施 第 12 回 演習：足浴を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 13 回 第 12 回に引き続き、演習：手浴を実際に実施、患者役・看護師役・評価者の 3 役を経験し自己の看護技術を振り返る 第 14 回 講義：整容（洗面、眼・耳・鼻の清潔、爪切り、髭剃り）の意義と重要性と対象者にとっての安全・安楽な援助方法を選択する視点						

第15回 テスト（筆記試験）

評価方法

筆記試験 100%で100点満点の評価とする。 60点未満は不合格とする。

使用教科書

任 和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第19版，医学書院

参考書

竹尾恵子 看護技術 プラクティス，第4版，学研

三上れつ・小松万喜子編集，演習・実習に役立つ基礎看護技術〔DVD付〕－根拠に基づいた実践をめざして－，第4版，ヌーヴェルヒロカワ

坪井涼子・松田たみ子他，考える基礎看護技術Ⅱ 看護技術の実際，第3版，ヌーヴェルヒロカワ

その他

1. 授業外に行うべき学習

看護技術を習得するには、エビデンスに基づく知識と手順を反復練習して覚える事が重要です
臨床の場に行って患者様に援助ができるようになるには、練習しかありません。

2. 電子黒板使用、VTR 使用

3. 各演習終了後は、自身の援助を振り返る目的でレポートを作成していただきます。

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	基礎看護学技術Ⅶ	○ ○	小笠原 直美 吉田 妙恵子	1	1 (30)	通年

授業概要

食事・排泄・活動・休息における基礎知識の理解を習得し、対象の状態に応じたアセスメントを行い援助技術の方法を習得する。

到達目標

(食事・排泄)

【食事・排泄】

1. 人間にとっての食事・栄養の意義と基礎知識について理解し、栄養状態のアセスメントの方法を身につけることができる。
2. 対象の状況に応じた食事・栄養にかかわる援助方法を身につけることができる。
3. 人間の排尿排便に関するメカニズム及び影響要因が理解できる。
4. 人間にとって排泄の意義、重要性を理解し、排泄機能障害、行動障害の程度など対象の状態をアセスメントできる。
5. 対象に必要な排泄援助技術を、原理原則を踏まえ、安全安楽に実施できる方法を身につけることができる。
6. 対象の状態に合わせた排泄援助技術の創意工夫や応用について考えることができる。

【活動・休息】

1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理が理解できる。
2. いろいろな体位とその目的を理解し、体位変換の援助が理解できる。
3. 車いす・ストレッチャーについて理解し、移乗の援助と移送の方法が理解できる。
4. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害を持つ患者への具体的な援助が理解できる。

授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習

食事・排泄の授業は、第1回～2回・第4～6回は講義、第3回・7回は演習、第8回は総まとめ・試験
活動・休息の授業は、第9～10回、第12・15回は講義、第11回・第13・14回は演習、第16回は活動・休息のまとめ、試験を行う。

【食事・排泄】

- 第1回 栄養状態・体液・電解質のバランス査定 それぞれのアセスメントの方法を学ぶ
日本人の食事摂取基準 栄養素と生活習慣病 日本人の食生活の特徴
食欲を促進するためのケア 食事摂取行為の自立へのケア 食事制限のある場合のケア 食事指導
- 第2回 摂食・嚥下訓練 摂食・嚥下障害の基礎知識（原因・仕組みとメカニズム・アセスメントとリハビリテーション） 観察の視点 援助の実際（基礎訓練・基礎訓練のプロセス・摂食訓練のプロセス）
- 第3回 演習（食事介助の実際）
- 第4回 排泄の意義・排尿排便のメカニズム・排泄のアセスメント 自然排尿・排便の援助
- 第5回 導尿・膀胱留置カテーテル・浣腸・ストーマ造設
- 第6回 摘便・おむつ交換・失禁ケア
- 第7回 演習（床上排泄 尿器・便器）
- 第8回 第1回～第7回までの総まとめ（20分）・試験（20分程度）（1H）

【活動・休息】

- 第 9 回 講義：人間工学的な視点からのボディメカニクス 良い姿勢とは 運動・活動を促す援助の過程
- 第 10 回 講義：いろいろな体位と特徴、体位変換・体位保持の具体的な援助方法
- 第 11 回 演習：(体位変換：水平移動・側臥位・ファウラー位・長座位・端坐位)
- 第 12 回 講義：移動（移乗・移送）の基礎知識・援助の実際
- 第 13 回 演習：(車いすの移乗と移送)
- 第 14 回 演習：(ストレッチャーの移乗と移送)
- 第 15 回 講義：日常生活における休息・睡眠の意義 生体リズムと生理現象 休息と睡眠に関する生活習慣
休息・睡眠を促す方法
- 第 16 回 第 9 回～第 15 回までの総まとめ(20 分)・試験 (20 分程度) (1H)

評価方法

授業終了後の筆記試験にて評価 100%、【食事・排泄】と【活動・休息】の試験を合算し、60 点以上で合格。
内訳：【食事・排泄】試験は 20 分で 50 点満点 【活動・休息】試験は 20 分で 50 点満点

使用教科書

任和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第 19 版，医学書院

参考書

本庄恵子，吉田みつ子監修，写真でわかる実習で使える看護技術，インターメディカ
竹尾恵子 看護技術 プラクティス ，第 4 版，学研

その他

1. 講義中はパソコン、電子黒板を使用する場合があります
2. 演習は実習室で行う。事前に教科書で手順や根拠を確認し、演習に臨んでください。
3. 演習はあらかじめ提示したグループで実施する。

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護学技術Ⅷ	○	吉田 妙恵子	1	1 (15)	前期
授業概要 看護実践の基盤となる基本技術 (コミュニケーション) を学習する。						
到達目標 1. 看護倫理を踏まえたコミュニケーションについて理解できる。 2. グループワークやロールプレイングを通して、コミュニケーション方法が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 (コミュニケーション) 授業形式は講義、グループワーク、演習 (ロールプレイング) で構成する。 第 1 回 コミュニケーションの意義と目的 (DVD : コミュニケーションとは) 第 2 回 コミュニケーションの構成要素と成立過程 第 3 回 関係構築のためのコミュニケーションの基本 第 4 回 効果的なコミュニケーションの実際 第 5 回 コミュニケーション障害への対応 第 6 回 事例による患者さんとのコミュニケーション (グループワーク) 第 7 回 患者とのコミュニケーション場面をロールプレイングで実施 (実習室) 第 8 回 試験						
評価方法 コミュニケーション ・講義および事例・ロールプレイング後、筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点で 60 点以上を合格とする。						
使用教科書 茂野香おる他, 基礎看護技術 I ・基礎看護学②, 第 19 版, 医学書院 任和子他, 基礎看護技術 II ・基礎看護学③, 第 19 版, 医学書院						
参考書						
その他 1. 講義中はパソコン、電子黒板, DVD を使用する場合がある。 2. グループワークでは、事例を使用し患者さんとのコミュニケーション場面について話し合う。 3. 演習：患者役、学生役となり挨拶やコミュニケーションの仕方を学ぶ。						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護技術IX	○	笹木 郁哉	2	1 (30)	通年
授業概要 ケーススタディを通して看護の研究や実践の仕方を学ぶ。						
到達目標 1. ケーススタディを行うことで担当事例の看護実践を客観的に振り返ることができる。 2. 研究目的を明らかにできる。 3. 研究計画書を立てることができる。 4. ケーススタディによって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成することができる。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義・演習 (看護研究) 授業形式は講義、担当教員からの指導とする 第 1 回 看護研究とは 研究計画書の構成について 第 2 回 倫理的配慮について ケーススタディの意義 研究におけるクリティークの意義 第 3 回 ケーススタディの進め方、テーマの決定 第 4 回 担当教員の発表、担当教員からテーマ、研究計画書についての指導 第 5 回 担当教員から原著論文の指導 第 6 回 第 5 回に引き続き担当教員から指導 第 7 回 第 6 回に引き続き担当教員から指導 第 8 回 第 7 回に引き続き担当教員から指導 第 9 回 第 8 回に引き続き担当教員から指導 第 10 回 第 9 回に引き続き担当教員から指導 第 11 回 担当教員から抄録の指導 第 12 回 発表オリエンテーション、発表準備、発表者は発表原稿作成 第 13 回 発表準備 第 14 回 研究発表 第 15 回 研究発表						
評価方法 評価表にて評価 100%、評価表は 100 点満点とし 60 点以上で合格						
使用教科書 坂下玲子ほか, 系統看護学講座 別巻 看護研究, 第 2 版, 医学書院						
参考書						
その他 研究の授業後は担当教員に指導を受けながらケーススタディを完成させます。 最後は研究発表で数人に代表として発表してもらいます。						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	基礎看護学援助論 I	○	長崎 加奈	1	1 (15)	後期
授業概要 検査の介助に関する基礎知識、安静療法、薬物療法、食事療法の基礎知識を学習する。						
到達目標 1. 薬物療法について、与薬の基礎知識、与薬の種類と方法、看護師の役割について理解ができる。 2. 皮膚の構造をふまえ、創傷の治癒過程や褥瘡予防について理解できる。 3. 各種検査の基礎知識、それに携わる看護師の役割について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 （治療・処置・検査） 授業形態は、講義とする。 第 1 回 薬物療法①（与薬方法・薬効・副作用の観察） 与薬の基礎知識と看護師の役割（経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬） 第 2 回 薬物療法②（与薬方法・薬効・副作用の観察） 輸液・輸血管理（刺入部の観察、輸液ポンプ・シリンジポンプ、点滴静脈注射、輸血、注射器・針の構造や種類） 第 3 回 皮膚・創傷管理（包帯法、創傷管理、褥瘡の予防・処置） 第 4 回 救命救急処置の基礎知識（救急対応、心肺蘇生法、一時救命処置、止血法） 第 5 回 検体検査（血液、尿、便、喀痰、胸水、腹水、髄液）、 生体情報のモニタリング（パルスオキシメーター、中心静脈圧） 第 6 回 診察の介助、生体検査（エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学検査）① 第 7 回 生体検査（エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図、内視鏡、核医学検査）② 第 8 回 試験						
評価方法 筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。						
使用教科書 任 和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第 19 版，医学書院 竹尾恵子 看護技術 プラクティス ，第 4 版，学研						
参考書 必要時、プリントを配布する						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	基礎看護学援助論Ⅱ	○	長崎 加奈	3	1(30)	通年
授業概要						
医師の指示のもと、患者が安全に検査、薬物療法を受けられるよう介助技術を学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患の治療・予防・及び健康の保持・増進のために行われる検査・薬物療法の実際が理解できる。 2. 安全・安楽に行う採血法、注射法（皮下注射、筋肉内注射）、輸液法、輸血法の演習を安全に行うことができる。 3. 経口・口腔内・直腸内与薬法、点眼の演習を、安全に行うことができる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習						
(検査・治療・処理：輸血・注射演習法)						
<p>第1回 授業概要の説明、疾患の治療・予防・及び健康の保持・増進のために行われる検査・薬物療法採血デモンストレーション</p> <p>第2回 採血演習（※学生は事前に提示した動画で学習しておく）</p> <p>第3回 採血演習</p> <p>第4回 注射法とは、注射法を実施する際の注意点、実際の方法、デモンストレーション</p> <p>第5回 注射法（皮下注射、筋肉内注射）（※学生は事前に提示した動画で学習しておく） 注射法（皮下注射、筋肉内注射）</p> <p>第6回 注射法（静脈注射）（※学生は事前に提示した動画で学習しておく）</p> <p>第7回 注射法（静脈注射）</p> <p>第8回 輸液法とは、注射法を実施する際の注意点、実際の方法、デモンストレーション</p> <p>第9回 輸液・輸血法演習（※学生は事前に提示した動画で学習しておく）</p> <p>第10回 輸液・輸血法演習</p> <p>第11回 輸液（留置針）演習（※学生は事前に提示した動画で学習しておく）</p> <p>第12回 輸液（留置針）演習</p> <p>第13回 経口的・口腔内・直腸内・経皮的与薬法、点眼法を行う際の注意点、実際の方法、デモンストレーション</p> <p>第14回 経口的・口腔内・直腸内与薬法、点眼法の演習</p> <p>第15回 第1回～第14回の総まとめ・試験</p>						
評価方法						
1. 筆記試験にて評価100%、試験は100点満点とし60点未満は不合格とする。						
使用教科書						
任 和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第19版，医学書院						
参考書						
竹尾恵子 看護技術 プラクティス ，第4版，学研 必要時、プリントを配布する						
その他						
特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野	基礎看護学援助論Ⅲ	○・○	川崎 美蘭・影浦麻美	3	1(30)	通年
授業概要						
看護の対象の健康障害に応じた看護を学ぶ						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 包帯法の基礎知識、基本技術が理解できる。 2. 輸液管理方法が理解でき、安全に実施できる。 3. 呼吸の基礎知識、基本技術が理解できる。 4. 健康障害に応じた診療の補助の実際を学ぶとともに、苦痛を伴う患者の心身のケアについても理解できる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習						
(検査・治療・処置：輸液他)						
全15回の授業形式は、講義、演習・デモンストレーションで構成する。						
第1～2回	包帯法の目的、包帯の種類、包帯の巻き方の基本、デモンストレーション					
第3回	包帯の巻き方(環行帯、らせん帯、麦穂帯、折転帯、亀甲帯、蛇行帯)演習					
第4回	人工呼吸療法による呼吸および全身管理の方法					
第5回	人工呼吸器を用いて、人工呼吸器の操作方法や留意点について説明する					
第6回	人工呼吸器を用いて、人工呼吸器の操作方法や留意点について説明する					
第7～8.5回	輸液準備(輸液セット・三方活栓使用方法・点滴テープ固定)、輸液速度調整の技術練習 輸液ポンプ・シリンジポンプのデモンストレーションをし、その後演習					
第9～10回	演習準備(事例)					
第11回	総まとめ、練習					
第12回	総まとめ、練習					
第13～14回	総まとめ、演習					
第15回	試験					
評価方法						
①技術演習 レポートとチェックリストの提出 (包帯法、輸液ポンプ、三方活栓、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器) 15%						
②筆記試験 85% ①技術演習と②筆記試験を合わせて60%以上で合格						
使用教科書						
香春知永他 臨床看護総論・基礎看護学④, 第7版, 医学書院 任和子他, 基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③, 第19版, 医学書院						
参考書						
竹尾恵子 看護技術 プラクティス , 第4版, 学研 必要時プリントを配布する						
その他						
特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	基礎看護学援助論Ⅳ	○	立石 加津代	1	1(30)	通年
授業概要						
看護の対象と（家族を含む）なる人々、特に健康障害を持つ対象を理解し、健康障害（主要症状）に応じた看護を学ぶ。						
到達目標						
1. 健康障害に関連する症状のメカニズムについて理解できる。 2. 健康障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメントについて理解できる。 3. 健康障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助と実際を理解できる。						
授業計画・授業内容						
授業形態： 講義・演習 （症状別看護） 全15回の授業形式は、講義、演習・デモンストレーションで構成する。						
第1回 呼吸機能に関連するメカニズム 代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント看護援助（呼吸方法、体位の工夫、日常生活・不安の援助、酸素投与・ネブライザー） 第2回 活動・運動や睡眠に関連するメカニズム 代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント看護援助（安楽な体位、褥瘡予防（褥瘡発生のメカニズム・好発部位・リスクアセスメント援助の実際） 第3回 栄養・代謝のメカニズム 栄養・代謝障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント看護援助（非経口的栄養摂取の援助、経管栄養法とその実際（胃管挿入・栄養物注入） 第4回 栄養・代謝のメカニズム 栄養・代謝障害に関連する代表的な症状と発症のメカニズム・看護上のニーズ・アセスメント看護援助（非経口的栄養摂取の援助、経管栄養法とその実際（胃管挿入・栄養物注入） 第5回 演習： 胃管挿入・栄養物注入 デモンストレーション： 酸素吸入・ネブライザー 第6回 演習： 胃管挿入・栄養物注入 デモンストレーション： 酸素吸入・ネブライザー 第7回 循環障害に関連する症状のメカニズム 代表的な症状と発症メカニズム・看護上のニーズ・アセスメント看護援助（血液循環を促進する援助、心臓の負荷を軽減する援助） 第8回 安楽に関連する症状のメカニズム（痛み、吐き気・嘔吐）、安楽に関する看護上のニーズ・アセスメント痛みのある患者の援助、吐き気・嘔吐に対する援助 第9回 排泄機能のメカニズム 排泄機能障害に関連する代表的な症状と発症メカニズム 排泄機能障害に関する看護上ニーズ・アセスメント 排泄機能障害に関連するニーズ不足に向けた看護援助 第10回 排泄機能のメカニズム 排泄機能障害に関連する代表的な症状と発症メカニズム 排泄機能障害に関する看護上ニーズ・アセスメント 排泄機能障害に関連するニーズ不足に向けた看護援助 第11回 演習：膀胱留置カテーテルの挿入 デモンストレーション： 浣腸・排便 第12回 演習：膀胱留置カテーテルの挿入 デモンストレーション： 浣腸・排便 第13回 演習：吸引 第14回 演習：吸引 第15回 第1回～第14回の総まとめ・試験						
評価方法						
①技術演習 レポートとチェックリストの提出（喀痰吸引、胃管・経管栄養、膀胱留置カテーテル）（時間厳守）15% ②筆記試験 85%（立石） ①と②を合わせた60%以上を合格とする						
使用教科書						
香春知永他 臨床看護総論・基礎看護学④，第7版，医学書院 任 和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第19版，医学書院						
参考書						
竹尾恵子 看護技術 プラクティス ，第4版，学研 必要時プリントを配布する						
その他						
特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	地域・在宅看護概論	○	蛭名 千昌	1	2 (30)	後期
授業概要 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅における看護の基礎を教授する。						
到達目標 1. 人々が地域で生活する在宅という環境において、対象の「生きること」を支え、住み慣れた地域で暮らすことが出来るよう環境やシステムを効果的に活用することが理解できる。 2. 在宅看護がどのような法令に基づいて行われているのかを知り、介護保険制度が理解できる。 3. 在宅看護におけるケアマネジメントが理解できる。 4. 在宅看護過程の展開のポイントを理解し、その展開方法について理解できる。 5. 在宅看護における医療事故防止や感染対策、対象者の権利保障について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 全 14 回の授業は蛭名千昌が担当し、授業の形式は、第 1～14 回までは講義やグループワークを行い、第 15 回目は、総まとめとする。 第 1 回 人々の暮らしの理解 第 2 回 暮らしの基盤としての地域の理解 第 3 回 地域・在宅看護の対象と対象者家族の理解 第 4 回 地域における暮らしを支える看護 第 5 回 地域におけるライフステージに応じた看護 第 6 回 暮らしにおけるリスクマネジメント 第 7 回 地域・在宅看護の実践の場 第 8 回 地域・在宅看護における多職種連携 第 9 回 介護保険制度・医療保険制度 第 10 回 地域包括ケアシステム（地域包括支援センター） 第 11 回 訪問看護制度 第 12 回 訪問看護利用までの流れ 第 13 回 ケアマネジメント 第 14 回 高齢者に関する法制度（権利擁護） 第 15 回 まとめ・試験（45 分）						
評価方法 筆記試験 100%、60 点未満は不合格						
使用教科書 河原加代子著、専門分野 地域・在宅看護論①[地域・在宅看護の基盤]、第 7 版、医学書院						
参考書 渡辺 裕子、家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第 4 版、日本看護協会出版会						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	地域・在宅看護援助論 I	○	保坂 明美	2	1 (30)	通年
授業概要 個々の家族を含んだ対象の状況に応じた在宅看護を展開するために、基礎看護学で学んだ基礎看護技術を統合し、在宅場面で実施できる知識・技術を学ぶ。						
到達目標 1. 既習の知識・基礎看護技術を統合し、在宅における看護技術について理解できる。 2. 在宅医療技術について理解できる。 3. 在宅看護介入時期別の特徴について理解できる。 4. 在宅看護の事例展開を学び、在宅における看護の役割が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 (在宅看護技術と看護の実際) 第 1 回 食生活・嚥下に関する看護技術 (経口摂取・経管栄養・中心静脈栄養) 第 2 回 排泄に関する看護技術 (留置カテーテル・ストマ) 第 3 回 呼吸・循環に関する看護技術 (HOT・TPPV・HMV) 第 4 回 創傷管理に関する看護技術 (褥瘡・スキンケア予防) 第 5 回 活動休息に関する看護技術 (移動・環境調整) 移動・移乗の援助 第 6 回 脳卒中の療養者の事例展開 第 7 回 パーキンソン病の療養者の事例展開 第 8 回 COPD の療養者の事例展開 第 9 回 ALS の療養者の事例展開 第 10 回 統合失調症の療養者の事例展開・試験 (15 分間) 第 11 回 認知症の療養者の事例展開 第 12 回 医療的ケア児の在宅看護事例 第 13 回 終末期 (がん) の療養者の事例展開 第 14 回 終末期 (がん) の療養者の事例展開 第 15 回 終末期 (がん) の療養者の在宅看護事例の GW 発表 * 授業の状況によっては、講義順番の変更の可能性あり						
評価方法 レポート及び事例発表にて評価 100%、60 点以上で合格						
使用教科書 河原加代子著、専門分野 地域・在宅看護論②[地域・在宅看護の実践]、第 6 版、医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	地域・在宅看護援助論Ⅱ	○ ○ ○	太田 希子 佐藤 愛子 川崎 美蘭	2	1(30)	前期

授業概要

離島（過疎地域）で行い、その地域で暮らす人々の生活を理解し、地域における保健・福祉・医療システムと多職種連携、看護の実際を学ぶ。

到達目標

1. 離島（過疎地域）で暮らす人々の生活を理解し、地域における保健・福祉・医療システムと多職種連携、看護の実際を理解する。
2. フィールドワークでの学びをグループごとに発表し共有することで、学びを深める。

授業計画・授業内容

授業形態： 演習

（離島フィールドワーク）

全 15 回（30H）の授業は、2 日間（1 日 8 時間）のフィールドワークを主とし、事前学習、グループワーク発表で構成する。移動時間は授業に含まない。

第 1 回 フィールドワークのオリエンテーション
授業の目的、目標、具体的方法の説明。
地域の実際を事前に調査する。

第 2 回～第 9 回 フィールドワーク
地域の特徴、医療体制の説明（役場 地域の保健師に依頼）
診療所への訪問（グループに分かれて訪問か）
事前に準備していたグループに分かれ、地域に暮らす人々の様子を聞き取り調査する。

第 10 回～第 12 回 フィールドワークのまとめ
グループワークの実施

第 13 回～第 15 回 グループワーク発表のまとめ

評価方法

グループワークの発表後は事前学習を含むすべての資料をファイリングし提出
提出物と発表内容について評価表にて100%評価、60点以上で合格

使用教科書

河原加代子著, 専門分野 地域・在宅看護論②[地域・在宅看護の実践], 第6版, 医学書院

参考書

渡辺 裕子, 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第4版, 日本看護協会出版会

その他

特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野	地域・在宅看護援助論Ⅲ	○ ○ ○	川崎 美蘭 蛭名 千昌 中井 幾子	3	1(30)	前期
授業概要 地域で生活する様々な年代の人々とその家族の生活を理解し、暮らしを支える自助・互助・共助・公助の実際を学ぶ。また、地域で生活する対象者を支える保健・医療・福祉にかかわる看護師や多職種との協働・連携の実際を学ぶ。						
到達目標 1. 地域で生活する人々とその家族の生活を理解し、暮らしを支える自助・互助・共助・公助の実際を学ぶ。 2. 地域で生活する対象者を支える保健・医療・福祉にかかわる看護師の役割や多職種との協働・連携の実際を学ぶ。						
授業計画・授業内容 授業形態：演習 (自助・互助・共助) 第1回 授業概要の説明、地域包括ケアシステムの実際について。 DVD視聴「高齢者の暮らしを支える互助・共助」「介護予防のための自助・互助」(50分) 第2回 事例から学ぶ地域包括ケアシステム DVD視聴「退院から在宅療養に向けた医療・介護連携」「在宅療養生活を支えるサービス・多職種連携」(50分) フィールドワークに向けての事前学習・GW(30分) 第3回 フィールドワークに向けての事前学習・GW 第4回 フィールドワーク① 地域に暮らす高齢者の健康への意識調査と生活に取り入れている健康行動などの実際を地域で行われている健康への取り組みの実際を学ぶ。 実際に出向いてインタビューを行う(自助・互助の実際を学ぶ) 例) 町会や自治会で行われる介護予防体操、レクリエーションなど 第5回 第4回と同様にフィールドワーク。帰校後、まとめ 第6回 フィールドワークまとめ 第7回 フィールドワーク発表 第8回 フィールドワーク③ 介護保険サービスを利用している施設の実際を学ぶ。 実際に出向いて専門職の方々へインタビューを行う。(共助の実際を学ぶ) 例) 利用者のニーズに応じた様々な特徴のあるデイサービス(温泉付き、カラオケ付き)や福祉用具の貸与など 第9回 第8回と同様 帰校後、まとめ 第10回 フィールドワーク発表 第11回 子どもと子育て中の人々を支援する地域での取り組みについて 講義 フィールドワークに向けての事前学習・GW 第12回 フィールドワークに向けての事前学習・GW 第13回 フィールドワーク④ 子どもと子育て中の人々を支援する地域での取り組みの実際を学ぼう。実際に出向いて子育て中の親や専門職の方々へインタビューを行う。(育児サロン) 第14回 第13回と同様フィールドワーク、帰校後まとめ 第15回 グループワーク発表						
評価方法 授業の終了後の期限日までに、事前学習とGW発表内容、プレゼンテーション資料、発表後の感想(個人)などをグループごとにまとめてポートフォリオを作成し提出する。						

評価は評価表にて100%の評価とする。(参加状況の評価項目も入れる) 60点以上で合格とする。

使用教科書

河原加代子著, 専門分野 地域・在宅看護論②[地域・在宅看護の実践], 第6版, 医学書院

参考書

渡辺 裕子, 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編 第4版, 日本看護協会出版会

その他

特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野	地域・在宅看護援助論Ⅳ	○ ○	吉田 妙恵子 蛭名 千昌	3	1(30)	前期

授業概要

認知症カフェを学校で開催し、その中に「まちの保健室」を設置する。「まちの保健室」は、学生が企画・運営し学校を拠点として開催し、地域に住む方々に学校に立ち寄っていただき、気軽に健康相談できるような場所づくりを行う。地域の方々との交流を図り、健康づくりの支援を行う。また、地域ケア会議に参加し、地域課題を理解できることを目的としています。

本授業では、このような活動を通し、地域で生活される人々がどのような健康不安を抱いて生活しているのか、実際にどのような支援が必要であるのかを理解し、看護者として人と向き合い地域とともに協働する姿勢を身につけることを目的としています。

到達目標

1. 「まちの保健室」の活動を通し、地域で生活される人々がどのような健康不安を抱いて生活しているのか、実際にどのような支援が必要であるのかを理解する。また、地域の方々が安心して生活するために気軽に相談できる場を提供することができる。
2. 地域包括支援センターの方々の協力のもと地域ケア会議に参加し、地域課題を基に認知症カフェを企画・開催し、実際の健康づくり支援システムや医療・保健・福祉の連携の実際を理解する。
3. 学生が企画・運営・実施することで、自主的に学ぶ姿勢、積極性を身につけることができる。
4. 地域の方々とのふれあいから、人と向き合う喜びを得て、地域とともに歩む姿勢を身につけることができる。

授業計画・授業内容

授業形態：演習

【認知症カフェ・まちの保健室】

- 第1回 授業概要の説明 今後の取り組みについての目的・方法等オリエンテーションの実施
「認知症カフェ」とは 認知症サポーター養成講座学びなおし
「まちの保健室」について (5/8)
- 第2回 地域ケア会議に参加 (5/9) 11:00~12:00
地域課題や社会資源について、民生委員や地域で働く多職種とディスカッション
- 第3・4回 「認知症カフェ」企画会議①② (5/9)
宣伝方法・パンフレットやポスター作製
- 第5回 「認知症カフェ」企画会議③
全体の役割・内容の決定と当日までのスケジュール (5/10)
- 第6回 それぞれのブースごとに企画・準備 (5/13)
- 第7・8回 ブースごとの会場準備 (5/16)
- 第9・10回 ブースごとの会場準備 (5/17)
- 第11~13回 5/24「認知症カフェ」in 函館看護専門学校 開催 (運営)
健康教育に関するミニ講話の開催や健康チェックなどの計測コーナー・健康相談ブースを設置し、地域住民との交流をはかる。
- 第14・15回 グループワーク・GW発表・まとめ
認知症カフェや暮らしの保健室を通じて、地域で暮らす高齢者の課題について考える。

評価方法 授業終了後のレポート提出 100%評価 60点以上で合格
使用教科書 認知症サポーター養成講座標準教材、全国キャラバン・メイト連絡協議会 知ってあんしん認知症（函館市認知症ケアパス）、函館市
参考書 特になし
その他 特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	成人看護学概論	○	佐藤 愛子	1	1 (15)	前期
授業概要 成人期の人の健康問題と健康レベルに応じた看護の役割の概要を、身体・心理・社会的特徴を踏まえ理解する。						
到達目標 1. ライフサイクルにおける成人期の特性と健康問題との相互作用が理解できる。 2. 成人期にある人と家族への健康レベルや個別性に応じた看護の機能・役割が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 成人と生活 生活の特徴と環境、健康の状況を理解する（講義） 第 2 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク） 第 3 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク） 第 4 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク） 第 5 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク発表） 第 6 回 成人期（青年期、壮年期、中年期、向老期）の各期の特徴の理解（グループワーク発表） 第 7 回 成人の看護アプローチの基本 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係、人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ、 看護実践における倫理的判断、意思決定支援、家族支援 第 8 回 試験(1H)						
評価方法 1. 講義・GW 参加状況 30% ※GW 事前学習の取り組み状況、講義・GW の取り組み状況にて評価 2. 講義終了時の試験 70% (100 点) ※試験は、試験のみで 100 点満点中、60%以上 (60 点以上) で合格						
使用教科書 小松浩子他, 成人看護学総論 成人看護学①, 第 16 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	成人看護学援助論 I	○	佐藤 愛子 非常勤講師	1	1 (30)	通年

授業概要

成人の健康レベルに対応した看護、成人の健康生活を促すための看護技術、成人保健の動向、成人期の主な疾病と予防、成人の健康保持・増進のための行政対策と看護を学ぶ。

到達目標

1. 成人のさまざまな健康レベルに対応した看護について理解し、述べることができる。
2. 健康とはどのようなもので、どのような要因で危険にさらされ、破綻し、再生・回復していくのかを知り、その過程で看護は何ができるのか、なにをすべきなのか理解し、述べることができる。
3. 成人期の健康生活を回復・維持・促進するための具体的な看護技術を理解し、述べることができる。
4. 疾病構造の変化について、また現在の死因順位やその社会的背景に関して説明できる。
5. 生活習慣病とその危険因子の内容に関して説明できる。
6. 近年の生活習慣病に関する話題や成人がもつ健康上の話題について説明できる。

授業計画・授業内容 授業形態：演習

全 15 回 (30H) の授業は、第 1～10 回目までを佐藤愛子が担当し、成人の健康レベルに対応した看護、成人の健康生活を促すための看護技術を学ぶ。第 11～15 回目までを非常勤講師が担当し、成人保健の動向、成人期の主な疾患と予防、成人の健康保持・増進を学ぶ。

(成人健康レベルに対応した看護)

- 第 1 回 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護①
(健康の急激な破綻、急性期にある人の看護、急性期の治療過程にある患者の看護)
- 第 2 回 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護②
(急性期の治療過程にある患者の看護)
- 第 3 回 慢性病とともに生きる人を支える看護
(慢性病とともに生きる人を理解する、慢性病とともに生きる人を支える)
- 第 4 回 障害がある人の生活とリハビリテーション
(障害がある人とリハビリテーション、障害がある人とその生活を支援する看護)
- 第 5 回 人生最期の時を支える看護①
(人生の最期のときにおける医療の現状、人生の最期のときを過ごしている人の理解)
- 第 6 回 人生最期の時を支える看護②
(人生の最期のときを支える看護)
- 第 7 回 さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援
(移行支援の基礎知識、継続的な移行を支える支援の実際)
- 第 8 回 新たな治療法、先端医療と看護
(新たな治療法・医療処置の開発・普及、新たな治療法や医療処置を受ける患者・家族の看護)
- 第 9 回 グループワーク (患者・家族の看護について)、第 1 回～第 8 回までのまとめ
- 第 10 回 第 1 回～第 9 回までの総まとめ、試験

(成人期の主な疾患と予防)

第 11 回 ガイダンス 授業内容の紹介

第 12 回 疾病の構造の変化とその背景 (生活習慣等)

第 13 回 生活習慣病の危険因子 (悪性新生物・心疾患等)

第 14 回 発表形式のワーク① ・成人保健の課題について・生活習慣病 他

第 15 回 発表形式のワーク② ・成人保健の課題について・生活習慣病 他

評価方法

(成人健康レベルに対応した看護) と (成人期の主な疾患と予防) の点数を合算し、60 点以上で合格

内訳:

(成人健康レベルに対応した看護)

第 1 回～第 10 回の授業終了後、筆記試験を 45 分で実施。試験は 60 点満点。

(成人期の主な疾患と予防):

第 14・15 回で課題発表をもって評価とする。(40 点満点)

使用教科書

小松浩子他, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論, 成人看護学①, 第 16 版, 医学書院
井部俊子他, 国民衛生の動向, (第 69 巻第 9 号), 一般財団法人, 厚生労働統計協会

参考書

特になし

その他

必要時プリントを配布する

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	成人看護学援助論Ⅱ	○	佐藤 愛子	2	1 (30)	前期
授業概要						
慢性的経過をたどり、生涯にわたって生活のコントロールを必要とする対象と、その家族への看護、患者教育支援について事例を通して学ぶ。						
到達目標						
1. 慢性期の看護の特徴をふまえ、個別性のある看護計画を立案することができる。 2. ロールプレイングを行うことで、慢性期における患者教育を含めた援助を実践できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習						
(成人の看護過程の展開)						
全15回の授業形式は、講義、個人ワーク、グループワーク、演習（ロールプレイング）で構成する。						
第1回 ガイダンス、紙上事例の展開に必要な事前学習（個人ワーク）						
第2回 紙上事例の展開に必要な事前学習（個人ワーク）、提出						
第3回 看護過程の展開 情報収集、情報の分析・解釈まで（個人ワーク）						
第4回 看護過程の展開 情報収集、情報の分析・解釈まで（個人ワーク）						
第5回 看護過程の展開 情報収集、情報の分析・解釈まで（個人ワーク）						
第6回 看護過程の展開 情報収集、情報の分析・解釈まで（個人ワーク）、提出						
第7回 看護問題の明確化（看護診断）、看護計画立案（グループワーク）						
第8回 看護問題の明確化（看護診断）、看護計画立案（グループワーク）、提出						
第9回 援助場面のロールプレイング作成（グループワーク）						
第10回 援助場面のロールプレイング作成（グループワーク）、提出						
第11回 援助場面のロールプレイング作成（グループワーク）						
第12回 援助場面のロールプレイング作成（グループワーク）						
第13回 援助場面のロールプレイング作成（グループワーク）						
第14回 ロールプレイング（援助・指導場面の発表） 発表時間：1グループ 15分程度 質疑応答						
第15回 第13回に引き続き、ロールプレイングによる発表						
まとめ：指導場面のロールプレイを終えて学んだことを記入し提出						
評価方法						
紙上事例展開 評価表 100%。評価表は60点以上で合格。						
使用教科書						
小松浩子他，成人看護学総論・成人看護学①，第16版，医学書院 有田清子他，基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②，第19版，医学書院						
参考書						
特になし						
その他						
*個人ワークは担当教員に提出し指導を受ける。（1回の指導は15分程度とする。）						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	成人看護学援助論Ⅲ	○ ○ ○	小林 鴻介 木下 絵里 越田 聡美	2	1 (30)	通年
授業概要 呼吸器・循環器の障害を持つ成人期の対象を総合的に捉え看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。						
到達目標 (呼吸器) 1. 呼吸器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 呼吸器障害を持つ患者の看護について理解できる。 (循環器) 1. 循環器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 循環器障害を持つ患者の看護について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義 全 16 回 (30H) の授業は、第 1～8 回 (循環器) を小林鴻介、第 9～16 回 (呼吸器) 木下絵里と越田聡美が担当する。 (循環器) 第 1 回 循環器疾患の看護の役割 第 2 回 症状別の看護 (胸痛・動悸など) 第 3 回 カテ等の検査・治療をうける患者の看護 第 4 回 心不全を掘り下げる (他、大動脈疾患・不整脈) 第 5 回 心筋梗塞疾患の事例 その他 第 6 回 まとめの問題 IABP・心音の聞き方 第 7 回 心音聴取 CVP などまとめ 第 8 回 第 1 回～第 7 回までの内容のまとめ・試験 (20 分程度) (1H) (呼吸器) 第 9 回 症状とその病態生理 咳嗽、喀痰、血痰・咯血、胸痛、呼吸困難、酸素療法を受ける患者の看護 第 10 回 疾患を持つ患者の看護 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息 第 11 回 疾患をもつ患者の看護 肺炎、誤嚥性肺炎、肺血栓塞栓症、急性呼吸窮迫症候群、睡眠時無呼吸症候群 第 12 回 疾患をもつ患者の看護 検査 ドレナージ 気胸 第 13 回 疾患をもつ患者の看護 手術前後の看護 第 14 回 疾患をもつ患者の看護 肺がん 第 15 回 疾患をもつ患者の看護 間質性肺炎 第 16 回 第 9 回～第 15 回までの総まとめと試験 (20 分程度)						
評価方法 (呼吸器) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 20 分程度で 50 点満点。 (循環器) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 20 分程度で 50 点満点。 (呼吸器) と (循環器) を合算し、60 点以上で合格						
使用教科書 (呼吸器) 浅野浩一郎著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 第 16 版, 医学書院 (循環器) 松田 直樹著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 第 16 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	成人看護学援助論Ⅳ	○ ○	大泉 あき子 北島 星莉奈	2	1 (30)	通年
授業概要 内分泌・消化器の障害を持つ成人期の対象を総合的に捉え看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。						
到達目標 (内分泌) 1. 内分泌・代謝疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 内分泌・代謝疾患を持つ患者の看護について理解できる。 (消化器) 1. 消化器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 消化器疾患を持つ患者の看護について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義 全16回(30H)の授業は、第1～8回(内分泌)を大泉 あき子、第9～16回(消化器)を北島 星莉奈が担当する。 (内分泌) 第1回 内分泌・代謝の看護を学ぶにあたって 患者の特徴と看護の役割 第2回 疾患を持つ患者の経過と看護 第3回 内分泌疾患 下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎疾患看護 第4回 糖尿病 合併症看護について 第5回 糖尿病 食事療法 運動療法 自己血糖測定実施 第6回 糖尿病 薬物療法 インスリン療法手技の実演 第7回 代謝疾患の看護 第8回 第1回～第7回の総まとめ・試験(20分程度)(1H) (消化器) 第9回 医療の動向と看護消化器疾患の特徴 消化器看護の役割 消化器の構造と機能 第10回 症状と病態生理(おくび・腹痛・下痢) 直腸・肛門の構造と機能 胆・肝・膵の働き 第11回 胃・十二指腸検査 疾患の理解と看護(食道・胃) 第12回 胃・食道疾患看護 大腸疾患看護 虫垂炎 大腸癌 ストマ、栄養補助食品試食 肝炎 第13回 胆のう、膵臓治療処置を受ける患者の看護 第14回 経管栄養 手術療法を受ける患者の看護 第15回 これまでの講義の復習 第16回 第9回～第16回の総まとめ・試験(20分程度)(1H)						
評価方法 (内分泌) 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は20分程度で50点満点。 (消化器) 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は20分程度で50点満点。 (内分泌) と (消化器) を合わせ60点以上で合格						
使用教科書 (内分泌) 黒江 ゆり子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝 第16版, 医学書院 (消化器) 松南川 雅子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 第16版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	成人看護学援助論 V	○ ○	西田 知与 村田 望	2	1 (30)	通年
授業概要 脳神経・運動器の障害を持つ成人期の対象を総合的に捉え看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。						
到達目標 (脳神経) 1. 脳神経疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 脳神経疾患を持つ患者の看護について理解できる。 (運動器) 1. 運動器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。 2. 運動器疾患を持つ患者の看護について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 全 16 回 (30H) の授業は、第 1～8 回 (脳神経) を西田知与が担当し、第 9～16 回 (運動器) を村田望が担当する。 (脳神経) 第 1 回 疾病の経過と看護 第 2 回 症状・障害を持つ患者の看護① 第 3 回 症状・障害をもつ患者の看護② 第 4 回 クモ膜下出血・脳腫瘍・下垂体腺腫患者の看護開頭術を受ける患者の看護 第 5 回 脳梗塞・頭部外傷 筋ジストロフィー疾患の管理 第 6 回 ALS の看護～字幕円の看護まで 第 7 回 意識レベル・運動レベル評価実習 抑制の実習 第 8 回 第 1 回～第 7 回までの内容のまとめ (20 分)・試験 (20 分程度) (合計 1H) (運動器) 第 9 回 運動器疾患をもつ患者の看護 第 10 回 骨折の看護 各種の骨折 (下肢) 第 11 回 各種の骨折 (上肢) 神経麻痺 (上肢) 関節リウマチ 第 12 回 人口関節について (THA TKA) 第 13 回 CPM・IPC ギブス・カットなどの演習 第 14 回 脊椎疾患と看護について (頸椎、腰椎) 第 15 回 脊椎疾患と看護について 第 16 回 第 9 回～第 15 回までの内容とまとめ・試験 (20 分程度) (合計 1H)						
評価方法 (脳神経) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 20 分程度で 50 点満点。 (運動器) 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 20 分程度で 50 点満点。 (脳神経) と (運動器) を合算し、60 点以上で合格。						
使用教科書 (脳神経) 井手隆文著, 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[7] 脳・神経 第 16 版, 医学書院 (運動器) 田中栄著, 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学[10] 運動器 第 16 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	成人看護学援助論VI	○ ○ ○ ○	伊藤 蓮 水野 理恵 岩館 由佳子 海藤 奏絵	2	1 (30)	通年

授業概要

血液・造血器・腎泌尿器・生殖器・感覚器の障害を持つ対象及び外科的治療を受ける成人期の対象を総合的に捉え、看護を実践するための基本的知識・技術・態度を学ぶ。

到達目標

(血液・造血器)

1. 血液成分、血球の性状と機能が理解できる。
2. 貧血の種類と病態・診断・治療・看護が理解できる。
3. 輸血を適正かつ安全に実施するための基本的な知識が習得できる。

(腎泌尿器)

1. 腎泌尿器疾患の代表的な症状とその病態について理解できる。
2. 腎泌尿器疾患を持つ患者の看護について理解できる。

(感覚器)

1. 皮膚の構造・機能について理解できる。
2. 褥瘡のメカニズムと看護について理解できる。

(外科的治療)

1. 周手術期看護の概念について学び、手術を受ける患者の看護について理解できる。
2. 手術前・中・後の看護について理解できる。
3. 救急看護、集中治療の看護の基礎が理解できる。

授業計画・授業内容 授業形態： 講義

全15回の授業は、第1～3回(血液・造血器)伊藤 蓮、第4～9回(腎泌尿器)水野理恵、第10～11回(感覚器)岩館由佳子、第12～15回(外科的治療)海藤 奏絵が担当する。第16回は、第1回～第15回の試験とする。

(血液・造血器)

- 第1回 血球の性状と機能、貧血の病態と看護
 第2回 輸血を適正かつ安全に実施する方法と看護①
 第3回 輸血を適正かつ安全に実施する方法と看護② (1Hのみ)

(腎泌尿器)

- 第4回 腎泌尿器疾患 看護概論 腎泌尿器の機能・メカニズム
 第5回 透析看護について 尿路変更術患者の看護
 第6回 浮腫がある患者の看護 腎泌尿器疾患別看護についてのグループワーク
 第7回 第5回に引き続きグループワーク
 第8回 第6回に引き続きグループワーク
 第9回 グループワーク発表 第3回～第7回まとめ

(感覚器)

- 第10回 皮膚の機能・看護 褥瘡のメカニズムと看護
 第11回 褥瘡のメカニズム

(外科的治療)

- 第12回 周手術期看護の概論、手術前患者の看護
 第13回 手術の当日の看護 手術後患者の看護
 第14回 救急看護の基礎
 第15回 集中治療を受ける患者の看護

(血液・造血器、腎泌尿器、感覚器、外科的治療)

第16回 血液・造血器、腎泌尿器、感覚器、外科的治療の試験 (1Hのみ)

評価方法

授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は合算し60点以上で合格

試験の内訳：(血液・造血器)10分(感覚器)5分あわせて15分程度で30点、(腎泌尿器)18分で40点、
(外科的治療)12分で30点の配点

使用教科書

(血液・造血器)

飯野京子他著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4]，血液・造血器 第16版，医学書院

(腎泌尿器)

今井 亜矢子，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]，腎・泌尿器 第16版，医学書院

(感覚器)

渡辺 晋一著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12]，皮膚 第16版，医学書院

(外科的治療)

矢永勝彦著，系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，第12版，医学書院

参考書

特になし

その他

特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	老年看護学概論	○	中井 幾子	1	1（15）	前期
授業概要 老年期における対象の身体的・精神的・社会的特徴と我が国における高齢社会の特徴を理解し、老年看護の目的、機能、役割について学習する。						
到達目標 1. 老年期を生きる人々の健康について理解できる。 2. 高齢者における社会保障について理解できる。 3. 加齢に伴う変化の特徴、身体的・精神的・社会的機能の変化について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 全8回の授業の形式は、第1～4回までは講義、第5～7回は個人ワーク、第8回は試験とする。 第1回 高齢者とはどういう人か（未知なる老い、新しい老化のとらえ方、発達理論と発達課題） 第2回 グローバルな観点からの高齢問題 (超高齢社会の統計的輪郭、平均寿命からみた超高齢社会、高齢者の健康状態) 第3回 高齢化が社会生活に及ぼす影響、高齢化に伴う社会文化的影響 (高齢者の暮らし、高齢社会における権利擁護、倫理的課題) 第4回 高齢者における社会保障、加齢に伴う変化の特徴、次回個人ワーク説明 (高齢社会における保健・医療・福祉の動向、精神的・社会的機能の変化、個人ワークの目的・目標・学習方法説明) 第5回 加齢に伴う変化の特徴、身体的機能の変化：個人ワーク実施 (内蔵機能の変化、運動・体力の変化、感覚・知覚の変化、心理・精神機能の変化、社会的変化) 第6回 加齢に伴う変化の特徴、身体的機能の変化：個人ワーク実施 (内蔵機能の変化、運動・体力の変化、感覚・知覚の変化、心理・精神機能の変化、社会的変化) 第7回 加齢に伴う変化の特徴、身体的機能の変化：個人ワーク実施 (内蔵機能の変化、運動・体力の変化、感覚・知覚の変化、心理・精神機能の変化、社会的変化) 第8回 試験						
評価方法 筆記試験を合わせて評価100%とし、60点以上で合格						
使用教科書 北川公子著他，老年看護学，第10版，医学書院 鳥羽研二著他，老年看護病態・疾患論，第6版，医学書院						
参考書 岡庭豊著，なぜ？どうして？老年看護第8版，メディックメディア 山田律子，井出訓著，生活機能から見た老年看護過程，第9版，医学書院						
その他 個人ワークでは発表までに個々に図書室など利用し、学習する。 PC・電子黒板使用						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野	老年看護学援助論 I	○・○	川崎美蘭・松岡智広	1	1 (30)	後期
授業概要 老年期にある対象の日常生活について理解し、その援助方法について学習する。						
到達目標 1. 老年看護援助の基本と展開方法について理解できる。 2. 身体的変化と生活リズムの回復に焦点をあてたアセスメントとケア技法について理解できる。 3. 自立生活の拡大に焦点をあてたアセスメントとケア技法について理解できる。 4. 高齢者の主要症状に焦点をあてたアセスメントとケア技法について理解できる。 5. エンゼルケアの基礎知識、援助の実際が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 (死亡・危篤時含む) 全15回の授業は、第1～12、14、15回を川崎美蘭が、第13回を松岡智広が担当し、授業の形式は、第1～14回は講義、第15回は試験とする。 第1回 老年看護援助の基本と看護展開方法 (老年看護の基盤、老年看護に携わる者の責務) 第2回 身体に加齢変化のアセスメント (体と身体、フィジカルアセスメント) 第3回 安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助方法 (老年期の栄養、加齢による摂取・嚥下機能の変化、食生活のアセスメント、食生活を豊かにするための看護ケア) 第4回 第3回に引き続き、安全かつ快適に食事をするためのアセスメントと援助方法 脱水のアセスメントと援助方法 (脱水の原因、看護の要点と脱水防止策の看護) 第5回 排泄動作のアセスメントと援助方法 (加齢に伴う排尿の変調、加齢に伴う排便の変調、排便の以上に対するアセスメントと看護ケア) 第6回 第5回に引き続き、排泄動作のアセスメントと援助方法(排泄ケア演習、排泄体験・レポート) 第7回 清潔のアセスメントと援助方法(老年期の清潔、清潔のアセスメント、入浴・清拭・陰部洗浄) 第8回 運動・休息・睡眠の変調のアセスメントと援助方法 (高齢者にとっての活動、運動機能の変化と生活への影響、生活リズムを整える看護) (高齢者の睡眠の特徴、睡眠リズムの変化と生活への影響、睡眠リズムを整える看護) 第9回 コミュニケーション障害のアセスメントと援助方法 (高齢者のコミュニケーションの特徴、失語症・構音障害を持つ高齢者とのコミュニケーション方法) 第10回 日常動作能力のアセスメントと援助方法 (高齢者の日常生活動作、基本動作の環境理解と看護) 転倒予防のアセスメントと援助方法 (転倒予防のアセスメントとケア方法、転倒事故防止対策の看護) 第11回 褥瘡のアセスメントと援助方法 (高齢者の皮膚の特徴、褥瘡の原因と好発部位、褥瘡の評価) 第12回 掻痒・浮腫のアセスメントと援助方法 (掻痒の原因、老人性皮膚掻痒賞の症状と看護、疥癬の特徴・治療と看護) 第13回 発熱・痛み・倦怠感のアセスメントと援助方法 (症状のなりたちと臨床的症状、アセスメントと看護) 第14回 危篤・死亡時の看護 (死にゆく人と周囲の人々へのケア、エンゼルケア基礎知識、援助の実際) 第15回 第1～14回までの総まとめ、試験(1H)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 北川公子著他、老年看護学、第10版、医学書院 鳥羽研二著他、老年看護病態・疾患論、第6版、医学書院						
参考書 任 和子他、根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術、第3版、医学書院 岡庭豊著、なぜ? どうして? 老年看護第6版、メディックメディア 山田律子・井出訓著、生活機能から見た老年看護過程、医学書院						
その他 PC・電子黒板使用 排泄ケア演習でオムツ使用						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	老年看護学援助論Ⅱ	○	中井 幾子	2	1 (30)	後期
授業概要 1. 高齢者の主な疾患に対しての看護と日常生活の適応に向けた援助について考える能力を得る。 2. 健康障害をもった老年期の対象と健康問題を総合的に理解し、高齢者とその家族の看護について学ぶ。						
到達目標 1. 加齢に伴う特徴を踏まえて老年期の対象を理解できる。 2. 高齢者疾患の特徴を理解し看護する上での留意点が理解できる。 3. 加齢に伴う健康上の問題を把握し、生活機能の維持・向上を促す援助を考えることができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 授業の形式は、講義で構成する。 第 1 回 認知症の概念・症状、認知症をきたす疾患 第 2 回 認知症の予防・看護、ユマニチュード、パーソンセンタードケア 第 3 回 精神・神経疾患（脳梗塞、脳出血、慢性硬膜下血種、クモ膜下出血、パーキンソン病、うつ状態） 第 4 回 循環器系疾患①（狭心症、心筋梗塞、心不全） 第 5 回 循環器系疾患②（不整脈、高血圧症、動脈硬化症） 第 6 回 呼吸器系疾患①（肺炎、肺結核） 第 7 回 呼吸器系疾患②（閉塞性肺疾患、肺線維症、肺がん、睡眠時無呼吸症候群） 第 8 回 消化器系疾患①（逆流性食道炎、胃十二指腸疾患、腸疾患、肝胆膵疾患） 第 9 回 消化器系疾患②（消化器腫瘍、便秘・大腸憩室症・腸閉塞） 第 10 回 内分泌・代謝系疾患①（甲状腺疾患、電解質異常） 第 11 回 内分泌・代謝系疾患②（糖尿病、脂質異常症） 第 12 回 運動器疾患（大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、骨粗鬆症） 第 13 回 皮膚疾患（褥瘡、皮膚掻痒症、白癬、疥癬、带状疱疹）、感覚器疾患（緑内障、白内障、難聴）、 感染症（MRSA、インフルエンザ、疥癬、カンジダ症） 第 14 回 エンドオブライフケア、「生きる」ことを支えるケア、意思決定への支援、 末期段階に求められる援助 第 15 回 第 1～14 回の総まとめ・試験						
評価方法 筆記試験にて評価 100%、試験は 100 点満点とし 60 点以上を合格とする。						
使用教科書 鳥羽研二著他、系統看護学講座・専門分野Ⅱ・「老年看護病態・疾患論」（第 6 版）、医学書院 北川公子著他、系統看護学講座・専門分野Ⅱ・「老年看護学」（第 10 版）、医学書院						
参考書 特になし						
その他 電子黒板使用など						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	老年看護学援助論Ⅲ	○	中井 幾子	2	1 (30)	後期
授業概要 健康障害をもった老年期の対象と健康問題を総合的に理解し、高齢者とその家族の看護について学ぶ。						
到達目標 1. 加齢に伴う特徴を踏まえて老年期の対象を理解できる。 2. 加齢に伴う健康上の問題を把握し、生活機能の維持・向上を促す援助を考えることができる。 3. 老年の対象の理解と老年看護の視点をもち、看護計画を立案することができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習 （事例） 第1～15回は、中井幾子が担当し、授業の形式は、紙上事例の看護過程の展開で構成する。 （看護過程の展開） 第1回 紙上事例展開：脳梗塞患（慢性期）の事例について説明する 第2回 事例を用いて、個々にアセスメントする（ゴードンの機能的パターンを用いて実施A～K） 第3回 事例を用いて、個々にアセスメントする 第4回 事例を用いて、個々にアセスメントする（学生に指導） 第5回 事例を用いて、個々にアセスメントする（学生に指導） 第6回 事例を用いて、アセスメント修正し、全体像を作成する（学生に指導） 第7回 事例を用いて、アセスメント修正し、全体像を作成する（学生に指導） 第8回 事例を用いて、アセスメントと全体像を修正し、問題点を抽出する（学生に指導） 第9回 事例を用いて、アセスメントと全体像を修正し、問題点を抽出する（学生に指導） 第10回 事例を用いて、問題点抽出後、個々に看護計画を立案する 第11回 事例を用いて、問題点抽出後、個々に看護計画を立案する（学生に指導） 第12回 事例を用いて、問題点抽出後、個々に看護計画を立案する（学生に指導） 第13回 事例を用いて、個々に看護計画を修正する 第14回 事例を用いて、個々に看護計画を修正する 第15回 事例提出方法についての確認、個人指導						
評価方法 事例と評価表を合わせて提出にて評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 鳥羽研二著他，系統看護学講座・専門分野Ⅱ・「老年看護病態・疾患論」（第6版），医学書院 北川公子著他，系統看護学講座・専門分野Ⅱ・「老年看護学」（第10版），医学書院						
参考書 特になし						
その他 電子黒板使用など						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野Ⅱ	小児看護学概論	○	吉田 妙恵子	2	1(15)	前期
授業概要 小児看護に活用される理論・概念をもとに、成長発達各期の特徴を理解するとともに、現代の子どもと家族の概要を捉えながら、小児看護の役割と課題について学ぶ。						
到達目標 1. 小児看護の対象としての子どもを理解することができる。 2. 小児医療や小児看護の変遷について理解することができる。 3. 子どもの権利を理解することができる。 4. 子どもを取り巻く環境および子どもの生活について理解することができる。 5. 子どもにとっての家族について考えることができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 授業形式は、講義、グループワーク、演習で構成する 第 1 回 小児看護の対象と目的 小児看護の歴史の変遷 第 2 回 小児看護学で用いられる概念と理念 第 3 回 新生児期の成長発達と看護 第 4 回 乳児期の成長発達と看護 第 5 回 幼児期の成長発達と看護 第 6 回 学童期・思春期の成長発達と看護 第 7 回 小児看護と法律・施策 第 8 回 試験						
評価方法 筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 奈良間美保他，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論 小児臨床看護総論，第 15 版，医学書院						
参考書 佐々木正美，子どもへのまなざし，福音館書店 中野綾美他，ナーシング・グラフィカ，小児看護学①，小児の発達と看護，第 6 版，メディカ出版						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ	小児看護学援助論Ⅰ	○ ○	大上 育子 光野 佳代	2	1 (30)	後期
授業概要 子どもの健康を保持・増進するための援助および日常的な健康問題に対しての看護について学ぶ。						
到達目標 1. 健康障害が子どもの成長・発達や子どもと家族の生活に及ぼす影響について説明できる。 2. 健康障害を抱えた子ども・家族がおかれた状況に応じた看護援助について理解できる。 3. 健康障害を持つ子どもに対する系統的なアセスメントを理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義 全16回（30H）の授業は、第1回目～8回目までを大上育子が担当、第9回～16回目は光野佳代が担当する。 第1回 病気・障害を持つ子供と家族の看護 （病気・障害が子どもと家族に与える影響・子どもの健康問題） 第2回 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 （入院中の子どもと家族看護、外来における子どもと家族の看護） 第3回 子どもの状況（環境）に特徴づけられる （在宅療養中の子どもと家族の看護、災害時の子どもと家族の看護） 第4回 子どもにおける疾病の経過と看護 （慢性期にある子どもと家族の看護、急性期にある子どもと家族の看護） 第5回 子どもにおける疾病の経過と看護 （周手術期の子どもと家族の看護、終末期の子どもと家族の看護） 第6回 子どものアセスメント （アセスメントに必要な技術） 第7回 子どものアセスメント （身体的アセスメント） 第8回 第1回～第7回までの内容のまとめ・試験（25分）（1H） 第9回 症状を示す子どもの看護 （不きげん、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック） 第10回 症状を示す子どもの看護 （意識障害、けいれん、発熱、嘔吐、下痢、便秘） 第11回 症状を示す子どもの看護 （脱水、浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸） 第12回 検査・処置を受ける子どもの看護 （検査・処置総論、薬物動態と薬用量の決定、検査・処置各論） 第13回 検査・処置を受ける子どもの看護 （検査・処置各論） 第14回 障害のある子どもの看護 （障がいのとらえ方、障がいのある子どもと家族の特徴、障がいのある子どもと家族の社会的支援） 第15回 子どもの虐待と看護 （子どもの虐待の現状と対策の経緯、子どもの虐待とは、リスク要因と発生予防、早期発見、子どもの虐待に特徴的にみられる状況、求められるケア） 第16回 第9～15回までの内容のまとめ・試験（25分）（1H）						
評価方法 第1～8回：筆記試験にて評価50点（20分程度）、第9～16回：筆記試験にて評価50点（20分程度） 第1～8回と第9～16回の試験を合わせて筆記試験評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 第15版，医学書院						
参考書 中野綾美著，ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 小児看護学① 第5版，メディカ出版						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野Ⅱ	小児看護学援助論Ⅱ	○ ○	滝野 美樹 光野 佳代	2	1 (30)	後期
授業概要						
疾病、障害が小児、家族に及ぼす影響を理解し、対象の状況に応じた適切な看護について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長発達と健康状態について、正常と異常のアセスメントに必要な知識を身につける。 2. 小児期に多い疾患について、特有な症状、疾患発生のメカニズム、検査方法および治療方法に関する基本的な知識を身につける。 3. 疾患別の看護援助の要点が理解できる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義						
全 16 回の授業は、第 1～8 回は滝野美樹、第 9～16 回は光野佳代が担当する。						
<p>第 1 回 染色体異常・体内環境により発症する先天異常と看護 (ダウン症候群のもつた子どもの看護，18 トリソミー症候群の子どもの看護) 新生児の看護 (低出生体重児の看護，新生児仮死がみとめられる子どもの看護，高ビリルビン血症の新生児の看護)</p> <p>第 2 回 代謝性疾患と看護 (1 型糖尿病をもつ子どもの看護，2 型糖尿病をもつ子どもの看護) 内分泌疾患と看護 (下垂体疾患をもつた子どもの看護，先天性副腎過形成症の子どもの看護，甲状腺疾患の子どもの看護)</p> <p>第 3 回 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 (食物アレルギーの子どもの看護，気管支喘息の子どもの看護，若年性特発性関節炎の子どもの看護)</p> <p>第 4・5 回 感染症と看護 (麻疹の子どもの看護，風疹の子どもの看護，流行性耳下腺炎の子どもの看護，水痘の子どもの看護髄膜炎の子どもの看護・百日咳の子どもの看護，ブドウ球菌熱傷様皮膚症候群の子どもの看護，結核の子どもの看護，急性灰白髄炎の子どもの看護)</p> <p>第 6 回 呼吸器疾患と看護 (かぜ症候群の子どもの看護，肺炎の子どもの看護) 循環器疾患と看護 (ファロー四徴症の子どもの看護，川崎病の子どもの看護)</p> <p>第 7 回 消化器疾患と看護 (形態異常のある疾患の子どもの看護，その他の消化器疾患の子どもの看護)</p> <p>第 8 回 第 1 回～7 回までの内容のまとめ・試験 (20 分程度) (1H)</p> <p>第 9 回 自己紹介、悪性新生物と看護， (白血病の子どもの看護，神経芽腫の子どもの看護)</p> <p>第 10 回 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 (ネフローゼ症候群の子どもの看護，溶連菌感染症後急性糸球体腎炎の子どもの看護，急性腎不全の子どもの看護，尿路感染症の子どもの看護，水腎症の子どもの看護，</p>						

膀胱尿管逆流の子どもの看護，尿道下裂の子どもの看護)

第 11 回 神経疾患と看護

(けいれんのある子どもの看護，脳性麻痺の子どもの看護，水腎症・二分脊椎の子どもの看護)

第 12 回 運動器疾患と看護

(牽引・ギプス・手術を受ける子どもの看護)

(発育性股関節形成不全[先天性股関節脱臼]の子どもの看護，骨折した子どもの看護)

第 13 回 皮膚疾患と看護

(アトピー性皮膚炎の子どもの看護)

眼疾患と看護

(眼科的検査を受ける子どもの看護，斜視の手術をうける子どもの看護)

耳鼻咽喉科疾患と看護

(中耳炎の子どもの看護，扁桃摘出術を受ける子どもの看護)

第 14 回 精神疾患と看護

(不登校となった神経症の子どもの看護，注意欠如・多動症および自閉スペクトラム症の子どもの看護)

第 15 回 事故・外傷と看護

(おもな事故・外傷と看護)

第 16 回 第 9～15 回までの内容のまとめ・試験 (20 分程度) (1H)

評価方法

第 1～8 回：筆記試験にて評価 50 点 (20 分程度)、第 9～16 回：筆記試験にて評価 50 点 (20 分程度)

第 1～8 回と第 9～16 回の試験を合わせて筆記試験評価 100%、試験は 60 点以上で合格

使用教科書

奈良間美保著，系統看護学講座専門分野Ⅱ，小児看護学[1]，小児看護学概論，小児臨床看護総論，第 15 版，医学書院

奈良間美保著，系統看護学講座 専門分野Ⅱ，小児看護学[2]，小児臨床看護各論，第 15 版，医学書院

参考書

細谷亮太訳，君と白血病 この 1 日を貴重な 1 日に，医学書院，チャールズ・M・シュルツ著，

細谷亮太訳，チャーリー・ブラウンなぜなんだい？ともだちがおもい病気になったとき，岩崎書店

その他

既習学科目，特に小児看護学概論(成長・発達)，小児臨床看護総論(症状を示す子どもの看護)，小児臨床看護各論(子どもの疾患)について事前学習しておくことを薦める。

事前に資料配布予定、授業は PC スライド使用予定。

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	小児看護学援助論Ⅲ	○	吉田 妙恵子	3	1 (30)	前期
授業概要						
1. 小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について学習し、健康障害を持つ子どもと家族に適切な看護を行うための必要な知識を習得する						
到達目標						
1. 子どもの健康障害の特徴と家族に必要な支援方法を理解することができる						
2. 健康障害のある子どもにみられる主な症状と症状回復に向けた基本的な援助を理解することができる						
3. 事例を通して子どもの成長発達を踏まえたアセスメントし、全体像の中で看護問題を表現することができる						
授業計画・授業内容 授業形態：個人ワーク・グループワーク ・ 演習						
第 1 回 オリエンテーション						
急性期事例の疾患：気管支喘息・ネフローゼ症候群・川崎病について事前学習を個人で取り組む						
第 2 回 急性期事例の疾患：気管支喘息・ネフローゼ症候群・川崎病について事前学習を個人で取り組む						
第 3 回 紙上事例の患児の成長発達についてグループでまとめる (専用用紙あり)						
第 4 回 事例を用いて、グループでアセスメントを行う						
第 5 回 事例を用いて、グループでアセスメントを行う						
第 6 回 事例を用いて、グループでアセスメントを行う (指導)						
第 7 回 事例を用いて、グループで全体像から看護問題を抽出する						
第 8 回 事例を用いて、グループで全体像から看護問題を抽出する (指導)						
第 9 回 事例を用いて、グループで対象に合わせた援助と発達段階に合わせた遊び・学習内容を考え作成						
第 10 回 事例を用いて、グループで対象に合わせた援助と発達段階に合わせた遊び・学習内容を考え作成						
第 11 回 事例を用いて、グループで対象に合わせた援助と発達段階に合わせた遊び・学習内容を考え作成						
第 12 回 事例を用いて、グループで対象に合わせた援助と発達段階に合わせた遊び・学習内容を考え作成						
第 13 回 事例を用いて、演習 (発表)						
第 14 回 事例を用いて、演習 (発表)						
第 15 回 事例を用いて、演習 (発表)・まとめ (小児看護の学び：個人レポート)						
評価方法						
事例の評価表にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
奈良間美保著, 系統看護学講座専門分野Ⅱ, 小児看護学[1], 小児看護学概論, 小児臨床看護総論, 第 15 版, 医学書院						
奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ, 小児看護学[2], 小児臨床看護各論, 第 15 版, 医学書院						
参考書						
特になし						
その他						
電子黒板使用など						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野	母性看護学概論	○	立石 加津代	2	1(15)	前期
授業概要 母性看護の概念、母性看護の対象・機能・役割とリプロダクティブ・ヘルスの基礎や動向の学びを深めると共に、母性とは何かについて考えることができる。						
到達目標 1. 母性の概念と特性が理解できる。 2. 母性看護の意義、目的、役割が理解できる。 3. 母性看護の現状を捉え、母性保健の向上について理解できる。 4. リプロダクティブ・ヘルスに関する概念や動向について理解できる。 5. 女性のライフサイクル各期の看護が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第1回 ガイダンス 母性看護の基盤となる概念 ①母性とは ②母性関係と家族発達 ③セクシュアリティ ④リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ⑤ヘルスプロモーション ⑥母性看護における倫理 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 ① 母性看護の歴史的変遷と現状 ②母性看護の対象を取り巻く環境 第2回 母性看護の対象理解 ①女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ② 女性のライフサイクルと家族母性の発達・成熟・継承 第3回 女性のライフステージ各期における看護 ①ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 ③ 思春期の健康と看護 ③成熟期の健康と看護 ④更年期の健康と看護 ⑤老年期の健康と看護 女性のライフステージ各期における看護 ①家族計画 ②性感染症とその予防 ④ HIVに感染した女性に対する看護 ④人工妊娠中絶と看護 女性のライフステージ各期における看護 ⑤性暴力を受けた女性に対する看護 ⑥児童虐待と看護 ⑦国際化社会と看護 第4回 性感染症・避妊法グループワーク発表準備 第5回 性感染症・避妊法グループ発表 第6回 ディベート「人工妊娠中絶の是非」準備 第7回 ディベート「人工妊娠中絶の是非」発表 第8回 試験						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 森恵美著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 第15版, 医学書院						
参考書 国民衛生の動向 厚生労働統計協会編集						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	母性看護学援助論 I	○	大上 育子	2	1 (30)	前期
授業概要						
母性看護学の対象である周産期にある母子の理解、看護ケアについて学び、対象に必要な看護を実践する能力を養う。						
到達目標						
1. 正常に経過する妊娠・分娩・産褥期及び新生児の基礎的知識を習得する。 2. 妊婦及び家族の健康の促進と正常から逸脱をしない予防法と看護が理解できる。 3. 分娩期にある対象と家族の健康の促進と正常から逸脱をしない予防法と看護が理解できる。 4. 産褥期にある褥婦と新生児の健康の促進と正常から逸脱をしない予防法と看護が理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態：授業・演習						
第 1 回 ウエルネス志向の考え方について ①遺伝相談 ②不妊治療と看護						
第 2 回 妊娠の成立、胎児の発育 ①妊娠の成立 ②胎児の発育と胎児附属物の機能						
第 3 回 妊娠に伴う心理的・社会的変化 ①心理的变化と母親役割 ②社会的変化と父親役割 母体と胎児の管理 ①妊婦健診 ②超音波検査 ③胎児心拍数モニタリング						
第 4 回 妊娠期における看護 - 1 ①栄養と食事 ②排泄 ③姿勢と運動						
第 5 回 妊娠期における看護 - 2 ④休息と睡眠 ⑤身体の清潔 ⑥衣生活 ⑦性生活 ⑧勤労妊婦 ⑨旅行 ⑩バースプラン						
第 6 回 分娩期における看護 - 1 ①分娩の全体像 ②分娩の 3 要素 ③正常分娩の経過 ④産婦の心理・社会的変化						
第 7 回 分娩期における看護 - 2 ⑤分娩各期の看護 ⑥胎児・家族の看護						
第 8 回 新生児期における看護 - 1 新生児とは ①新生児の特徴と看護 ②新生児の定義 ③新生児の分類 新生児の生理的特徴 ①呼吸 ②循環 ③体温						
第 9 回 新生児期における看護 - 2 新生児の生理的特徴 ④水分量・排泄（腎機能）⑤栄養 ⑥免疫 ⑦皮膚 ⑧反射 ⑨感覚機能 ⑩生理的体重減少 ⑪生理的黄疸 ⑫新生児の健康度の評価						
第 10 回 新生児期における看護 - 3 ①出生直後の看護 ②出生後から退院までの看護 ③生後 1 カ月 健診に向けた退院時の看護						
第 11 回 産褥経過 ①産褥期看護の概念 ②身体的・心理的社会的変化						
第 12 回 産褥期における看護 - 1 ①退行性変化に対する看護 ②進行性変化に対する看護						
第 13 回 産褥期における看護 - 2 ③退院後の生活調整への支援 ④家族のニーズと支援						
第 14・15 回 演習：妊婦体操、分娩の補助動作、呼吸法、産褥体操 試験（1H）						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、評価は 60 点以上で合格						
使用教科書						
森恵美著、系統看護学講座専門Ⅱ母性看護学[1] 母性看護学各論 母性看護学② 第 15 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	母性看護学援助論Ⅱ	○	四十澤 美行	2	1 (30)	前期
授業概要						
母性看護学の対象である周産期にある母子の異常の理解、看護ケアについて学び、対象に必要な看護を実践する能力を養う。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の異常について理解する。 2. ハイリスク妊娠・妊娠の異常の看護が理解できる。 3. ハイリスク分娩・分娩の異常の看護が理解できる。 4. 産褥の異常の看護が理解できる。 5. ハイリスク新生児・新生児の異常の看護が理解できる。 						
授業計画・授業内容 授業形態：授業						
<p>第 1 回 妊娠の異常と看護①ハイリスク妊娠と看護②妊娠期の感染症</p> <p>第 2 回 妊娠の異常と看護③妊娠疾患④妊娠高血圧症候群と看護⑤多胎妊娠と看護</p> <p>第 3 回 妊娠の異常と看護⑥妊娠持続期間の異常と看護⑦異所性妊娠</p> <p>第 4 回 分娩の異常と看護①産道の異常②娩出力の異常③胎児の異常による分娩障害</p> <p>第 5 回 分娩の異常と看護④胎児の付属物の異常⑤胎児機能不全⑥分娩時損傷</p> <p>第 6 回 分娩の異常と看護⑦分娩第 3 および分娩直後の異常⑧分娩時異常出血</p> <p>第 7 回 分娩の異常と看護⑨産科処置⑩異常のある産婦の看護</p> <p>第 8 回 分娩の異常と看護⑪急速遂娩を受ける産婦の看護⑫分娩時異常出血のある産婦の看護</p> <p>第 9 回 分娩の異常と看護⑬帝王切開術と看護</p> <p>第 10 回 産褥の異常と看護①子宮復古不全②産褥期の発熱③産褥血栓症④精神障害</p> <p>第 11 回 産褥の異常と看護⑤異常のある褥婦の看護⑥育児に困難さをかかえる母親への看護</p> <p>第 12 回 産褥の異常と看護⑦児を亡くした褥婦・家族の看護⑧メンタルヘルスの問題をかかえる母親への支援</p> <p>第 13 回 新生児の異常と看護①新生児仮死②分娩外傷③低出生体重児</p> <p>第 14 回 新生児の異常と看護④高ビリルビン血症⑤新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症</p> <p>第 15 回 第 1～第 14 回までの総まとめ、試験（1H）</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
森恵美著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学〔2〕母性看護学各論 母性看護学② 第 15 版, 医学書院						
参考書						
その他						
必要時資料配布						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野Ⅱ	母性看護学援助論Ⅲ	○	立石 加津代	3	1(30)	前期
授業概要						
妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康状態をアセスメントする力を修得し、看護する能力を養う。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の健康診査に必要な情報収集と観察項目が分かる。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者のアセスメントができる。 3. 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象者の看護計画をウェルネスの志向で立案することができる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習						
(事例)						
第 1 回 事例の進め方のガイダンス、事例の提示、指導を受けながら個人作業を行う 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の情報の分類・分析の実施 *ウェルネスの視点で分析・解釈を行っていく						
第 2 回 個人作業、指導 ①妊娠期の分析						
第 3 回 個人作業 指導 ②分娩期の分析						
第 4 回 個人作業 指導 ③産褥期の分析						
第 5 回 個人作業 指導 ④新生児期の分析						
第 6 回 グループ作業 ①関連付け						
第 7 回 グループ作業 ②看護計画立案						
第 8 回 グループ作業 ③シミュレーション演習準備						
第 9 回 グループ作業 ④シミュレーション演習準備						
第 10 回 グループ作業 ⑤シミュレーション演習準備						
第 11 回 } 第 12 回 } 妊娠期、産褥期、新生児のシミュレーション演習・アセスメントの実際 第 13 回 } 第 14 回 }						
第 15 回 総まとめ						
評価方法						
事例と評価表を合わせて提出にて評価 100%、評価点は 60 点以上で合格						
使用教科書						
森恵美著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ母性看護学〔2〕母性看護学各論 母性看護学② 第 15 版 医学書院						
参考書						
特になし						
その他						
特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	精神看護学概論	○	笹木 郁哉	1	1 (30)	後期
授業概要 健康な人を対象とした心の健康の維持増進を図るために必要な援助を学ぶ。						
到達目標 1. 精神的健康とは何かを理解し、地域における精神保健、精神看護の役割について理解できる。 2. 心のさまざまな働きと仕組みについて、生理学的・心理学的・社会的側面から理解する。 3. 「自己」の形成がどのようになされるか、また主な精神療法の基本的考え方を知る。 4. 精神疾患・障害とその治療と日本における精神医学・精神医療の流れを理解する。 5. 精神障害や精神疾患を抱えた人の尊厳を守りケアを行うためにはどのようなかかわりが必要か具体的に理解することができる。また、そこで起こる患者看護師関係の現象やしきみと対処法を理解する。						
授業計画・授業内容 授業形態：講義						
<p>第 1 回 自己紹介 精神看護学で学ぶこと (第 1 章) A 精神看護学とはなにか、B 精神障害をもつ人の病いの体験と精神看護</p> <p>第 2 回 精神看護学で学ぶこと (第 1 章) C 心のケアと日本社会、D 精神看護の課題</p> <p>第 3 回 心のはたらきと人格の形成 (第 3 章) A 心のはたらき</p> <p>第 4 回 心のはたらきと人格の形成 (第 3 章) B 心のしくみと人格の発達①</p> <p>第 5 回 心のはたらきと人格の形成 (第 3 章) B 心のしくみと人格の発達②</p> <p>第 6 回 社会の中の精神障害 (第 7 章) A 精神障害と治療の歴史、B 日本における精神医学・精神医療の流れ</p> <p>第 7 回 社会の中の精神障害 (第 7 章) C 精神障害と文化、D 精神障害と社会学</p> <p>第 8 回 社会の中の精神障害 (第 7 章) E 精神障害と法制度、F おもな精神保健医療福祉対策とその動向</p> <p>第 9 回 ケアの人間関係 (第 8 章) A ケアの前提</p> <p>第 10 回 ケアの人間関係 (第 8 章) B ケアの原則</p> <p>第 11 回 ケアの人間関係 (第 8 章) C ケアの方法</p> <p>第 12 回 ケアの人間関係 (第 8 章) D 関係をアセスメントする</p> <p>第 13 回 ケアの人間関係 (第 8 章) E 患者—看護師関係における感情体験</p> <p>第 14 回 ケアの人間関係 (第 8 章) F 関係の視点からみた困難事例、G チームのダイナミクス</p> <p>第 15 回 第 1～14 回までの総まとめ、試験 (1H)</p>						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ <u>精神看護の基礎</u> 精神看護学① 第 6 版第 1 刷、医学書院 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ <u>精神看護の展開</u> 精神看護学② 第 6 版第 1 刷、医学書院 <u>※テキストを 2 冊使用しますので、毎回 2 冊持ってきてください。</u> 精神看護の基礎 (精神看護学①) は、第 1 章～第 7 章までが掲載。精神看護の展開 (精神看護学②) は第 8 章～第 16 章までが掲載されています。						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野	精神保健	○	成田 邦男	1	1(30)	後期
授業概要 全てのライフサイクルにおける心の健康という視点に立ち、心の発達を理解し、心の働きを知るための理論や方法を学ぶ。						
到達目標 1. こころの健康・不健康とは何か、「正常」と「異常」を測る物差しとなっている「ふつう」のものさしについて理解することができる。また、精神障害を説明するモデルと、発生のメカニズム、予防と回復への視点を理解することができる。 2. 看護の基本となる人間関係形成、患者とその家族も含めたコミュニケーションについて理解する。また、人の成長と回復にとっての集団の役割と意味、集団のダイナミクスを理解する。 3. 患者にとっての回復・リカバリーの意味を理解し、精神障害をもつ人々の回復を促し支援する様々なアプローチ方法について知ることができる。 4. 患者を守るリスクマネジメントとは何か理解する。また、自殺・暴力・無断離院の3つの事態を中心に、緊急事態にどう対処すべきかを予防方法を具体的に学ぶことができる。 5. 災害がもたらす身体・心理・社会的側面への影響とそれに応じた心のケアの具体的方法について理解する。 6. 対人援助に必要な感情労働とは何か理解し、看護師の実際の感情管理と共感疲労の概念と症状について学ぶ。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第1回 自己紹介 精神保健の考え方(第2章) A精神の健康とは、B心身の健康に及ぼすストレスの影響 第2回 精神保健の考え方(第2章) C心的外傷(トラウマ)と回復、D精神障害という考え方 第3回 関係の中の人間(第4章) Aシステムとしての人間関係、B全体としての家族 第4回 関係の中の人間(第4章) C人間と集団 第5回 回復を支援する(第9章) A回復の意味、Bリカバリーのビジョン、C治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点 第6回 回復を支援する(第9章) Dリカバリーを促す環境、Eリカバリーを促す方法としてのグループ 第7回 回復を支援する(第9章) Fさまざまな回復のためのプログラム、Gリカバリーのプロセス 第8回 安全をまもる(第13章) Aリスクマネジメントの考え方と方法 第9回 安全をまもる(第13章) B緊急事態に対処する、C緊急事態とスタッフの支援 第10回 災害時のメンタルヘルスと看護(第15章) A災害時における心のケア、B災害にみまわれた人の心理とケア 第11回 災害時のメンタルヘルスと看護(テキスト第15章) C支援者のメンタルヘルスとケア 第12回 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス(第16章) A看護師の不安と防衛、B看護師の感情労働としての看護 第13回 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス(第16章) C看護師の感情ワーク、D看護における共感の光と影 第14回 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス(第16章) E感情労働の代償と社会、F共感疲労を予防するためのいくつかのヒント 第15回 第1～14回までの総まとめ、試験(1H)						
評価方法 授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ <u>精神看護の基礎</u> 精神看護学① 第6版第1刷、医学書院 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ <u>精神看護の展開</u> 精神看護学② 第6版第1刷、医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	精神看護学援助論 I	○	武藤 崇央	2	1 (30)	後期

授業概要

精神障害者の社会背景や精神障害に対する正しい知識を持ち、その援助方法を理解し、保健・医療・福祉の視点から地域で生活する精神障害者の看護と暮らしの場の拡大のための援助を学ぶ。

到達目標

1. 精神（心）を病むとはどういうことか、また精神障害を持つ人の経験していることを学び、理解を深めることができる。
2. 精神疾患の治療に必要な診断と基準、治療の実際が理解できる。
3. 代表的な精神疾患についてそれぞれの症状、経過について学ぶことができる。
4. 精神障害をもつ人及びその家族について学び、「患者—看護師」関係の在り方を理解することができる。
5. 診察及び検査時、治療に対する援助技術と注意点、生活指導など精神障害のある患者の看護について理解できる。
6. 病院中心の精神科医療から地域におけるケアへと向かう現代の日本の地域精神保健の動向を理解する。
7. 一般診療科において身体疾患の治療を受ける患者が陥りやすい精神保健上の問題はどのようなものがあるか理解することができる。
8. 精神科以外で精神保健看護の知識や技術をいかして活躍するリエゾンナースの役割について学ぶことができる。

業計画・授業内容 授業形態： 講義

全 15 回（30H）の授業は、第 1 回目～15 回目までを武藤崇央が担当する。

- 第 1 回 自己紹介、授業概要の説明
精神科疾患のあらわれ方（第 5 章）
A 精神を病むことと生きること、B 精神症状論と状態論
- 第 2 回 精神科疾患のあらわれ方（第 5 章）
C 精神障害の診断と分類①
- 第 3 回 精神科疾患のあらわれ方（第 5 章）
C 精神障害の診断と分類②
- 第 4 回 精神科での治療（第 6 章）
A 精神科における治療、B 精神療法、C 薬物療法①
- 第 5 回 精神科での治療（第 6 章）
C 薬物療法②、D 電気けいれん療法その他、E 環境療法・社会療法
- 第 6 回 身体をケアする（第 12 章）
A 精神科における身体ケア、B 精神科における身体を通した看護ケアの実際
- 第 7 回 身体をケアする（第 12 章）
C 精神科の治療に伴う身体ケア、D 身体合併症のアセスメントとケア
E 精神科における終末期ケア
- 第 8 回 医療現場におけるメンタルヘルスト（第 14 章）
A 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルスト、B リエゾン精神看護とその活動
- 第 9 回 医療現場におけるメンタルヘルスト（第 14 章）
C リエゾンナースの活動の実際、D 看護師のメンタルヘルストの支援
- 第 10 回 第 1～14 回の総まとめ・試験
- 第 11 回 自己紹介、地域におけるケアと支援（第 10 章）
A 器としての地域、B 地域における生活支援の方法、
- 第 12 回 地域におけるケアと支援（第 10 章）
C 地域におけるケアの方法と実際、D 学校におけるメンタルヘルストと看護、
E 職場におけるメンタルヘルストと精神看護
- 第 13 回 入院治療の意味（第 11 章）
A 精神科を受診するという事、B 治療の器としての病院・病棟
- 第 14 回 入院治療の意味（第 11 章）
C 入院中の観察とアセスメント、D ケアの方向性を考える、E 退院に向けての支援と実際
- 第 15 回 第 11～14 回の総まとめ・試験

評価方法

第1～15回の筆記試験（45分）評価100%、試験は60点以上で合格

使用教科書

武井麻子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 第6版第1刷, 医学書院
武井麻子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 第6版第1刷, 医学書院

参考書

特になし

その他

特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	精神看護学援助論Ⅱ	○	笹木 郁哉	3	1（15）	前期
授業概要 精神障害をもつ対象を理解し、個別性に応じた援助について授業を通して看護過程を用いて学ぶ。						
到達目標 1. 精神看護における基本的な知識、考え方について理解できる。 2. 精神障害を持つ対象者と家族を理解し全体像を捉えることができる。 3. 精神障害を持つ対象者の援助について考えることができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 演習 （事例・演習） 全8回（15H）は授業とグループワークで構成する。 第1回 授業概要の説明、精神看護事例展開① 第2回 精神看護事例展開② 第3回 精神看護事例展開③、グループワーク 第4回 精神看護事例展開④、グループワーク 第5回 精神看護事例展開⑤、グループワーク 第6回 精神看護事例展開⑥、グループワーク 第7回 精神疾患をもつ患者の理解、事例のまとめ 第8回 精神障害を持つ患者の自己管理、セルフマネジメント、服薬自己管理、退院支援等						
評価方法 事例と評価表を合わせて提出にて評価100%、試験は60点以上で合格						
使用教科書 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ <u>精神看護の基礎</u> 精神看護学① 第6版第1刷、医学書院 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ <u>精神看護の展開</u> 精神看護学② 第6版第1刷、医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
統合分野	災害看護	○	非常勤講師	3	1 (30)	前期
授業概要 災害時の看護活動について理解する。 救護活動に必要な組織的連携、役割責務について学ぶ。						
到達目標 1. 災害看護の概念、構造について理解できる。 2. 災害と健康について理解できる。 3. 災害時の看護活動について理解できる。 4. 対象の心理的反応について理解しケアのあり方を理解できる。 5. 災害の備えとそのシステムについて理解できる。 6. 災害看護の役割について考察できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義・演習 全15回の授業は、第1～14回は非常勤講師が担当し、第15回は総まとめと試験とする。						
第1回 災害看護の概念、構造 単元目標（災害看護の概念、構造について理解する） ① 災害看護の取り組みとはじまり ② 災害看護の概念・災害の分類 ③ 災害看護の特徴						
第2回 災害と健康 単元目標（災害と健康について理解する） ① 災害を受けやすい国土 ② 災害が人々の健康に及ぼす影響 ・要配慮者、避難行動要支援者 ・ケア提供者への影響 ・環境への影響						
第3回 看護活動 単元目標（災害時の看護活動について理解する） ① 災害サイクルとは ② 看護活動・フェーズ（サイクル別）						
第4回 第3回に引き続き看護活動 第5回 対象の心理的反応 単元目標（対象の心理的反応について理解し、ケアの在り方を理解する） ① 災害に襲われた時の心理的反応 ② 災害体験者、こころのケアを実践した人から体験を聞き、感じたことなどをGWで深める ・ロールプレイ						
第6回 第5回に引き続き対象の心理的反応 第7回 第6回に引き続き対象の心理的反応						
第8回 災害の備えとそのシステム 単元目標（災害の備えとそのシステムについて理解する） ① 災害準備期の看護 ② 災害に備えた備蓄 ③ 災害看護の特徴災害に備えた計画 ④ 災害に備えたシステムの整備						
第9回 第8回に引き続き災害の備えとそのシステム 第10回 第9回に引き続き災害の備えとそのシステム 第11回 災害看護の役割 単元目標（災害看護の役割について考察する） ① 災害図上訓練 DIG ② 災害時の事例を通して救護活動のアセスメント ③ 適切なトリアージ訓練						

④ こころのケア、ASD、PTSD、PFA

※避難生活における問題点と看護の役割について

- 第12回 第11回に引き続き災害看護の役割
第13回 第12回に引き続き災害看護の役割
第14回 第13回に引き続き災害看護の役割
第15回 第1回～15回までのまとめ、試験（1H）

※ 講義の進捗状況に応じて調整することがある

評価方法

授業終了後の筆記試験にて評価100%、試験は60点以上で合格

使用教科書

浦田喜久子著, 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 第5版, 医学書院

参考書

特になし

その他

特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
統合分野	国際看護	○	大上 育子	3	1 (30)	後期
授業概要 看護の国際協力・組織・役割を理解し、国際的視野を広げる。						
到達目標 1. 世界の健康問題の現状について理解し、国際看護学とは何かを理解できる。 2. 国際協力のしくみについて理解できる。 3. プライマリーヘルスケア及び国際看護の基本理念について理解できる。 4. 異文化理解について理解できる。 5. 国際看護活動の展開について理解できる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義 第 1 回 国際看護の概念と対象 (国際看護とは、なぜ国際看護学について学ぶのか、国際看護が協力して取り組む課題、国際看護学の対象、何が看護に影響を与えるか) 第 2 回 国際看護に関する基礎知識 (国際協力、国際看護を知る、日本の国際看護の歴史) 看護における文化 (看護と文化、異文化の理解と看護、文化ケアアプローチ、異文化への適応) 第 3 回 紛争地域の女子教育を考える VTR「スケボーが私を変える」～アフガニスタン少女たちの挑戦～ 第 4 回 日本の看護師からみた国際看護の実践の場 (在日外国人・訪日外国人への医療と看護、在外日本人への医療と看護、海外で働く、国内で外国人と働く) 第 5 回 日本在住の外国人の医療問題を考える VTR「メスは持たないけれど」～外国人患者と向き合う女性医師～ 第 6 回 世界の健康課題 (世界の健康課題を理解するうえでの基礎概念、世界的健康課題を引き起こす感染症、世界の健康課題に関連する国際機関、国際協力機関) 第 7 回 国際協力のしくみ (国際看護協力に関する機関、国際救援の調整) 第 8 回 国際協力を考える① VTR「武器ではなく命の水を」～医師、中村哲とアフガニスタン～ 第 9 回 国際協力を考える② 第 10 回 国際看護協力に必要とされる態度・能力・知識・技術 (国際協力で用いられる調査方法、国際看護活動の展開過程、住民参加型アプローチ、5 S、国際看護協力に必要とされる態度・能力開発協力と看護) 第 11 回 国際協力としての看護の実際 (国際協力としての看護の現状と課題、病院での看護、非感染性疾患と看護、母子保健・母子看護、難民への看護) 第 12 回 異文化理解と国際看護を考える① 映画「ホテル ルワンダ」 第 13 回 異文化理解と国際看護を考える② 第 14 回 異文化理解と国際看護を考える③ 第 15 回 外国で看護活動をするために (外国での資格所得と選択の幅、国連組織での派遣までの過程と勤務、政府機関関連での派遣までの過程と勤務、非営利組織での採用までの過程と勤務) ※ 講義の進捗状況に応じて調整することがある						
評価方法 VTR・映画視聴後に作成したレポートにて評価 100%、評価は 60 点以上で合格						
使用教科書 竹下喜久子著、系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 第 5 版, 医学書院						
参考書 特になし						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
統合分野	看護管理	○	小宮 裕子	3	1 (30)	後期
授業概要						
看護マネジメントについて、ケアを提供しているすべての看護職が担う役割について学ぶ。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. サービスとしての医療及び看護サービスの概念を理解できる。 2. 看護管理・マネジメントのあり方を理解できる。 3. 看護管理・マネジメントに影響する法律・制度について理解できる。 4. 看護職のキャリアマネジメントについて理解できる。 5. 医療安全と医療の質の保証について理解できる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 講義						
<p>第 1 回 看護管理学とマネジメントについて</p> <p>第 2 回 看護ケアのマネジメントと看護職の機能</p> <p>第 3 回 安全管理</p> <p>第 4 回 チーム医療と看護業務の実践</p> <p>第 5 回 看護職のキャリアマネジメント</p> <p>第 6 回 看護サービスのマネジメント</p> <p>第 7 回 看護サービス提供のしくみづくり</p> <p>第 8 回 人材マネジメント</p> <p>第 9 回 施設・設備環境・物品・情報のマネジメント</p> <p>第 10 回 組織におけるリスクマネジメントとサービスの評価</p> <p>第 11 回 マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>第 12 回 組織の調整</p> <p>第 13 回 看護を取り巻く諸制度について</p> <p>第 14 回 医療制度・看護政策と制度</p> <p>第 15 回 第 1～14 回までの総まとめ・試験 (1H)</p>						
評価方法						
授業終了後の筆記試験にて評価 100%、試験は 60 点以上で合格						
使用教科書						
上泉和子著, 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 第 11 版, 医学書院						
参考書						
吉田千文他編, ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践①看護管理 第 4 班, 株式会社メディカ出版						
その他						
実習中に気づいた看護管理に関する問題・疑問・課題解決に向けて考えたことを整理しておくこと。						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
統合分野	総合技術	○ ○・○	佐藤 愛子 立石 加津代・長崎 加奈	3	1 (30)	後期
授業概要 既習の看護知識・技術を統合し、状況に合わせた患者への対応ができることを目標に客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者に起こっている事象を理解し、既習の看護知識・技術を統合し、アセスメントすることができる。 2. 優先順位を考慮したうえで必要な看護援助を実施することができる。 3. 患者の状況に配慮した声掛けや行動がとれる。 						
授業計画・授業内容 授業形態：講義・演習 授業の形式は第1回はガイダンス、第2回～第7回は技術練習、第8回～第15回は技術課題・シナリオ課題のOSCEを2日間で実施とする。						
第1回 ガイダンス 第2回 OSCEに向けた技術練習 第3回 OSCEに向けた技術練習 第4回 OSCEに向けた技術練習 第5回 OSCEに向けた技術練習 第6回 OSCEに向けた技術練習 第7回 OSCEに向けた技術練習 第8回 OSCE(技術課題) 第9回 OSCE(技術課題) 第10回 OSCE(技術課題) 第11回 OSCE(技術課題) 第12回 OSCE(シナリオ課題) 第13回 OSCE(シナリオ課題) 第14回 OSCE(シナリオ課題) 第15回 OSCE(シナリオ課題)						
評価方法 シナリオ課題：50点満点 技術課題：40点満点 レポート(技術課題・シナリオ課題)各5点で10点 総合得点60点以上を合格とする。						
使用教科書 竹尾恵子 看護技術 プラクティス , 第4版, 学研 他						
参考書 必要時提示する						
その他 OSCE実施時、模擬患者として数名の教職員に協力していただく。 OSCE実施時、実習室・リズム室を使用。						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護実習 I	○・○	長崎 加奈・影浦 麻美	1	1 (30)	後期
授業概要 コミュニケーションや日常生活援助を通して入院生活を送る対象を理解する。						
実習目的 健康障害を持つ対象者とのコミュニケーションを通して対象者の生活の場である療養環境について学ぶ。						
到達目標 1. 病院の機能、役割について知ることができる。 2. 病院における患者の療養環境を知ることができる。 3. 入院患者の生活を知ることができる。 4. 看護学生としての基本的態度を学ぶ。						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《オリエンテーション》 学内 0.1 単位 目的：基礎看護実習 I の臨地実習について説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前に実施 1.5 時間 2 日間 (学内で実施) 実習要綱を使用し実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《病棟》 目的：実習目的に準じる 臨地 0.7 単位 方法：8：30～16：30 (7 時間) 臨地実習 3 日間 患者を受け持ち日常生活援助の見学及び実践を行う。 《学内実習》学内 0.2 単位 目的：実習での学びをもとに、情報を整理し対象理解を深める。 方法：3 時間 2 日間 事前学習を活用して対象の情報を整理し、記録整理の時間とする。 対象理解のために必要な情報を整理する。 臨地合計 0.7 単位 学内合計 0.3 単位 ※他詳細については、実習要綱を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						
使用教科書 茂野 香おる他，基礎看護技術 I ・基礎看護学②，第 19 版，医学書院 任 和子他，基礎看護技術 II ・基礎看護学③，第 19 版，医学書院 竹尾恵子 看護技術 プラクティス ，第 4 版，学研						
参考書 特になし						
その他 1. 実習記録を綴るファイル (A4 サイズ)、事前学習を整理するバインダー (A4 サイズ) 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	基礎看護実習Ⅱ	○・○	長崎 加奈・影浦 麻美	1	2 (60)	後期
授業概要 療養生活を送っている対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、看護上の問題を明らかにするための思考過程を養う。また、看護師の役割および多職種との連携・協働について学ぶ。						
実習目的 療養生活を送っている対象の身体的・心理的・社会的特徴を踏まえ、基本的ニーズを理解することができる。また、看護師の役割について学ぶ。						
到達目標 1. 対象のおかれている状況と状態を理解することができる。 2. 環境整備、コミュニケーション、バイタルサイン測定などの基本的技術と全身状態の観察を実践できる。 3. 看護師の役割についてわかる。 4. 看護を学ぶ者としての基本的姿勢・態度を学ぶことができる。						
授業計画・授業内容 授業形態：実習 《オリエンテーション》 学内0.2単位 目的：基礎看護実習Ⅱについて説明を受け実習準備を行うことで、実習を円滑に行う。 方法：実習前に実施 1.5時間 4日間（学内で実施） 実習要綱を使用し実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《病棟実習》 1.4単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～16：30（7時間）6日間（原則として水曜日を帰校日とする） 患者を受け持ちゴードンに沿って情報の分類を行う。 日常生活援助の実践を行う。 《学内実習》 0.4単位 目的：実習での学びをもとに、情報を整理し対象理解を深める。 実習目標の達成度を評価する。 方法：3時間 4日間 コミュニケーションや観察、情報取得をもとに得られた情報を実習記録に整理する。 実習の達成度を教員の指導を受けながら、評価・考察を記録にまとめる。 臨地合計1.4単位 学内合計0.6単位 ※他詳細については、実習要綱を参照してください。						
評価方法 実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする。						
使用教科書 茂野香おる他，基礎看護技術Ⅰ・基礎看護学②，第19版，医学書院 任 和子他，基礎看護技術Ⅱ・基礎看護学③，第19版，医学書院 竹尾恵子 看護技術 プラクティス ，第4版，学研						
参考書 必要時、プリント配布します。						
その他 1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	地域・在宅看護実習 I	○・○	蛭名千昌・川崎美蘭	2	1 (30)	後期
授業概要 在宅療養者と家族への援助活動を通して看護の役割を学ぶ。						
実習目的 在宅で生活する療養者とその家族（対象者）のニーズを理解し、対象者の健康保持増進・疾病予防及び QOL を向上した生活の維持拡大、自立に向けての看護活動をとおして、地域の保健医療福祉体制における看護が展開できる能力と態度を養う。						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護ステーションの概要・役割・機能について理解し、利用する制度の違いが理解できる。 2. 地域で生活する対象と家族のニーズを理解し、健康状態や生活状況をふまえた看護活動の実際を理解できる。 3. 在宅での援助活動の実際をとおし、看護の役割を理解する。また、療養者に関わる家族や他職種の役割と連携の必要性を理解する。 4. 看護学生としての対象の生活の場に訪問するうえで必要な行動がとれる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《地域・在宅看護実習 I オリエンテーション》 学内 0.05 単位 目的：地域・在宅看護実習 I の臨地実習について説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前に学内 1.5 時間で実施 実習要綱を使用し、実習目的・目標・方法・評価・留意点等を確認する。 《訪問看護ステーション》 臨地 0.47 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～16：30（7.0 時間） 臨地実習 2 日間 訪問看護に同行し見学実習を行う。技術経験録を基に、バイタルサイン等実施可能なものは、指導者の見守りのもと実施しても良い。可能であれば実習最終日に学生主体で振り返りを実施する。 《訪問看護ステーション実習の学内》 学内 0.2 単位 目的：訪問看護ステーションにおける概要・役割・機能について、また地域で暮らす対象の健康上の問題と生活環境をまとめることで、実習と既存の学習を関連付け学びを深める。 方法：9：00～16：20（6 時間） 学内実習 1 日間（実習の前後いずれかに実施） 実習前の場合は事前学習として訪問看護ステーションにおける概要・役割・機能についてまとめる。実習後の場合は、地域で暮らす対象の健康上の問題と生活環境をまとめる。学内実習時間は、既習の学習と実習の学習を結び付けられるように学習をすすめる。 《施設見学実習》 臨地 0.2 単位 学内 0.08 単位 目的：実習目的に準じる 方法：施設見学（3 時間）、学内でのまとめ（2.5 時間） 施設の概要や複合施設の役割・機能について説明を受け、グループごとに見学を行う。その後、学内で記録にまとめて学びを深める。 実習場所：①ケアタウン昭里（3 時間） ②ケアハウス豊寿（3 時間） 臨地合計 0.67 単位 学内合計 0.33 単位 ※他詳細については、実習要綱を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						

使用教科書

特になし

参考書

河原加代子著，専門分野 地域・在宅看護論①[地域・在宅看護の基盤]，第6版，医学書院
河原加代子著，専門分野 地域・在宅看護論②[地域・在宅看護の実践]，第6版，医学書院
長谷川素美著他，ナーシンググラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア，メディカ出版
渡辺裕子著他，家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編・II 実践編，日本看護協会

その他

1. 事前学習を整理するバインダー（A4サイズ）
2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	地域・在宅看護実習Ⅱ	○・○	蛭名千昌・川崎美蘭	3	1 (30)	前期
授業概要 地域で生活しながら療養する人々を支える社会資源の活用と保健・医療・福祉の連携の実際を学ぶ。						
実習目的 地域で生活しながら療養する人々を支える社会資源の活用と保健・医療・福祉の連携の実際を学ぶ。						
到達目標 (地域包括支援センター) 1. 地域包括支援センターの概要・役割・機能の実際について理解する。 2. 地域で生活する人々とその家族の暮らしの様子(環境・生活)や健康上の問題を統合的に理解する。 3. 人々が地域で暮らし続けるための保健・医療・福祉(介護)における他職種の役割と連携の必要性について理解できる。 4. 地域住民との交流を通して医療専門職を目指す一員としての自覚を新たにす。 (通所リハビリテーション) 1. 通所リハビリテーションの役割・機能について理解する。 2. 通所している高齢者の身体的特徴と通所目的や経過を理解し、自立に向けた支援について理解する。 3. 保健・医療・福祉チームでの連携の必要性が理解できる。 4. 対象者との交流を通してコミュニケーション能力を育て、学生としての適切な行動がとれる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《地域在宅実習Ⅱオリエンテーション》 学内 0.05 単位 目的：地域・在宅看護実習Ⅱの臨地実習について説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前に実施 1.5 時間(学内で実施) 実習要綱を使用し実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《地域包括支援センター》 臨地 0.5 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～16：30 (7 時間) 臨地実習 2 日間 見学及び体験による臨地実習(函館市内の 10 か所の地域包括支援センターのいずれかで実習) 《地域包括支援センターの学内》 学内 0.15 単位 目的：臨地実習での学びをまとめることで、地域で暮らす高齢者の理解と看護における予防的視点を学ぶ。 方法：9：00～14：40 (4.5 時間) 1 日間 臨地実習での学びから、地域で暮らす高齢者の対象理解と看護における予防的視点、他職種連携・看護の役割などについて記録にまとめて振り返る。 《通所リハビリテーション》 臨地 0.2 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～16：30 (7 時間) 臨地実習 1 日間 通所リハビリテーションの役割・機能・特徴、施設を利用している利用者の特徴、多職種連携などの実際を学び、実習記録で考察し学びを深める。 場所：通所リハビリテーション西堀 《通所リハビリテーションの学内》 学内 0.1 単位 目的：臨地実習での学びをまとめることで、地域で暮らす高齢者の理解と看護における予防的視点を学ぶ。 方法：9：00～12：15 (3 時間) 1 日間 地域で暮らす高齢者の対象理解と他職種連携・看護の役割を学び、既存の学習と関連付ける。 臨地合計 0.7 単位 学内合計 0.3 単位 ※他詳細については、実習要項を参照してください。						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						
使用教科書						

特になし

参考書

河原加代子著，専門分野 地域・在宅看護論①[地域・在宅看護の基盤]，第6版，医学書院
河原加代子著，専門分野 地域・在宅看護論②[地域・在宅看護の実践]，第6版，医学書院
長谷川素美著他，ナーシンググラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア，メディカ出版，

その他

1. 事前学習を整理するバインダー（A4サイズ）
2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	成人看護実習Ⅰ	○	佐藤 愛子	2	3 (90)	前期
授業概要 成人期にある対象を理解し、日常生活援助を行うことができる。看護計画を立案することができる。						
実習目的 成人期の対象を理解し、さまざまな健康段階にある対象と家族に必要な看護を実践できる能力を養う。						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の発達段階と身体的・精神的・社会的特徴がわかり、対象を総合的に理解することができる。 2. 対象の健康障害の状況や経過（急性期・慢性期・回復期・終末期）がわかり、個別性に応じた看護を理解し実践することができる。 3. 継続看護の重要性がわかり、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。 4. 看護者としての倫理的あり方を追求しながら、誠実な態度で実習に臨み対象や家族との関係を築くことができる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《学内オリエンテーション》学内 0.2 単位 目的：成人実習について説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前 1.5 時間 4 日間（学内で実施） 実習要綱を利用し実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《病棟》臨地 2.1 単位 目的：実習目的に準じる 方法：実習初日実習病棟へ挨拶を行い、受け持ち患者を決定、情報収集を行う。更衣室・休憩室の場所、使い方の説明を受ける。 8：30～16：30（7.0 時間）臨地実習 9 日間 患者を受け持ち看護展開（情報収集、関連付け、問題抽出、計画立案、実施）を行う。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 毎日 30 分程度、指導者と振り返りを行う。日々の目標に沿った振り返りや、指導から学習したことなどの共有を行う。また、翌日の実習行動計画の相談や確認を行う。 実習 2 週目の後半に学生が主体となってケースカンファレンスの企画・運営を行う。 実習 3 週目に実習全体の振り返りを行う。 15：30～16：30 休憩室にて実習記録や教員から指導を受ける。 《学内》学内 0.7 単位 目的：実習目的に準じる 方法：9：00～16：20（6 時間）3 日間、9：00～13：25（3 時間）1 日間 受け持ち患者の看護の方向性を明確にするための思考整理、看護計画の立案・修正と技術練習、またはカンファレンスについての話し合いや教員から記録や技術の指導を受ける。 臨地実習 2.1 単位 学内実習 0.9 単位 ※他詳細については、実習要綱を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						

使用教科書

小松浩子著他, 成人看護学総論, 第16版, 医学書院
香春知永著他, 臨床看護総論, 第7版, 医学書院

参考書

特になし

その他

1. 実習記録を綴るファイル (A4サイズ)、事前学習を整理するバインダー (A4サイズ)
2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	成人看護実習Ⅱ	○	佐藤 愛子	2	3 (90)	前期
授業概要 成人期にある対象を理解し、日常生活援助を行うことができる。看護計画を立案することができる。						
実習目的 成人期の対象を理解し、さまざまな健康段階にある対象と家族に必要な看護を実践できる能力を養う。						
到達目標 1. 成人期にある対象の発達段階と身体的・精神的・社会的特徴がわかり、対象を総合的に理解することができる。 2. 対象の健康障害の状況や経過（急性期・慢性期・回復期・終末期）がわかり、個別性に応じた看護を理解し実践することができる。 3. 継続看護の重要性がわかり、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。 4. 看護者としての倫理的あり方を追求しながら、誠実な態度で実習に臨み対象や家族との関係を築くことができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《学内オリエンテーション》学内 0.2 単位 目的：成人実習について説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前 1.5 時間 4 日間（学内で実施） 実習要綱を利用し実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《病棟》臨地 2.1 単位 目的：実習目的に準じる 方法：実習初日実習病棟へ挨拶を行い、受け持ち患者を決定、情報収集を行う。更衣室・休憩室の場所、使い方の説明を受ける。 8：30～16：30（7.0 時間）臨地実習 9 日間 患者を受け持ち看護展開（情報収集、関連付け、問題抽出、計画立案、実施、評価）を行う。また、受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 毎日 30 分程度、指導者と振り返りを行う。日々の目標に沿った振り返りや、指導から学習したことなどの共有を行う。また、翌日の実習行動計画の相談や確認を行う。 実習 2 週目の後半に学生が主体となってケースカンファレンスの企画・運営を行う。 実習 3 週目に実習全体の振り返りを行う。 15：30～16：30 休憩室にて実習記録や教員から指導を受ける。 《学内》学内 0.7 単位 目的：実習目的に準じる 方法：9：00～16：20（6 時間）3 日間、 9：00～13：25（3 時間）1 日間 受け持ち患者の看護の方向性を明確にするための思考整理、看護計画の立案・修正と技術練習、またはカンファレンスについての話し合いや教員から記録や技術の指導を受ける。 臨地実習 2.1 単位 学内実習 0.9 単位 ※他詳細については、実習要綱を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						

使用教科書

小松浩子著他, 成人看護学総論, 第16版, 医学書院
香春知永著他, 臨床看護総論, 第7版, 医学書院

参考書

特になし

その他

1. 実習記録を綴るファイル (A4サイズ)、事前学習を整理するバインダー (A4サイズ)
2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	老年看護実習Ⅰ	○	中井 幾子	2	1 (30)	後期
授業概要 施設における高齢者の生活状況を知るとともに、日常生活援助の実際を通して高齢者の理解を深めることを学習する。						
実習目的 施設における高齢者の生活状況を知るとともに、生活援助の実際を通して高齢者の理解を深める						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の概要と介護老人保健施設または、特別養護老人ホームの機能・役割が理解できる。 2. 高齢者と関わり得られた情報から、高齢者の生きがい・QOLを支えることの重要性について理解できる。 3. 高齢者の健康レベル・自立度に応じた日常生活援助が実施できる。 4. 施設における各職種の役割と職種間の協働・連携の重要性が理解できる。 5. 看護倫理をふまえた誠実な態度で援助することができる。 						
授業計画・授業内容 授業携帯： 実習 《老年看護実習Ⅰオリエンテーション》学内0.05単位 目的：各施設の実習目的・目標・方法・評価・留意点の説明を受け理解し実習を円滑に行う。 方法：実習前に実施 1.5時間(学内で実施) 実習要綱を使用し、介護老人保健施設や特別養護老人ホームの臨地実習について説明する。 《介護老人保健施設・特別養護老人ホーム》臨地0.8単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～15：30（6時間）、臨地実習4日間 毎日、その日の行動計画を立てて実習に臨む。 施設で生活する多くの高齢者と関わり、1日の過ごし方を理解する。 高齢者の日常生活援助を見学し、指導者の指導のもとに実施または介助する。 施設で働く看護師の役割や各職種の業務内容を知り、職種間の協働・連携を理解する。 《介護老人保健施設・特別養護老人ホームの学内》学内0.15単位 目的：臨地実習で実際に学んだことを振り返り、日常生活援助や高齢者を支える保健制度について学内で理解を深める。 方法：9：00～14：40（4.5時間）、学内1日間（臨地実習期間のうちの1日） 高齢者を支える保健制度について思考を整理し記録にまとめる。 レクリエーションの準備（企画をし、練習）をする。 臨地実習において日常生活援助を実施するための技術練習をする。 臨地実習0.8単位 学内実習0.2単位 ※他詳細については、実習要項を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100点満点とし60点以上を合格、60点未満は不合格とする						
使用教科書 特になし						

参考書

北川公子著他，老年看護学，第9版，医学書院
鳥羽研二著他，老年看護病態・疾患論，第5版，医学書院

その他

1. 実習記録を綴るファイル（A4サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4サイズ）
2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	老年看護実習Ⅱ	○	中井 幾子	3	2（60）	前期
授業概要 健康障害をもった老年期の対象の健康問題を総合的に理解し、その看護について学ぶ。						
実習目的 高齢者の加齢に伴う機能低下や疾患の特徴を理解し、発達課題や生活過程の特徴を捉えた看護ができる能力を養う						
到達目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴について理解できる。 2. 健康障害のある高齢者に対して看護過程を用いて看護展開ができる。 3. 高齢者の生活の特徴及び過去の生活家庭を考慮した日常生活の援助ができる。 4. 医療施設と保健、福祉の連携について理解できる。 5. 看護倫理をふまえた誠実な態度で援助できる。 						
授業計画・授業内容 授業携帯：実習 《老年看護実習Ⅱオリエンテーション》学内 0.05 単位 目的：老年病棟実習目的・目標・方法・評価・留意点を理解し、実習を円滑に進めるため。 方法：実習前に実施 1.5 時間(学内で実施) 実習要綱を使用し老年病棟の臨地実習について説明することで、実習を円滑に行う。 《病棟》臨地 1.4 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～16：30（7.0 時間） 臨地実習 6 日間 毎日、その日の行動計画を立てて実習に臨む 1 人の患者を受け持ち、情報収集をもとに分析し、健康障害のある高齢者の生活機能に目を向けて看護展開をする。 受け持ち患者に行われている看護を見学し、指導者の指導のもとに実施または介助する。 《老年看護実習Ⅱの学内》学内 0.55 単位 目的：受け持ち患者に実施する技術や援助の習得や不足な知識を補うため 方法：9：00～16：20（6 時間）2 日間、9：00～14：40（4.5 時間）1 日間 受け持ち患者の看護の方向性を明確にするための思考整理、看護計画の修正と技術練習 臨地実習 1.4 単位 学内実習 0.6 単位 ※他詳細については、実習要項を参照してください						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						
使用教科書 特になし						
参考書 北川公子著他、老年看護学、第 10 版、医学書院 鳥羽研二著他、老年看護病態・疾患論、第 6 版、医学書院 香春知永著他、臨床看護総論、第 7 版、医学書院						
その他 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習記録を綴るファイル（A4 サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4 サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具 						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位(時間数)	時期
専門分野	小児看護実習	○	吉田 妙恵子	3	2(60)	前期
授業概要 小児看護実習では、看護の対象である子どもの特徴を理解し、あらゆる健康レベルにおける子どもの養護者・家族に対して、個別的なケアを提供するために必要な基礎的知識を習得し技術・態度について学習する。						
実習目的 さまざまな健康レベルにある小児の特徴を理解し、小児とその家族に応じた適切な看護ができる基礎的な知識・技術・態度を修得する。						
到達目標 1. さまざまな健康レベルにある小児の成長発達と生活・遊び(学習)を理解することができる。 2. 小児特有の健康障害及び症状と健康回復に必要な看護を理解することができる。 3. 健康障害が小児及び家族に与える身体・心理・社会的影響を理解することができる。 4. 小児に必要な基本的看護技術を理解し、実施することができる。 5. 小児をひとりの権利を持った存在であることを理解し、看護学生として責任を持った行動ができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《小児看護実習オリエンテーション》学内 0.1 単位 目的：小児看護実習の臨地実習について説明を受けることで実習を円滑に行う 方法：実習前に実施 合計 3 時間(学内で実施) 実習要綱を使用し実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。(1.5 時間) 小児に必要な技術や疾患を理解し、安全安楽な援助を提供するための学びを深める。(1.5 時間) 《病棟実習》臨地 0.75 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～17：00 (7.5 時間) 臨地実習 3 日間 毎日、その日の行動計画を立てて実習に臨む。 受け持ち患児の日常生活援助の実施を行い、看護展開は全体像までとする。 受け持ち以外の処置の見学・一部実施をすることもある。 《病棟実習の学内》学内 0.2 単位 目的：前半の実習で経験した技術や情報について学内で学びを深め、後半の実習に生かすため。 方法：9：00～16：20 (6 時間) 1 日間 小児看護技術の DVD 視聴し、小児看護技術の演習 既存の事前学習を関連付け、考察、分析し記録にまとめる。 《支援学校実習》臨地 0.18 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～15：00 (5.5 時間) 臨地実習 1 日間 実習初日にオリエンテーションを受ける。 指導のもと見学・体験をする。 実習内容は、実習目標にもとづき実習記録に整理する。 実習最終日に振り返りを実施する。 《支援学校学内》学内 0.15 単位 目的：実習での学びをもとに、さまざまな健康レベルの子どもについて学内で振り返ることで理解を深める。 方法：9：00～14：40 (4.5 時間) 1 日間 見学・体験をした子どもとの関わりを振り返り、考察・分析をして記録にまとめる 《幼稚園実習》臨地 0.47 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～16：30 (7 時間) 臨地実習 2 日間 クラスに入り、受け持ち年齢の健康な子どもと実際に接し、成長発達の評価や発達段階に応じた援助を幼稚園教諭の指導のもとに、見学・体験をする。 幼稚園教諭の子どもへの対応から、発達段階の応じた、より適切な対応の仕方を知る。						

《幼稚園実習学内》臨地 0.15 単位

目的：実習目的に準じる

方法：8：30～14：40（4.5時間）1日間

見学・体験をした子どもとの関わりを振り返り、考察・分析をして記録にまとめる。

臨地実習 1.4 単位 学内実習 0.6 単位

※他詳細については、実習要項を参照してください

評価方法

《病棟》《支援学校》《幼稚園》それぞれ評価表にて評価とする。100点満点とし、60点未満は不合格とする

使用教科書

特になし

参考書

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1, 第15版, 医学書院

奈良間美保他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2, 第15版, 医学書院

佐々木祥子他, 写真でわかる小児看護技術 第1版, アドバンス, インターメディカ

その他

特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	母性看護実習	○	立石 加津代	3	2 (60)	前期
授業概要						
母性看護実習では、妊娠、分娩、産褥期にある母子および新生児の特徴を理解し、母子に対して適切な看護ができる能力を養う。主に、産褥期・新生児期の対象への看護を中心に、外来実習やNICUの見学実習、病棟実習を行い看護実践を学ぶ。また、分娩見学を通して生命の誕生場面に触れるとともに生命の尊厳について学習する。						
実習目的						
妊娠、分娩、産褥期にある母子および新生児の特徴を理解し、適切な看護ができる能力を養う。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠、分娩、産褥期の生理的特徴について理解し、各期の看護を学ぶことができる。 2. 母子相互作用について理解し、母子関係成立に向けての援助を学ぶことができる。 3. 母性が保険行動や養育行動を獲得していくための看護の実際を学ぶことができる。 4. 新生児の生理的特徴について理解し、日常の看護を学ぶことができる。 5. 生命の尊厳や、母性の特徴について自己の考えを深めることができる。 						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習						
《母性看護実習オリエンテーション》学内 0.05 単位						
実習前に実施 1.5 時間(学内で実施)						
目的：実習前に母性病棟、母性外来、NICU での臨地実習についての説明を受け、臨地実習を円滑に行い学びを深める。						
方法：実習要綱を使用し、母性病棟、母性外来、NICU の実習目的・目標・方法・評価・留意点について説明を受ける。						
《病棟》臨地 0.8 単位						
目的：実習目的に準じる						
方法：8：30～15：30 (6.0 時間)、臨地実習 4 日間						
毎日、その日の行動計画を立てて実習に臨む。						
分娩がある場合、産婦の了承が得られた場合に見学させてもらう。						
病棟で行われている看護は見学し、指導者の指導のもとに実施または介助する。						
《病棟実習の学内》学内 0.2 単位						
目的：母性実習を振り返り、褥婦、新生児への援助技術演習を行うことで学びを深める。						
方法：9：00～16：20 (6 時間) 学内実習 1 日間 実習期間中に実施						
産褥期の観察法、新生児の観察法の技術演習を実施。						
《外来実習》臨地 0.47 単位						
目的：実習目的に準じる						
方法：臨地実習 2 日間 (原則として月曜日と火または金曜日)、						
① 実習 1 日目 8：30～15：30 (7 時間)						
午前はオリエンテーション後、妊婦健康診査に関わる。午後は同行妊婦を決定し、情報をカルテから得る。						
② 実習 2 日目 8：30～15：30 (7 時間) 健康診査に訪れる妊婦に受付から帰るまで同行して、妊婦の反応、妊娠の受容、生活状況などを理解する。(前日の午後に対象の情報を把握しておく)						
《外来の学内 2 日間》学内 0.35 単位						
目的：学内で技術練習を行い、母性外来実習における妊婦健康診査で実施する技術や援助を習得する。						
方法：① 1 日目 9：00～16：20 (6 時間)						
② 2 日目 9：00～14：40 (4.5 時間)						
妊婦健診 (子宮底足底・腹囲測定・レオポルド触診法) 技術演習を行う。						

《NICU 実習》臨地 0.13 単位

目的：実習目的に準じる

方法：8：30～12：30（臨地 4 時間）、
指導者の説明のもと未熟児センターの見学を行う。

臨地実習 1.65 単位 学内実習 0.35 単位

※他詳細については、実習要項を参照してください

評価方法

《病棟》《外来》《NICU》 それぞれ評価表にて評価とする。100 点満点とし、60 点未満は不合格とする

使用教科書

特になし

参考書

森恵美他，専門分野Ⅱ・母性看護学各論・母性看護学②，第 14 版，医学書院

井上裕美他，病気がみえる・vol. 10・産科，第 3 版メディックメディア

有森直子他，アセスメントスキルを習得し質の高い周産期ケアを追求する・母性看護学Ⅱ・周産期各論，第 1 版，医歯薬出版株式会社

その他

特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位 (時間数)	時期
専門分野	精神看護実習 I	○	笹木 郁哉	2	1 (30)	後期
授業概要 精神の健康保持・増進のための精神保健活動など、精神保健福祉との関連を理解する。 主に、疾患・症状の再発予防や社会生活機能の回復を目的とした地域生活支援の実際を学習する。 外来実習では精神科外来看護師の役割について学習する。						
実習目的 精神の健康保持・増進を目的とした精神保健活動（精神デイケア・精神科外来）を体験し、対象との関わりの実際を理解出来る						
到達目標 精神科デイケア実習目標 <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する精神障がいをもつ対象者の理解ができる。 2. 精神科デイケアの役割が理解できる。 3. 看護者としての倫理的あり方を追求し、意欲的及び誠実な態度で実習に臨むことができる。 精神科外来実習目標 <ol style="list-style-type: none"> 4. 精神科における外来看護の役割を理解し、看護者の関わりの実際を学ぶことができる。 						
授業計画・授業内容 《精神看護実習 I オリエンテーション》 学内 0.05 単位 目的：精神看護実習 I の臨地実習についての説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前に実施 1.5 時間（学内で実施） 1 日間 実習要綱を使用し、実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《精神科デイケア》臨地 0.47 単位 目的：実習目的に準じる 方法：9：00～17：00（7.0 時間） 臨地実習 2 日間 実習要綱を十分に解釈し、本日の実習目標を立案し、日々効果的な実習を行う。 本日の実習目標を所定の用紙に記載する。 実習中は指導者の指示に従い、援助の実際を必ず見学してから実施する。 毎日、日々の振り返りを行い、次の実習に活かす。 《精神科デイケアの学内》学内 0.15 単位 目的：精神の健康保持・増進を目的とした精神保健活動で体験した学びを振り返り、対象への関わりの実際について学びを深める。 方法：9：00～14：40（4.5 時間） 実習を振り返り、精神保健活動について実習記録にまとめる。 《精神科外来》臨地 0.23 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：45～16：45（7 時間） 臨地実習 1 日間 外来処置室、診察室介助を見学する。 《精神科外来の学内》学内 0.1 単位 目的：精神の健康保持・増進を目的とした精神保健活動を体験し、対象への関わりの実際について学びを深める。 方法：9：00～12：15（3 時間） 1 日間 実習を振り返り、精神保健活動についてレポートにまとめる。 臨地実習 0.7 単位 学内実習 0.3 単位 ※他詳細については、実習要綱を参照してください。						

評価方法	《デイケア》《外来》 それぞれ評価表にて評価する。指導者と教員合わせて 100 点満点とし、60 点未満は不合格とする。
使用教科書 特になし	
参考書	武井麻子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 第 6 版第 1 刷, 医学書院 武井麻子著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 第 6 版第 1 刷, 医学書院
その他	特になし

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	精神看護実習Ⅱ	○	笹木 郁哉	3	2(60)	前期
授業概要 精神障がいをもつ対象とのかかわりのプロセスを通して対象を理解し、精神看護の実際を学ぶ。						
目的 精神障がいをもつ対象とのかかわりのプロセスを通して対象を理解し、精神看護の実際を学ぶ。						
到達目標 1. 精神障がいをもつ対象の理解ができる。 2. 自己洞察を通して他者理解を深め、実践的な看護に役立たせることができる。 3. 精神障がいをもつ対象への看護の実際と保健・医療・福祉チームの連携について理解できる。 4. 精神看護の場に関心を示し、意欲的及び積極的に実習に取り組むことができる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《精神看護実習Ⅱオリエンテーション》学内 0.05 単位 目的：精神看護実習Ⅱの臨地実習についての説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前に実施 1.5 時間（学内で実施）1 日間 実習要綱を使用し、実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《精神科病棟》臨地 1.6 単位 目的：実習目的に準じる 方法：8：30～15：30（6.0 時間） 臨地実習 8 日間 実習要綱を十分に解釈し、本日の実習目標を立案し、日々効果的な実習を行う。 指導者の指示に従い、複数の対象とコミュニケーションを図る。 本日の実習目標を所定の用紙に記載する。 関心を持った対象の情報を収集し、精神・身体・社会的側面（以下三側面とする）を整理し、関わりの場面からプロセスレコードで振り返る。その振り返りを通して、気付いたことをその後の患者との相互作用に活かし、再度プロセスレコードで振り返り学びを深める。 《学内》学内 0.35 単位 目的：精神障がいを持つ対象との関わりのプロセスを通して対象との関わりを振り返り、精神看護の実際について学びを深める。 方法：9：00～16：20（6 時間）1 日間 9：00～14：40（4.5 時間）1 日間 プロセスレコードにて対象との場面を取り上げ、自己の思考、感情、言動が対象に及ぼす影響について振り返り、客観的思考の学びを深める。 収集した情報から対象の精神的・身体的・社会的側面を分析し、対象への看護についてまとめる。 臨地実習 1.6 単位 学内実習 0.4 単位 ※他詳細については、実習要綱を参照してください。						
評価方法 評価表にて評価する。100 点満点とし、60 点未満は不合格とする						
使用教科書 特になし						
参考書 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 第 6 版第 1 刷、医学書院 武井麻子著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 第 6 版第 1 刷、医学書院						
その他 特になし						

分野	科目名	実務経験	担当教員	年次	単位（時間数）	時期
専門分野	統合実習	○	笹木 郁哉	3	2 (60)	後期
授業概要 これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、医療チームの一員としての役割遂行をめざした看護実践力を身につける。また、看護専門職としての役割、責務、態度について学ぶ。						
到達目標 1. 複数の患者を受け持ち、優先順位を考え患者の個別性に合わせた看護援助を実施できる。 2. 夜間帯の実習を通して、看護師の役割や業務が理解できる。 3. 医療チームの一員として、看護職や他職種と協働・連携ができる。 4. 看護学生として責任ある行動ができる。 5. 看護専門職としての役割を理解し、自己の課題を明らかにできる。						
授業計画・授業内容 授業形態： 実習 《オリエンテーション》 学内単位 0.1 単位 目的：基礎看護実習Ⅰの臨地実習について説明を受けることで、実習を円滑に行う。 方法：実習前に実施 1.5 時間 2 日間（学内で実施） 実習要綱を使用し実習目的・目標・方法・評価・留意点を確認する。 《病棟》 臨地 1.4 単位 目的：実習目的に準ずる 方法：8：30～16：30（7 時間） 臨地実習は 5 日間 毎日、その日の計画を立てて実習に臨む 2名の患者を受け持ち、情報収集をもとに分析し、優先順位を考え、患者の個別性に合わせた援助を実施するため、2名の患者の看護展開をする 受け持ち患者に行われている看護を見学し、指導者の指導のもとに実施または介助する メンバーと情報共有し、協力してお互いの受け持ち患者の援助を実施する 最終実習 2 日間は、リーダーや部屋担当看護師と一緒に行動し看護の実際を知る ・夜間臨地実習は 1 日 13：00～21：30（7 時間） 夜間帯の患者の様子や訴えなど、日中との違いや心理的变化を理解する 看護師の役割や業務内容が理解する 夜間チームにおける役割分担とチーム連携を理解する 《統合実習の学内》学内 0.5 単位 目的：受け持ち患者に実施する技術や援助の習得や不足な知識を補うため 方法：9：00～16：20（6 時間）1 日間 ・9：00～12：15（3 時間）3 日間 2名の受け持ち患者の看護の方向性を明確にするため思考整理、看護計画の修正と技術練習 臨地実習 1.4 単位 学内実習 0.6 単位 ※他詳細については、実習要項を参照してください。						
評価方法 実習評価表にて評価する。100 点満点とし 60 点以上を合格、60 点未満は不合格とする						
使用教科書 特になし						
参考書 特になし						
その他 1. 実習記録を綴るファイル（A4 サイズ）、事前学習を整理するバインダー（A4 サイズ） 2. 記録用紙、メモ帳、筆記用具						

